# 福岡市 埋蔵文化財年報 Vol.11 1996年度 (平成8年度)





有田遺跡

1 9 9 8 福岡市教育委員会

平成8年度は昨年に引き続き経済の停滞、或いは低成長期にあたり、経済活動は一時の活況はなく、成長なき安定といわれる状況が続いていた。そのような社会情勢を反映して本市においては、都市基盤整備、各種施設の建設、民間による大規模の開発等も減少化の傾向がみられ、その結果、事前審査件数は減少した。ただ民間の小規模の開発が増加したこと及び九州大学移転予定地内の確認調査が加わったことなどで、発掘調査の件数は依然として多く、その結果地域の歴史を明らかにする新しい発見が多数ありました。

本書は平成8年度に調査を実施した埋蔵文化財についての概要を記しています。文化財に対する理解の一助となり、活用されることを切望致しますとともに、今後とも皆様方のご協力がが得られれば幸いに存じます。

平成10年3月10日 福岡市教育委員会

教育長 町田英俊

#### 例 言

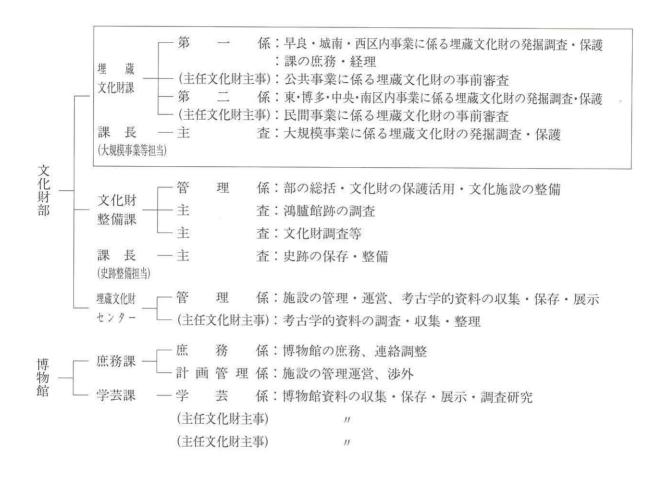
- 1. 本書は教育委員会埋蔵文化財課が平成8年度に実施した各種の開発事業等に伴う事前審査と発掘調査の概要を記したものである。
- 2. 調査報告収録分は、主に平成8年度に発掘調査を 実施した遺跡で、整理、報告書作成費の予算措置 が無いものである。位置図は縮尺が明示されてい ないものは1/8,000である。
- 3. 本書の作成は事前審査担当者の協力のもとに松村が行った。なお、発掘調査の概要、報告は各調査担当者が分担執筆し、IIIについては文化財整備課の三木隆行氏にお願いした。

#### 目 次

胆及古兰帝木

T		171	九 手 刖,	且且	
	1	)	平成8	(1996)	年度の概要・・・・・・1
	2	)	試掘調	查一覧・・	2
Π		発	掘調査の	の概要	*
	1	)	平成8	(1996)	年度の概要・・・・・・・9
	2	)	発掘調	查一覧…	10
	3	)	各調査(	の概要及	び調査報告・・・・・・14
Ш		4	成8年	度の文化	財指定97
竹		平	成8年	度(1996)	年度刊行報告書一覧100

#### 平成8年(1996)年度の組織



#### 埋蔵文化財課の構成

課 長:荒巻輝勝

第 一 係 長:横山邦継

主任文化財主事:飛高憲雄 井澤洋一 杉山富雄

係 員:(文化財主事) 米倉秀紀 荒牧宏行 加藤良彦 菅波正人 榎本義嗣 屋山洋

中村啓太郎 白井克也 大塚紀宜 星野恵美 (9月)

(事務) 内野保基 小森彰 西田結香

第 二 係 長:山口譲治

主任文化財主事:力武卓治 松村道博 下村智

係 員:(文化財主事) 大庭康時 佐藤一郎 瀧本正志 宮井善朗 池田祐司 長家伸

加藤隆也 田上勇一郎 井上繭子・本田浩二郎 (9月)

課 長 : 山崎純男 (大規模事業等担当)

主 查 :池崎譲二

係 員 :(文化財主事)小林義彦 久住猛雄 松浦一之介

#### I 開発事前審查

本市において、土木工事など各種開発等に係る埋蔵文化財の事前審査は、昭和53年度から実施した 分布調査の成果(福岡市文化財分布地図)及びその改訂版を基本とし、昨年度までの発掘調査及び試 掘調査の成果をもとにして行っている。

文化財分布地図は市役所各開発部局および関係する公共機関等に配布し、周知化を図るとともに、 事業計画策定段階での活用をお願いしている。また、民間の各種開発関係、不動産取引関係者などに は埋蔵文化財課窓口での分布地図閲覧や各種の相談に応じている。その際に文化財保護法の趣旨及び 手続きなどの説明をするとともに、文化財保護について協力をお願いしている。

#### 平成8 (1996) 年度の概要

平成8年度中に埋蔵文化財課に提出された公共及び民間開発事業等に伴う事前審査の申請(『埋蔵文化財事前審査申請』および『事業計画書』)の件数は、下表に示すように公共事業899件、民間事業561件の計1,460件であった。また、事前審査窓口に備え付けた『文化財分布地図』の閲覧及び相談は2,178件であった。申請の件数はほぼ同様で、窓口の相談は不動産売買に伴うものが多く、経済活動を反映して減少の傾向を示す。

事業別割合では、公共事業が昨年比22%増加している。事業計画の周知徹底によるもので、必ずしも事業の増加とは比例しない。民間事業はほぼ同数であり、埋蔵文化財の周知化を考慮すれば、経済活動の停滞を伺わせるものであろう。 各区別に見ていくと西区が309件と多く、次いで博多区、早良区の284件となる。昨年までは博多区が300件を超えていたが西部地区の申請が増加の傾向を示す。これは外環状線の一部開通により、その周辺の開発が進んだことによるものであろう。南区は少ないが201件で50%以上増加しているが、大部分は下水道の工事によるものである。中央区は遺跡の数が少ないため83件と著しく少ない。東区は昨年よりわずかに減少している。

事前審査の内訳は80%が書類による審査である。これは公共事業の事業照会による審査は翌年度事業にかかるもので書類審査のみであること、及び民間事業に伴うものは周辺地域の試掘結果を利用しているためである。

事前審査件数の推移

1	11	t.
- (	14	
- 1		17

		H.3年	H.4年	H.5年	H.6年	H.7年	H.8年
民	間	457	443	511	478	560	561
公	共	492	653	709	640	739	899
1111	†	949	1,096	1,220	1,118	1,299	1,460

事前審査の内訳 (件)

		H.3年	H.4年	H.5年	H.6年	H.7年	H.8年
書	類	739	693	927	830	937	804
踏	查	90	5	11	26	43	38
試	掘	244	331	300	239	369	208
立	会	27	123	25	23	50	30

平成8年度事前審査件数

		書類	試掘	踏查	工事立会	総数	閲覧数
東	X	122 50	3 17	1 3	2 2	129 73	309
南	X	138 31	4 18	0 6	4 0	146 55	332
博 纟	医区	80 99	20 60	0 9	11 2	111 173	529
中步	ト 区	65 13	0 4	0	0 1	65 18	295
城南	区	30 25	6 3	3 7	0 1	39 36	158
早月	区	156 73	7 39	0 8	1 0	164 120	328
西	X	217 63	6 17	0 4	0 2	223 86	227
ì	†	805 358	46 158	4 34	18 8	899 561	2, 178

(上段は公共事業、下段は民間事業の件数)

#### 試 掘 調 査 一 覧

※遺跡の名称が空白なものは 周知の遺跡の範囲外である。

#### 東区

1	- December 1									
番	遺	跡	調査日	種 別	面積	遺跡の	調査後の	地図	調査の所見	審查
号	名 称	所 在 地			(m²)	有 無	措置	番号		番号
1	蒲田部木原	蒲田2丁目787他	96.4.15	倉庫	19,008	有	発掘調査	2 蒲田	調査番号9652	7-2-519
2	箱 崎	箱崎3丁目2410-1	96.4.18	共同住宅	266	無		34箱崎	遺構、遺物なし	7-2-493
3	箱 崎	箱崎3丁目	96.4.23	道路整備	1,600	有	発掘調査	34箱崎	調查番号9646	
4		松田2丁目	96.5.21		24,000	無		20津屋本町	耕作土下は黄褐色シルトで遺構、遺物なし	
5	箱 崎	箱崎1丁目2549-1他	96.5.30	自宅兼共同住宅	486	有	発掘調査	34箱崎	調查番号9643	8-2-44
6	蒲田部木原	蒲田 3 丁目770-4	96.6.4	宅地分譲	2,227	有	慎重工事	40蒲田部木原	地表した270cmで包含層を確認	8-2-40
7		三苫地内	96.6.13	道路改良	70,000	有	発掘調査	28三苫	調查番号9636	8-1-9
8	蒲田部木原	蒲田 2 丁目867-1	96.7.4	倉庫	7,362	無		2 蒲田		8-2-143
9	吉塚本町	馬出 6 丁目146番	96.7.16	共同住宅	1,623	無		35吉塚		8-2-170
10		香椎 4 丁目	96.7.16	車庫改築	121	無		17浜男	香椎A遺跡隣接地。削平を受け、遺構、遺物なし	8-2-486
11	箱 崎	箱崎1丁目2453	96.7.31	事務所·共同住宅	494	有	慎重工事	34箱崎	谷部で数本の杭を検出	8-2-186
12	箱 崎	馬出2丁目685-3	96.7.31	店舗	522	有	工事立会	34箱崎	近世の土坑がわずかに検出	8-2-136
13	元寇防塁	馬出4丁目2番25号	96.8.8	売買	397	無		34箱崎		8-2-167
14	箱 崎	箱崎1丁目1935-1	96.8.9	共同住宅	220	有	発掘調査	34箱崎	調查番号9644	8-2-219
15		香椎 3 丁目1314番	96.10.21	共同住宅	909	無		17浜男	盛土の下は灰色粘質土で湧水が著しく遺構・遺物はない	8-2-380
16	三 苫	三苫6丁目11-13	96.11.5	共同住宅	930	無		27三苫北部		8-2-330
17	蒲田部木原	蒲田 2 丁目863-1	97.2.7	倉庫	3,189	有	慎重工事	2 蒲田		8-2-446
18	カケ塚	大字蒲田字祝田805-1	97.2.26	事務所	4,102	無		2 蒲田		8-2-478
19	名島城跡	名島 3 丁目2464番1	97.3.5	専用住宅	617	無		32名島		8-2-441
20	箱 崎	箱崎3-3264他	97.3.2	病院建設	746	有	発掘調査	34箱崎	調查番号9712	8-2-530

### 博多区

番	遺	跡	- 調査日	種別	面積	遺跡の	調査後の	地図	調査の所見	審査
뭉	名 称	所 在 地	前直.口	性 加	回 作 (m²)	有 無	措置	番号	別・直・マケードリープに	番号
21	麦野C	麦野 5 丁目3-35	96.4.2	共同住宅	575	無		12麦野	遺構・遺物なし	7-2-505
22	那珂	竹下5丁目59-1	96.4.1					38塩原		7-2-35
23		下月隈地内	96.4.10	空港整備	30,000	無		10下月隈	遺構・遺物なし	7-1-622
24	那珂	竹下 5 丁目435	96.4.16	専用住宅	1,078	有	慎重工事	38塩原	0.4mで包含層を確認	7-2-524
25	那珂	那珂 2 丁目165番	96.4.18	共同住宅	146	有	工事立会	38塩原		8-2-2
26		井相田2丁目	96.5.8	道路改良	1,100	無		12麦野	井相田遺跡群隣接。0.8mで粗砂層。	8-1-15
27	博 多	店屋町7番	96.5.15	駐車場	204	有	慎重工事	49天神	2 m以上でピット、土坑を確認	8-2-41
28	三 筑	三筑2丁目16-1	96.5.15	売買	480	無		25井尻	1.1mで河川を確認	8-2-43

29	博 多	古門戸町須崎9番187	96.5.15	共同住宅	404	有	工事立会	48千代・博多	1.5mで近世の遺構を確認	8-2-48
30	井相田D	大字板付字小橋	96.5.20	店舗	4,899	無		24板付	2.1mで水田面を確認。畦畔、時期不明	8-2-52
31	博 多	綱場町98、99番地	96.5.22	事務所	585	有	工事立会	48千代・博多	1.75mで近世染め付け類、2.8mで青磁出土、遺構は不明	8-2-58
32	笹 原	師岡 5 丁目231番	96.5.28	共同住宅	706	無		25井尻	1 mで粗砂、遺構、遺物無し	8-2-34
33	雑餉隈	新和町2丁目16番16	96.5.28	共同住宅	486	無		13雑餉隈	旧地表下1mで粗砂、	8-2-67
34	吉塚本町	吉塚本町130-9	96.5.29	事務所	1,616	無		35吉塚	0.7mで黄褐色砂、遺構、遺物無し	8-1-562
35	板 付	板付5丁目3-61	96.6.4	共同住宅	434	有	慎重工事	24板付	1.5mで遺構確認	8-2-87
36	比 恵	博多駅南4丁目120-1	96.6.4	立体駐車場	492	有	発掘調査	37東光寺	調査番号9627	8-2-62
37	板 付	板付5丁目686番8	96.6.12	店舗	343	有	慎重工事	24板付	1.5mで溝確認	8-2-95
38	那珂	竹下 5 丁目19-32	96.6.12	専用住宅	522	有	慎重工事	38塩原		8-2-18
39	博 多	祇園町2-1	96.6.12	売買	92	有	発掘調査	49天神	調査番号9633	7-2-534
40	三筑生産	三筑 2 丁目17番2	96.6.18	共同住宅	999	有	工事立会	25井尻	水田面は確認できたが畦畔不明	8-2-117
41	下月隈	下月隈地内	96.6.19	道路改良	2,500	無		10下月隈	遺構、遺物無し	8-1-22
42		博多駅東3丁目108番地	96.6.27	店舗	2,631	無		36博多		8-2-132
43	那 珂	東光寺1丁目146番1	96.6.27	専用住宅	165	有	慎重工事	37東光寺	0.2mのロームでピット確認。盛り土保存で対応	8-2-151
44	那珂	東光寺1丁目223番	96.6.27	専用住宅	165	有	発掘調査	37東光寺	調查番号9702	8-2-168
45	那珂	竹下 5 丁目59-3	96.6.27	専用住宅	148	有	発掘調査	38塩原	調査番号9770	8-2-122
46	吉 塚	堅粕 4 丁目323-1	96.7.10	共同住宅	227	無		36博多駅	古代の遺物が少量出土、遺構はない	8-2-120
47	井相田C	麦野3丁目7番1号	96.7.10	事務所	1,485	有	工事立会	12麦野	2.7mより中世土器片及び杭1本出土	8-2-129
48	麦野 C	銀天町2丁目3-6	96.7.11	共同ビル	309	有	発掘調査	12麦野	調查番号9628	8-2-79
49	那珂	那珂 6 丁目	96.7.16	道路整備	9,600	有	発掘調査	38塩原	調查番号9645	5-1-647
50	吉 塚	吉塚 3 丁目278-38	96.7.17	共同住宅	314	無		35吉塚		8-2-184
51	比 恵	博多駅南4丁目62	96.7.17	看板設置	6	無		37東光寺		7-2-325
52	比 恵	竹下2丁目58番5	96.7.18	共同住宅	201	無		37東光寺	1.5mで粗砂、遺構遺物はない	8-2-124
53	<u> </u>	豊1丁目8番13号	96.7.23	共同住宅	1,984	無		36博多駅		8-2-107
54	板 付	板付2丁目	96.7.24	公園整備	1,860	無		24板付		8-1-586
55	吉 塚	吉塚 3 丁目	96.8.6	道路改良	5,550	有	発掘調査	35吉塚	調査番号9640	8-1-6
56	雑餉隈	元町3丁目1番	96.8.8	共同住宅	824	有	発掘調査	13雑餉隈	調査番号9648	8-2-204
57	博多	下呉服町411	96.8.25	共同ビル	333	有	工事立会	48千代・博多	近世の土坑・ピットを確認	8-2-109
58	板 付	板付2丁目1-41	96.8.28	自宅兼事務所	740	有	慎重工事	24板付	水田面は確認できるが畦畔、時期は不明	8-2-233
59		東月隈 3 丁目	96.8.29	公園整備	9,000	無		9 東平尾	谷部に当たり遺構遺物はない	8-1-370
60	那 珂	竹下3丁目1-1	96.9.3	工場整備	350	無		37東光寺	削平を受け遺構、遺物なし	8-2-226
61	比 恵	博多駅南 4 丁目210番1	96.9.17	事務所兼倉庫	495	有	工事立会	37東光寺	1.5mで水田を確認したが時期、畦畔は不明	8-2-131
62	榎 田	上牟田1丁目48番	96.9.18	売買	518	無		36博多駅	1.5mでシルト、砂層となり遺構、遺物はない	8-2-282
63		千代1丁目19	96.9.19	施設建設	254	無		35吉塚	遺構・遺物なし	8-1-380
64	南八幡	南八幡 1 丁目25-4	96.9.24	共同住宅兼事務所	402	無		25井尻		8-2-260
65	諸	諸岡 4 丁目130番1	96.9.24	専用住宅	312	無		25井尻		8-2-271
66	博 多	上呉服町5-172	96.9.27	店舗兼工場	277	無		48千代・博多	1.8mまで近世以降の撹乱、その下は砂層で遺構、遺物はない	8-2-262

					,			,	<	
67	比 恵	博多駅南4丁目	96.9.27	共同住宅	421	無		37東光寺		8-2-280
68	博 多	中呉服町2-18	96.10.8	事務所	571	有	発掘調査	48千代·博多	調査番号9647	7-2-529
69	諸	諸岡 2 丁目2-37	96.10.11	共同住宅	1,922	無		24板付		8-2-297
70	那珂	那珂 1 丁目8-27	96.10.22	共同住宅	631	有	慎重工事	37東光寺	ピットを僅かに検出	8-2-324
71	博 多	御供所町8-15	96.10.30	売買	317	無		49天神	li li	8-2-328
72	博 多	下呉服町484	96.10.30	事務所	331	有	発掘調査	48千代・博多	調査番号9618	8-2-292
73	吉 塚	吉塚 3 丁目268番 1	96.11.7	事務所	1,199	無		35吉塚		8-2-310
74		東平尾1丁目182-1	96.11.7	店舗	2,168	無		22上臼井	青木遺跡群隣接	8-2-343
75	立花寺B	立花寺地内	96.11.14	道路建設	1,800	無		11金隈	遺構・遺物なし	8-1-612
76		井相田2丁目地内	96.11.27	道路改良	677	無		12麦野	井相田A隣接	8-1-15
77	麦 野	南本町2丁目	96.11.28	共同住宅	508	有	発掘調査	12麦野	調查番号9661	7-1-664
78	堅 粕	千代4丁目	96.11.29	道路建設	2,220	有	発掘調査	35吉塚		8-1-629
79	那 珂	竹下3丁目1番1号	96.12.3	工場建設	235	無		37東光寺		8-2-314
80	井相田 C	井相田2丁目2番16	96.12.3	売買	1,317	有	協議中	12麦野	古墳時代竪穴住居を確認	8-2-390
81	板 付	板付2丁目9-5	96.12.10	戸建分譲	249	有	慎重工事	24板付	八女粘土面でピットを確認	8-2-395
82	比 恵	博多駅南5丁目89他	96.12.10	共同住宅	596	有	発掘調査	37東光寺	調查番号9668	8-2-399
83	上月隈	上月隈地内	96.12.17	公園建設	21,000	有	発掘調査	10下月隈		8-1-599
84	板 付	板付5丁目2-24	96.12.17	事務所	322	有	慎重工事	24板付		8-2-397
85	那珂	竹下5丁目169番	96.12.24	専用住宅	255	有	慎重工事	38塩原		8-2-402
86	麦野 A	麦野5丁目8番	97.1.7	共同住宅	2,616	無		12麦野		8-2-408
87	笹 原	諸岡 6 丁目140	97.1.7	戸建分譲	289	有	慎重工事	25井尻		8-2-411
88	南八幡	竹丘1丁目16-2	97.1.7	自宅兼共同住宅	129	無		12麦野		8-2-366
89	高 畑	板付6丁目1-1	97.1.7	学生寮	850	有	発掘調査	24板付	ii	8-1-649
90	那珂	竹下5丁目154他	97.1.23		1,570	無		38塩原		8-2-410
91	吉塚本町	千代1丁目572	97.1.23		387			35吉塚		8-2-439
92	堅 粕	千代1丁目	97.1.29	道路整備	2,200	有	工事立会	35吉塚	古代土坑検出	8-1-629
93	吉塚祝町	吉塚2丁目	97.1.29	道路整備	8,160	有	発掘調査	35吉塚	調査番号9723	9-1-78
94	堅 粕	千代1丁目地内	97.2.4		450			35吉塚		9-1-76
95	吉 塚	堅粕429-1	97.2.12		705	有	発掘調査	36博多駅	ā	8-2-469
96	那珂君休	那珂 4 丁目312	97.2.17	共同住宅	1,009	有	発掘調査	24板付		8-2-486
97	比 恵	博多駅南5丁目51-1	97.3.5	売買	396	無		37東光寺		8-2-489
97	博 多	上呉服町	97.3.17	街路整備	2,600	有	発掘調査	48千代・博多	調查番号9752	9-1-80
98	比 恵	博多駅南6丁目25番1	97.3.24	事務所	555	有	発掘調査	37東光寺	調査番号9720	8-2-504
99	豊	東光寺2丁目143番	97.3.24	売買	879	無		36博多駅		8-2-531
100		東比恵 3 丁目	97.3.25	共同住宅	11,414	有	発掘調査	36博多駅	調査番号9726	7-1-679

#### 中央区

番	造	跡	- 調査日	種 別	面積	遺跡の	調査後の	地図	調査の所見	審査
号	名 称	所 在 地	一 问 直 口	个里 万寸	(m²)	有 無	措置	番号	ри <u>та.</u> v, //1 /u	番号
101	福岡城	大名1丁目350番1	96.6.1	共同住宅	493	無	工事立会	49天神	工事立会で福岡城中堀の石垣を確認し本調査に変更する。調査番号9630	8-2-88
102	福岡城	大名445-1	96.9.1	事務所	501	無	工事立会	49舞鶴	二回目の試掘調査で福岡城中堀の石垣を確認し本調査に変更する。調査番号9639	8-2-252
103		警固 2 丁目1-1	96.10.2	学校施設	800	無		61六本松		8-2-284
104	福岡城	黒門3-2	96.11.1	教務所	955	無		60舞鶴		8-2-224

#### 城南区

クシ	计区									
番	遺	跡	調査日	種 別	面 積	遺跡の	調査後の	地図	調査の所見	審查
号	名 称	所 在 地	利可自.口	化里 力引	(m²)	有 無	措 置	番号	种 且 V //  //  //	番号
105	西ノ堤池	片江4丁目5-1	96.4.3	学校施設	931	無		74七隈	1.2mの盛り土、遺構、遺物なし	8-1-518
106	飯倉H	梅林 5 丁目227-15他	96.4.4	通信施設	240	無		83野芥	遺構、遺物なし	7-2-491
107	長 尾	長尾 4 丁目5番324他	96.7.11	事務所	483	無		63長尾		8-2-171
108		田島1・2丁目	96.8.7	道路建設	16,940	無		72荒江	削平を受け遺構・遺物なし	8-1-444
109		梅林 3 丁目56-2	96.9.10	公園整備	1,200	無		74七隈		8-1-373
110	樋井川A	樋井川2丁目	96.11.19	団地建替	9,622	有	発掘調査	63長尾	調査番号9664	8-1-585
111		別府団地	97.1.9	公団建設	31,000	無		61六本松		8-1-42
112	飯倉日	梅林 5 丁目228他	97.1.29	分譲住宅	2,169	有	発掘調査	83野芥	調査番号9672	8-2-450
113	3	城西団地	97.1.14	団地建替	12,460	無		73荒江		8-1-43
						-			-	

#### 南区

113	E-									
番	遺	跡	調査日	種 別	面積	遺跡の	調査後の	地 図	調査の所見	審査
号	名 称	所 在 地	神旦.口	作生 力り	(m²)	有 無	措 置	番号	pin 正、*/2 //1 //L	番号
114		老司 3 丁目33-1	96.6.5	病院増築	29,226	無		40老司	卯内尺古墳隣接	8-2-38
115	太平寺	太平寺 2 丁目341-39	96.6.24	共同住宅	536	無		64東油山		8-2-56
116	井 尻 B	井尻1丁目114-2他	96.6.25	共同住宅	594	無		25井尻		8-2-134
117	野多目C	野多目 4 丁目276-1	96.7.11	専用住宅	364	有	慎重工事	40老司	1.1mでピット、溝を検出	8-2-155
118	花畑A	花畑3丁目576	96.7.23	共同住宅	333	無		53屋形原		8-2-177
119	井 尻 B	井尻1丁目114番1	96.8.20	共同住宅	760	有	工事立会	25井尻	ピット1個を確認	8-2-89
120	警 弥 郷	弥永 5 丁目15番 1	96.8.28	共同住宅	1,687	無		41警弥鄉		8-2-220
121	五十川	五十川2丁目562	96.9.28	自宅兼共同住宅	764	無		24板付	0.5mでローム層、遺構、遺物無し	8-2-278
122	大橋 E	大橋 4 丁目1121-9	96.10.2	自宅兼店舗	140	無		39三宅	谷部に当たり遺構、遺物無し	8-2-295
123	弥永原	曰佐3丁目88-1	96.10.29	売買	915	有	発掘調査	26日佐	調査番号9653	8-2-333
124	中村町	野間 4 丁目	96.11.27	道路改良	1,200	有	発掘調査	51高宮	調査番号9654	8-1-387
125		清水2丁目地内	96.12.3	住宅建設	21,932	無		38塩原	旧河道にあたり遺構、遺物無し	8-1-398
126	花畑A	柏原 1 丁目68-1他	96.12.10	共同住宅	207	無		53屋形原		8-2-341
127		井尻 4 丁目954番	96.12.12	売買	451	無		25井尻	井尻A隣接	8-2-389
					-					

桧 原	大字桧原地内	96.12.25	公園建設	16,400	無		65山田		6-1-152
花畑A	桧原1丁目690-7他	97.1.13	給油所	331	無		53屋形原	×.	8-2-436
太平寺	太平寺1丁目283-1	97.1.29	共同住宅	2,206	無		53屋形原		8-2-392
	井尻2~3丁目	97.1.22	道路整備	3,300	無		25井尻		8-1-382
井 尻 B	井尻1丁目115番5	97.3.5	共同住宅	265	有	工事立会	25井尻	ピット、溝検出	8-2-501
横 手	横手 3 丁目319番 1	97.3.11	専用住宅	461	有	慎重工事	39三宅	ピットを数個検出	8-2-523
野多目C	老司 2 丁目214-6	97.3.7	共同住宅	795	無		40老司		8-2-470
老司池	老司 5 丁目635-27	97.3.7	戸建分譲	2,400	無		41警弥郷		8-2-500
	花 畑 A 太 平 寺 井 尻 B 横 手 野多目C	花 畑 A 桧原1丁目690-7他 太 平 寺 太平寺1丁目283-1 井尻2~3丁目 井 尻 B 井尻1丁目115番5 横 手 横手3丁目319番1 野多目C 老司2丁目214-6	花 畑 A 桧原1丁目690-7他 97.1.13 太 平 寺 太平寺1丁目283-1 97.1.29	花 畑 A 桧原1丁目690-7他 97.1.13 給油所 太 平 寺 太平寺1丁目283-1 97.1.29 共同住宅	花 畑 A 桧原1丁目690-7他 97.1.13 給油所 331 太 平 寺 太平寺1丁目283-1 97.1.29 共同住宅 2,206 井尻2~3丁目 97.1.22 道路整備 3,300 井 尻 B 井尻1丁目115番5 97.3.5 共同住宅 265 横 手 横手3丁目319番1 97.3.11 専用住宅 461 野多目C 老司2丁目214-6 97.3.7 共同住宅 795	花 畑 A 桧原1丁目690-7他 97.1.13 給油所 331 無 太 平 寺 太平寺1丁目283-1 97.1.29 共同住宅 2,206 無 井尻2~3丁目 97.1.22 道路整備 3,300 無 井 尻 B 井尻1丁目115番5 97.3.5 共同住宅 265 有 横 手 横手3丁目319番1 97.3.11 専用住宅 461 有 野多目C 老司2丁目214-6 97.3.7 共同住宅 795 無	花 畑 A 桧原1丁目690-7他 97.1.13 給油所 331 無 太 平 寺 太平寺1丁目283-1 97.1.29 共同住宅 2,206 無	花 畑 A 桧原1丁目690-7他 97.1.13 給油所 331 無 53屋形原 太 平 寺 太平寺1丁目283-1 97.1.29 共同住宅 2,206 無 53屋形原 井尻2~3丁目 97.1.22 道路整備 3,300 無 25井尻 井 尻 B 井尻1丁目115番5 97.3.5 共同住宅 265 有 工事立会 25井尻 横 手 横手3丁目319番1 97.3.11 専用住宅 461 有 慎重工事 39三宅 野多目C 老司2丁目214-6 97.3.7 共同住宅 795 無 40老司	花畑 A 桧原1丁目690-7他 97.1.13 給油所 331 無 53屋形原 太平寺 太平寺1丁目283-1 97.1.29 共同住宅 2,206 無 53屋形原 井尻2~3丁目 97.1.22 道路整備 3,300 無 25井尻 井尻B 井尻1丁目115番5 97.3.5 共同住宅 265 有 工事立会 25井尻 ピット、溝検出 横 手 横手3丁目319番1 97.3.11 専用住宅 461 有 慎重工事 39三宅 ピットを数個検出 野多目C 老司2丁目214-6 97.3.7 共同住宅 795 無 40老司

### 早良区

0.00		V-								
番	遺	跡	3H34: D	II DI	-7: 1#	遺跡の	調査後の	地図		審査
号	名 称	所 在 地	調査日	種 別	面 積 (m²)	有 無	措置	番号	調査の所見	番号
136	原	原 6 丁目30-6	96.4.2	共同住宅	614	無		82原		7-2-300
137	西新町	西新町5丁目637-1、6	96.4.17	共同住宅	469	無	工事立会	72荒江	弥生式土器、須恵器が少量出土	7-2-438
138	原	原 5 丁目16-10	96.4.23	学校施設	855	無		82原	遺構、遺物無し	8-1-523
139	有 田	有田2丁目14番1	96.5.2	専用住宅	285	無		82原	遺構、遺物無し	8-2-13
140	次郎丸	次郎丸2丁目572番1	96.4.26	戸建分譲	1,990	有	工事立会	92戸切	ピット数個確認	8-2-450
141	次郎丸	次郎丸1丁目222-1他	96.5.30	事務所	2,797	無		83野芥	0.5mで灰色砂、遺構、遺物無し	7-2-398
142	有 田	有田1丁目3-1他	96.6.11	共同住宅	718	有	協議中	82原	0.9mでピット、溝を確認	8-2-93
143	有 田	小田部1丁目30	96.6.11	売買	389	無		82原	0.4mでローム層、遺構、遺物無し	8-2-105
144	四箇大町	大字四箇字踊町694番1	96.6.20	戸建分譲	756	無		93都地南	0.7mの灰褐色土で少量の土器片出土	8-2-106
145	有 田	有田1丁目10番4	96.6.25	専用住宅	576	有	発掘調査	82原	調查番号9625	8-2-138
146	田村	田村 3 丁目758番	96.6.30	共同住宅	930	有	発掘調査	93都地	調査番号9624	7-2-514
147	野 芥	野芥2丁目7-21	96.7.3	共同住宅	603	有	発掘調査	83野芥	調査番号9631	8-2-146
148	有 田	有田 1 丁目23-1	96.7.3	戸建分譲	1,529	有	慎重工事	82原	0.7mでピットを確認	8-2-108
149		大字西油山字野中	96.7.31	公園整備	2,200	無		84重留		8-1-371
150	原	原 6 丁目802番地	96.8.18	専用住宅	760	有	発掘調査	82原	調査番号9626	8-2-105
151	野芥大薮	賀茂 2 丁目15-24	96.8.8	共同住宅	384	無		83野芥		8-2-208
152	次郎丸	次郎丸4丁目305-1他	96.8.9	戸建分譲	2,437	有	慎重工事	92戸切	数個のピット確認	8-2-180
153	有 田	有田 2 丁目24-16	96.8.20	倉庫	68	有	発掘調査	82原	調査番号9634	8-2-229
154	有 田	有田1丁目17番3	96.8.30	専用住宅	79	有	慎重工事	82原		8-2-238
155	元寇防塁	西新 2 丁目212番20	96.9.4	共同住宅	201	無		71西新		8-2-200
156	西新町	西新 2 丁目127番21	96.9.4	共同住宅	1,163	無		71西新	1.2mで黄色砂、遺構、遺物なし	8-2-240
157	四箇大町	四箇2丁目字五反田	96.9.27	戸建分譲	1,678	無		93都地		8-2-294
158	重留村下	重留 4 丁目573-1、2	96.10.29	共同住宅	581	有	工事立会	84重留	時期不明のピットを少量検出	8-2-335
159	田 村	田村4丁目553-1、5	96.11.5	共同住宅	932	有	慎重工事	84重留	時期不明のピットの窪みを1基検出	8-2-340
160	原	原 5 丁目1036-1他	96.11.7	病院	504	有	慎重工事	82原	浅いピットを数個検出	8-2-351
161	黒 塔 A	西入部508	96.11.13	道路新設	1,000	有	発掘調査	94金武	調査番号9651	6-2-112
162	山崎製鉄	野芥 6 丁目520番 1	96.11.13	戸建分譲	1,000	無		84重留		8-2-319

163	飯倉C	飯倉6丁目114番4	96.11.21	宅地分譲	694	無		73茶山		8-2-370
164	西新町	西新 5 丁目580	96.12.3	店舗兼住宅	251	無		72荒江		8-2-174
165		大字内野	96.12.11	市営住宅	2,400	無		17内野		8-1-72
166	内 野	内野 5 丁目276番1	96.12.17	戸建分譲	3,375	有	発掘調査	17内野	調查番号9669	8-2-409
167	元寇防塁	百道1丁目807-82	96.12.26	売買	53	無	工事立会	80愛宕山	崩落した頭大の礫が散乱した状況で検出	8-2-415
168		大字内野	96.12.10	市営住宅	3,500	有	発掘調査	17内野	調査番号9665	8-1-
169	西新町	高取1丁目18番	97.1.23	共同住宅	327	無		72荒江		8-2-451
170	藤崎	高取2丁目313、314	97.1.23	専用住宅	214	有	発掘調査	81室見	調查番号9701	8-2-452
171		大字内野	97.1.28	市営住宅	11,300	有	発掘調査	17内野	調查番号9705	8-1-74
172	有 田	南庄 3 丁目164-1	97.1.29	店舗兼住宅	396	無		81室見		8-2-464
173	有 田	有田1丁目13-1、3	97.1.30	専用住宅	737	有	工事立会	82原		8-2-402
174	西新町	西新町3-11-27	97.2.7	病院増築	3,123	無		71西新		8-2-460
175	クエゾノ	梅林 6 丁目324-1	97.2.14	共同住宅	404	無		84重留		8-2-481
176	田村	田村 2 丁目802番1他	97.3.11	宅地分譲	2,996	有	慎重工事	92戸切	·	8-2-480
177	峯	内野西		圃場整備		有	発掘調査	17内野	調査番号9718	9-1-134
178	有 田	有田1丁目32-8	97.3.7	通信施設	265	有	発掘調査	82原	調查番号9676	8-2-502
179	有 田	有田2丁目7番8号	97.3.19	専用住宅	179	有	慎重工事	82原		8-2-538
180	野 芥	野芥、梅林地区	97.3.12	道路新設	44,900	有	発掘調査	83野芥	調查番号9742	8-1-612
181	原	原5丁目	97.3.18	道路整備	1,355	無		82原		9-1-1

#### 西区

건			y=							
番	遺	跡	調査日	種 別	面積	遺跡の	調査後の	地図	調査の所見	審査
号	名 称	所 在 地	即引且。口	4里 が	(m <sup>2</sup> )	有 無	措 置	番号	PS EL 17 7/1 70	番号
182	戸 切	戸切2丁目17-1	96.4.3	学校施設	931	無		92戸切	沖積低地で遺構、遺物無	8-1-520
183	徳 永 A	大字周船寺地内	96.4.24	道路整備	600	有	慎重工事	120周船寺	ピットが僅かに検出	7-1-23
184	今津 B	今津857番	96.4.25	墓地	1,855	無		118今津	遺構、遺物無	8-2-28
185	周船寺	大字千里ミドリ430-3	96.5.22	宅地分譲	1,652	無		132千里	0.3mで灰色シルト遺構、遺物無	8-2-49
186		愛宕4丁目	96.4.16	都市高速	11,489	無		90石丸	遺構、遺物無	8-1-39
187	今宿五郎江	大字今宿町字松本	96.5.28	事務所	1,490	有	慎重工事	112今宿	西側でピットなどの遺構を確認	8-2-47
188	石丸B	石丸3丁目86番8	96.6.11	共同住宅	4,142	無		90石丸	1.5mで暗灰色~暗褐色粘土で遺構、遺物無し	8-2-91
189	姪 浜	姪浜3039-1	96.7.3	共同住宅	413	有	工事立会	89姪ノ浜	砂丘上で近世磁器を出土する土坑を確認	8-2-118
190	今 山	横浜2丁目	96.7.4	道路整備	1,800	有	発掘調査	119今山	調查番号9622	7-1-39
191	橋本一丁田	拾六町1丁目25-3	96.8.13		1,990	有	発掘調査	91橋本	調査番号9733	8-2-214
192	拾六町平田	石丸 4 丁目87番	96.8.20	共同住宅	1,813	無	慎重工事	91橋本	水田面は確認できるが畦畔、磁器は不明	8-2-233
193	青 木	大字今宿青木地内	96.9.12	道路建設	420	有	発掘調査	112今宿	調查番号9642	7-1-21
194	桑原錦田古墳群	大字桑原字錦田1638	96.9.12	整地	337	有	発掘調査	139桑原西部	調查番号9638	8-2-270
195	道 隈	野方2-31-5	96.5.17	宅地分譲	1,110	無		92戸切		8-2-239
196	姪ノ浜	姪ノ浜3丁目3188-1	96.10.8	店舗兼住宅	142	無		89姪浜		8-2-297
197	飯 氏	大字千里扇子	96.10.11	専用住宅	833	有	発掘調査	121飯氏	調査番号9649	8-2-309

8-2-316
8-2-331
8-2-428
8-2-437
8-1-77
8-2-504
8-2-552

#### Ⅱ 発掘調査の概要

本市における埋蔵文化財の発掘調査は、西部地域(早良区、城南区、西区)を本課第一係、東部地域(中央区、博多区、東区、南区)を同二係が担当している。なお、年度の調査量の多少により係間で随時調査業務の補完を行っている。

また、本市では調査資料の保管、管理のため、個々の遺跡の発掘調査に固有の遺跡登録番号・調査番号をつけて登録し、数字・アルファベットで調査資料を検索するシステムを採用している。以下の概要記述で調査番号とするものはこの番号であり、西暦年の下2桁(上2桁)+その年度の調査番号(下2桁)の4桁数字で表示する。さらに調査番号は調査開始のときに設定するため1遺跡の調査が複数年にまたがる場合、開始年度のみに番号が登録される。

#### 1) 平成8(1996)年度の概要

平成8年度実施した発掘調査は、下表の77件と、前年度からの継続調査3件の計80件である。調査件数では博多区が圧倒的に多く28件、早良区14件と西区は九州大学移転予定地内の確認調査が加わり16件でこれら三区で全体の76%を占めている。その他に東区が9件、南区、中央区、城南区で計10件となる。調査原因でみると民間事業に伴う調査では分譲、共同住宅の建設に伴うのが13件と多く、専用住宅等国庫補助金による調査(自宅兼共同住宅、自宅兼店舗、区画整理事業等を含む)が10件となる。大型団地の造成に伴う調査は前年度からの継続調査が2件あり、1年以上の長期に及ぶ調査となっている。公共事業に伴う調査では道路の整備、改良に伴うものが10件、空港整備に伴うのが3件であるが、調査面積は広い。その他では公園整備が1件、確認調査が4件ある。この中で斜ヶ浦瓦窯跡が6基確認され「警固」銘の瓦が出土しているのが注目される。また九州大学移転予定地の分布調査、及び確認調査で前方後円墳7基、円墳群30基、製鉄遺跡群などが確認されている。

#### 発掘調査件数の推移

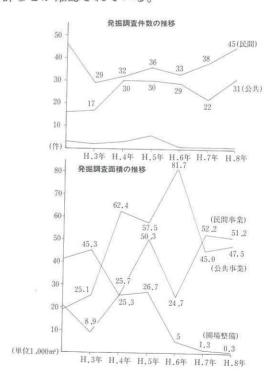
(件)

		H.4年	H.5年	H.6年	H.7年	H.8年
民	間	32	36	33	38	45
圃場	整備	3	6	1.	1	1
公	共	30	30	29	22	29
ì	t	65	72	63	61	75

#### 発掘調査面積の推移

(m<sup>2</sup>)

		H.4年	H.5年	H.6年	H.7年	H.8年
民	間	25,694	50,259	24,689	52,193	51,246
圃場	整備	25,332	26,678	5,000	1,330	308
公	共	62,943	57,517	81,655	44,997	47,454
言	†	113,970	134,455	111,344	98,520	99,008



### 平成8(1996)年度埋蔵文化財発掘調査一覧

調査								
番号	遺跡名	次数	遺跡略号	調査原因	調種	查類	原 因 者	調查地所在地
9601	比恵遺跡群	58	HIE	市営住宅建替	令	達	建築局住宅建築課	博多区博多駅南 4 丁目108-1
9602	元岡遺跡群(試掘調査)	1	MOT	大学移転	公	受	土地開発公社	西区元岡・桑原地区、前原市・志摩町の一部地内
9603	博多遺跡群	97	НКТ	共同住宅	民	受	ライフエステート (株)	博多区冷泉町300-1・2
9604	麦野C遺跡群	3	MGC	病院兼用住宅	民受	·補	戸早雅弘	博多区銀天町3丁目14
9605	那珂君休遺跡群	6	NKR	共同住宅	民	受	三愛建物 (株)	博多区那珂 4 丁目311
9606	那珂遺跡群	57	NAK	個人住宅	国	補	山根清人	博多区竹下5丁目354
9607	有田遺跡群	181	ART	学習塾建設	民	受	坂口武雄	早良区有田2丁目31-4
9608	和田B遺跡群	2	WAB	住宅建設	公	受	福岡市住宅供給公社	南区野多目626-1
9609	雀居遺跡群	10	SAS	空港整備	公	受	運輸省第四港湾建設局	博多区雀居地区内
9610	下月隈C遺跡群	3	SHC	公園整備	公	受	空港周辺整備機構	博多区大字上月隈字天神元246-1外
9611	多々良込田遺跡群	7	TTM	都市高速道路建設	公	受	福岡北九州高速道路公社	東区多の津2丁目地内
9612	那珂君休遺跡群	7	NKR	区画整理	民	受	那珂区画整理組合	博多区那珂 4 丁目地内
9613	麦野B遺跡群	3	MGB	地域拠点施設	令	達	市民局地域振興課	博多区南本町2丁目3番
9614	野方岩名隈遺跡群	1	NKG	医療施設	民	受	博仁会生松原病院	西区野方7丁目786
9615	吉塚遺跡群	3	YSZ	事務所建設	公	受	農林省福岡食料事務所	博多区堅粕 4 丁目406-1.2.306
9616	野芥遺跡群	7	NOK	病院	民	受	医療法人泯江堂	早良区野芥5丁目6-37
9617	福岡城跡	34	FUE	駐車場	市	単	城内1丁目自治会	中央区城内1丁目
9618	博多遺跡群	. 98	HKT	共同住宅	民	受	岡部産業 (株)	博多区中呉服町7-1
9619	那珂遺跡群	58	NAK	共同住宅	民	受	吉村文好	博多区那珂1丁目486,487
9620	福岡城跡	35	FUE	確認調査	市	単	史跡整備確認調査	中央区城南1-1
9621	立花寺B遺跡群	3	RGB	都市高速道路建設	公	受	福岡北九州高速道路公社	博多区大字上月隈~立花寺地内
9622	今山遺跡群	7	IMY	下水道築造	公	受	下水道局	西区横浜1丁目,2丁目
9623	香椎B遺跡群	2	KSB	宅地造成	民	受	国際興業 (株)	東区大字香椎字寺熊1519-1外
9624	田村遺跡群	18	TMR	共同住宅	E	補	重松鈴子	早良区田村3丁目758の一部
9625	有田遺跡群	182	ART	専用住宅	[E]	補	渡辺弘子	早良区有田1丁目10-4
9626	原遺跡群	19	НАА	専用住宅	国	補	大神千秋	早良区原 6 丁目802
9627	比恵遺跡群	59	HIE	駐車場	民	受	シンワ企画 (有)	博多区博多駅前 4 丁目120-1
9628	麦野C遺跡群	4	MGC	飲食店ビル	国	補	松田昇三	博多区銀天町2丁目3-6
9629	藤崎遺跡群	27	FUA	店舗兼駐車場	民	受	村上 要	早良区藤崎1丁目21-1
9630	福岡城跡	36	FUE	共同住宅	市	単	ジョウキュウ	中央区大名1丁目350番1
9631	野芥遺跡群	8	NOK	共同ビル	民	受	永嶌常弘	早良区野芥2丁目7-2
9632	吉塚遺跡群	4	YSZ	共同住宅	民	受	高宮幸文	博多区堅粕 4 丁目509-1他
9633	博多遺跡群	99	НКТ	店舗・駐車場	民	受	中村屋	博多区祇園2番1
9634	有田遺跡群	183	ART	事務所・倉庫	国	補	松尾重樹	早良区有田 2 丁目24-16
9635	金武古墳群吉武G群	1	KYK-G	資材置き場	民	受	吉岡澄男	西区大字吉武字七郎谷765-12他
9636	三苫遺跡群	4	MTM	道路整備	令	達	土木局街路課	東区三苫7丁目地内
	井相田D遺跡群	2	ISD	道路整備	公	受	建設省福岡国道事務所	博多区大字立花寺地内

対象面積	調査面	積	調査期間	担当者	分布地図	细 太 柳 西	可以来
(m²)	( m <sup>2</sup> )	古墳	即 且 积 间	担目有	番号	調査概要	受付番号
1,200	736		960401~960625	大庭	東光寺37-0127	弥生時代後期の井戸・掘立柱建物	7-1-60
2,750,000	8,154	36	960311~960930	池崎・小林	桑原西部140	縄文時代から中世の集落及び製鉄遺跡	
324	300		960403~960725	久住	天神49-0121	古墳時代の集落及び中世の各遺構	1-2-63
320	242		960408~960419	宮井	麦野12-0050	奈良時代の集落	7-2-396
1,112	740		960408~960420	長家	板付24-0086	古墳時代水田跡	8-2-7
120	120		960624~960702	米倉・宮井	東光寺37-0085	古墳時代集落跡	8-2-122
530	494		960415~960615	菅波	原82-0309	弥生時代から平安時代の集落	7-2-373
1,400	920		960415~960705	瀧本	老司40-0318	弥生時代から中世の集落及び古墳時代の水田	7-1-635
5,100	1,310		960513~970130	力武	雀居23-2633	弥生時代から古墳時代の集落及び中世水田	6-1-30
10,000	3,575		960507~961018	宮井	金隈11-2625	古代から中世の水田	5-1-748
1,980	1,280		960510~960809	長家	多々羅19-0074	弥生時代終末の溝及び古墳時代後期の井堰	6-1-70
16,017	11,000		960507~970520	田上・佐藤	板付24-0086	古墳時代水田	7-2-133
5,744	4,068		960603~970331	米倉・加藤	麦野12-0049	旧石器時代の石器、縄文時代の落とし穴、 奈良時代の住居跡、掘立柱建物	5-1-746
886	800		960611~960718	菅波	拾六町104-0870	弥生時代後期から古墳時代の集落	7-2-23
1,155	1,155		960705~960822	佐藤	博多駅36-0123	古代から中世の集落	7-1-678
1,000	800		960701~960809	米倉	重留84-0319	奈良時代の土坑、包含層及び戦国時代の土坑、ピット	7-2-124
650	32		960621~960702	田中	舞鶴60-0193	近世の排水用溝	7-2-420
561	128		960703~960802	大庭	千代博多48-0121	中世集落	7-2-383
750	480		960704~960826	瀧本	東光寺37-0085	弥生時代集落	7-2-384
	450		960704~961130	田中	舞鶴60-0192	奈良時代から近世の鴻臚館及び福岡城関連遺構	
7,611	40		960722	瀧本	金隈11-2626	古代から中世の溝、土坑、柱穴	4-1-225
120	120		960725~960729	米倉	今山119-0620	弥生時代包含層	7-1-39
230,472	3,100		960722~970401	下村・瀧本・本田	城ノ越山6-A-2	古代から中世の館	2-2-231
930	500		960802~960807	菅波	重留84-0317	古代から中世の掘立柱建物	8-2-514
567	351		960801~960812	長家	原82-0309	古代の井戸及び中世後半~近世の堀	8-2-138
215	150		960801~960816	屋山	原82-0311	中世集落	8-2-189
200	131		960731~960826	大庭	東光寺37-0127	弥生時代、古墳時代の集落	8-2-62
308	265		960805~960813	加藤(隆)	麦野12-0050	奈良時代の集落	8-2-79
1,024	300		960820~960917	菅波	室見81-0307	古墳時代墳墓	6-2-333
50	46		960823	池田・長家・久住	天神49-0193	近世堀	8-2-88
603	240		960801~960907	米倉	野茶83-0319	古墳時代の溝・土坑	8-2-146
621	288		960820~961002	大庭	博多駅36-0123	弥生時代から中世の集落	6-2-244
262	200		960819~961021	長家	天神49-0121	古代から中世の集落	7-2-534
67	66		960826~960831	久住	原82-0309	中世集落	8-2-229
2,000	1,543	4	960820~970201	荒牧	乙石107-0600	群集墳 4 基	8-2-80
360	206		960902~960930	久住	三苫28-A-3	中世水田	8-1-9
265,724	2,657		960905~970331	井沢	金隈11-262	古代から中世の水田	4-1-333

9638	桑原錦田古墳群	1	KNK	整地	市	単	宗 正和	西区大字桑原字錦田1638
9639	福岡城跡	37	FUE	事務所	市	単	梨花園	中央区大名445-1
9640	吉塚遺跡群	5	YSZ	道路建設	令	達	土木局街路課	博多区吉塚 3 丁目地内
9641	松木田遺跡群	3	MKD	道路建設	令	達	土木局道路建設第一課	早良区早良3丁目地内
9642	青木遺跡群	3	AOK	道路建設	公	受	建設省福岡国道事務所	西区今宿青木地内
9643	箱崎遺跡	8	HKZ	自宅兼共同住宅	民•	補	楢崎利幸	東区箱崎1丁目2549-1, -6, 2584-4
9644	箱崎遺跡	9	HKZ	共同住宅	民	受	高橋市雄	東区箱崎1丁目1935-1
9645	那珂遺跡群	59	NAK	道路整備	令	達	土木局街路課	博多区那珂 6 丁目地内
9646	箱崎遺跡	10	HKZ	道路整備	令	達	土木局筥崎連続立体開発事務所	東区箱崎3丁目地内
9647	博多遺跡群	100	НКТ	自宅兼事務所ビル	民·	補	白水社 (株)	博多区中呉服町2-18
9648	雑餉隈遺跡群	9	ZSK	共同住宅	民	受	リクルートコスモス (株)	博多区元町3丁目1
9649	飯氏遺跡群	8	ΙΙJ	専用住宅	国	補	田中鉄雄	西区大字千里276-4他
9650	斜ヶ浦瓦窯, 斜ヶ浦製鉄遺跡(1次)	3	NNG	確認調査	围	補	教育委員会埋蔵文化財課	西区生ノ松原4丁目地内
9651	黒塔A遺跡	1	KTA	宅地造成	民	受	西室見開発 (株)	早良区大字西入部地内
9652	蒲田部木原遺跡群	5	КНН	倉庫建設	民	受	安倍秀太,都地進男, 光安辰次郎,安倍秀一	東区蒲田 2 丁目787, 788-1, 789-3他
9653	弥永原遺跡群	5	YNG	宅地造成	民	受	田中 稔	南区曰佐 3 丁目88-1
9654	中村町遺跡	2	NMM	道路整備(拡幅)	令	達	土木局南部街路課	南区野間 4 丁目62-2
9655	伊都区画整理地内試掘調査			区画整理	令	達	都市整備局伊都区画整理事務所	西区今宿・大字女原・徳永地内
9656	桑原石ヶ元古墳群	1	MIM	大学移転	公	受	福岡市土地開発公社	西区桑原地内
9657	桑原金糞古墳	1	KKA	大学移転	公	受	福岡市土地開発公社	西区桑原字金糞
9658	元岡石ヶ原古墳	1	MO I	大学移転	公	受	福岡市土地開発公社	西区元岡字石ヶ原
9659	元岡遺跡群	2	MOT	大学移転	公	受	福岡市土地開発公社	西区桑原字柿ヶ元
9660	博多遺跡群	101	HKT	事務所ビル建設	民	受	日本ドアーチェック製造(株)	博多区下呉服町484
9661	麦野B遺跡群	4	MGB	共同住宅建設	公	受	住宅都市建設公団	博多区南本町2丁目4-2外
9662	元寇防塁	6	GKB-N	住宅建築	市	単	久松光弘	早良区百地1丁目807-82
9663	内野西地区簡場整備 地内遺跡(試掘)			<b>直場整備</b>	令	達	農林水産局農業土木課	早良区大字西地内
9664	樋井川A遺跡群	1	НІА	公園建設	令	達	都市整備局公園計画課	城南区樋井川2丁目21
9665	大坪遺跡	1	OTU	公営住宅建替え	令	達	建築局住宅計画課	早良区内野1丁目387-2
9666	黒塔A遺跡		КТА	農道建設	民	受	西室見開発 (株)	早良区大字入部地内
9667	井尻B遺跡	8	IGB	公団住宅	公	受	住宅都市整備公団	南区井尻1丁目13
9668	比恵遺跡群	60	HIE	共同住宅	民	受	イーグル化粧品 (株)	博多区博多駅南 5 丁目89,89-3
9669	内野遺跡	1	UCN	宅地造成	民	受	重松博幸	早良区内野 5 丁目276-1
9670	雑餉隈遺跡群	10	ZSK	市営住宅建替	令	達	建築局	博多区新和町1丁目6
9671	福岡城跡(潮見櫓跡)	38	FUE	確認調査	市	費	福岡市教育委員会	中央区城内
9672	飯倉日遺跡	2	IKK-H	宅地造成	民	受	岡部治子	城内区梅林5丁目228-5, 229-1, -2, -3
9673	比恵遺跡群	61	HIE	事務所	民	受	九鉄工業 (株)	博多区博多駅南 6 丁目62-1,67
9674	飯氏古墳群B群14号墳	1	IJK-B	重要遺跡確認	围	補	教育委員会埋蔵文化財課	西区大字飯氏字正善寺12,13
9675	雀居遺跡群	11	SAS	空港西側整備	公	受	運輸省第四港湾建設局	博多区雀居地区内
9676	有田遺跡群	184	ART	通信塔建設	民	受	NTT九州移動通信網 (株)	早良区有田1丁目32-8
9677	香椎B遺跡群	3	KSB	宅地造成	民	受	国際興業 (株)	東区大字香椎字寺熊1519-1外

337	64	1	961002	池田	桑原西部139	後期古墳	8-2-27
501	10		960901	池田	天神49-0123	福岡城堀	8-2-25
520	225		961001~961115	瀧本	吉塚35-0123	中世から近世の集落	8-1-6
1,200	1,200		961001~970215	米倉	一つ家16-0789	弥生時代から平安時代の集落	8-1-14
5,000	475		960926~961025	屋山	今宿112-0628	TOTAL TO COMP SET IN THE STREET OF STREET	7-1-23
486	225		961001~961114	囲上	箱崎34-2639	古墳時代から中世集落	8-2-44
220	191		961002~961029	大庭・本田	箱崎34-2639	古代から中世の集落	8-2-219
180	178		961014~961115	宮井	塩原38-0085	古代から中世の包含層	5-1-647
3,800	1,020		961111~970331	田上	箱崎34-2639	中世集落	7-1-610
200	160		961023~961129	大庭	千代博多48-0121	中世から近世の集落	7-2-529
824	733		961023~961129	加藤(隆)	雑餉隈13-0054	古代の建物・土坑	8-2-204
266	308		961106~961211	大塚	飯氏121-0685	弥生時代から古代の集落	8-2-309
800	310		961106~961227	屋山	長重103-0515	古代瓦窯 7 基	9-1-138
1,200	1,190		960911~961105	大塚・米倉・星野	金武94-0450	弥生時代甕棺墓	6-2-112
14,113	924		961021~961116	長家	蒲田2-0003	弥生時代から古墳時代の集落	8-2-519
915	321		961126~961227	宮井	上曰佐26-0105	弥生時代末から古墳時代初頭の集落	8-2-33
200	21		961203~961204	長家・井上	高宮51-0167	時期不明の土坑	8-1-387
,030,000	200		961209~960331	菅波	飯氏121・青木113	古墳時代古代の集落及び水田	8-1-77
5,000	4,734	30	960401~970331	山崎・小林・松浦	桑原西部139	円墳30基	
1,200	605	1	960820~961129	山崎・久住	桑原西部139	全長24mの前方後円墳	
1,500	675	1	960827~961129	松浦	桑原西部139	全長55mの前方後円墳	
3,007	3,007		960401~960930	久住	桑原西部139	縄文時代から弥生時代の包含層	
331	300		961216~970114	長家	天神49-0121	古代から中世の集落	8-2-292
507	507		970127~970331	加藤(隆)	麦野12-0049	奈良時代集落	7-1-664
53	5		961226	池田·松村	愛宕山80-0116	鎌倉時代?	8-2-415
100,000	308		970106~970131	大塚	浜男17	中世集落	9-1-134
10,800	6,000		960106~971001	加藤(良)・屋山	長尾63-0209	弥生時代及び戦国時代集落	8-1-585
3,470	347		970113~970331	米倉	一ツ家16-	縄文時代前期包含層及び奈良時代集落	8-1-73
800	700		961118~970117	加藤(良)	金武94-62	弥生時代甕棺墓	6-2-112
13,144	113		970203~970228	長家	井尻25-0090	弥生時代包含層	3-1-658
596	402		970127~970331	大庭	東光寺37-0127	弥生時代集落及び甕棺墓	8-2-399
3,375	100		970212~970225	大塚	内野17-A-4	近世時代集落	8-2-409
359	337		970217~970324	宮井	雑餉隈13-0054	奈良時代集落	5-1-50
	463		970220~970318	田中(整備課)	舞鶴60-0191	近世城郭	
2,169	74		970224~970304	大塚	野芥83-2422	近世墳墓	8-2-450
1,011	273		970303~970324	長家	東光寺37-0127	弥生時代から古墳時代集落	8-2-360
500	36	1	970228~970328	米倉・星野	周船寺120-0694	6 世紀後半の前方後円墳	
3,000	2,600		961101~961130	力武	雀居23-2633	古代の水田	6-1-30
256	150		970324~970411	菅波	原82-0309	奈良時代官衙	8-2-502
28,000	22,800		961118~調査中	下村・瀧本・本田	城ノ越山6-A-2	中世山城	7-2-514

#### 9601 比恵遺跡群第58次調査 (HIE-58)

所 在 地 博多区博多駅南4丁目7番

調查原因 市営住宅建替

調査期間 96.4.1~96.6.25

調 査 面 積 736 m² 担 当 者 大庭康時

置 調查後破壞

位置・環境 福岡平野を北流する御笠川にはさまれた中位 段丘上に位置する比恵遺跡群の、ほぼ中央部に あたる。周囲を既調査地点で囲まれるが、とり わけ甕棺墓から絹で巻いた細形銅剣が出土した 第6次調査地点は西接する。

検出遺構 攪乱および削平が著しく、かなりの遺構がす でに失われたものと思われる。検出した遺構は 溝1条、井戸7基、柱穴多数である。

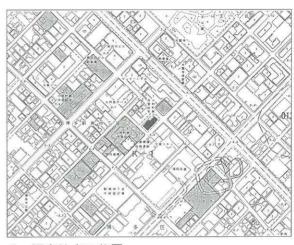
> 溝は、東の第35次調査地点、南西の第40次調査 地点の溝の間をつなぐもので、弥生時代後期に 属する。井戸も、すべて弥生時代後期の時期幅 の中で収まるものである。

> 柱穴は、多くが礎板を敷いていた。礎板は厚手の一枚板をおくものが大半だが、希に薄板二枚を「T」字形に並べるものもみられた。掘立柱建物としては、1×2間を主に16棟を推定した。しかし、遺された柱穴からみて、さらに多数の建物が存在したことは、確実である。これらの柱穴も、弥生時代後期と考えられる。

出土遺物 出土遺物の内訳は、弥生土器コンテナ 182箱 木製品56箱、土製品・石器 1 箱、銅鏃 1 点であ る。土器は、調査区北東端近くの包含層と溝か ら多く出土している。木製品は、礎板を除けば、 ほとんどが溝の埋土の中から出土した。三叉鍬、 杵、建築部材の他大小のねずみ返し各 1 点出土 している。また、後期中頃の 6 号井戸からは、 ほぼ完形品の木製ひしゃくが出土した。

ま と め 今回の調査では、弥生時代後期の掘立柱建物 群と井戸7基を検出した。旧地形を勘案すると、 包含層の遺存状態などからみて、北東方向に浅 い谷が入る可能性があり、その縁近くに掘立柱 建物が配されたものであろうか。

報告書は1998年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置



2. 調査区(1区)全景(東より)



3. 弥生時代溝内ねずみ返し出土状況

### 9602 元岡遺跡群第1次調査 (MOT-1)

所 在 地 西区大字元岡・桑原地区内

調 査 原 因 九州大学統合移転

調査期間 96.4.1~96.9.30

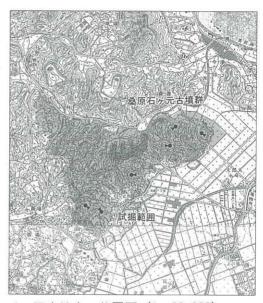
調査面積 8,154m²

担 当 者 池崎譲二・小林義彦

処 置確認調査

位置・環境 九州大学統合移転予定地は、糸島半島の東部に位置し、福岡・前原・志摩の2市1町に跨る。総面積は2.75haに及び全地内に所在する遺跡群を総称して、元岡遺跡群と呼ぶ。予定地は櫛歯状にやせた丘陵地が広がり、小さな谷が複雑に開析しているが、大原川流域には圃場整備されたやや広い水田が広がっている。丘陵部の大半は山林である。

調査概要 移転予定地内の遺跡の有無確認の為の試掘調査である。計538本、総延長6,795mのトレンチを重機の進入可能な個所に設定し、試掘した結果、丘陵の緩斜面や谷部で、31ヶ所の遺跡を確認した。遺跡は、縄文時代から弥生時代、古墳時代、古代、中世の各時代にわたる集落遺跡と製鉄関係遺跡である。



1. 調査地点の位置図(1:60,000)

### 9656 桑原石ヶ元古墳群第1次調査 (MIM-1)

所 在 地 西区桑原字石ヶ元

調查原因 九州大学統合移転

調査期間 96.4.1~96.3.31

調査面積 4,737 m²

担 当 者 池崎譲二・小林義彦

処 置確認調査

位置・環境 大原川右岸の舌状丘陵上に、一群を構成して 広がる。現況は山林である。

調査概要 古墳の丘陵規模と埋葬主体部の構造及びその 遺存状況の確認を目的とした。その結果、直径 10~20mの円墳を30基確認した。内部主体は1 ~29号墳が横穴式石室、30~34号墳が竪穴系横 口式石室であるが、石材の多くが抜き取られ、 石室の構造や規模が判然としないものも多い。 遺物は須恵器、土師器、鉄製武具、馬具、鍛冶 金具、装身具などが出土している。本古墳群は 5世紀代と6世紀後半代に分かれる。



2. 桑原石ヶ元古墳群1~7号墳全景(北より)

#### 9603 博多遺跡群第97次調査 (HKT-97)

所 在 地 博多区冷泉町300-1

調查原因 共同住宅建設

調 査 期 間 96.4.3~96.7.25

調 査 面 積 300 m² 担 当 者 久住猛雄 処 置 調査後破壊

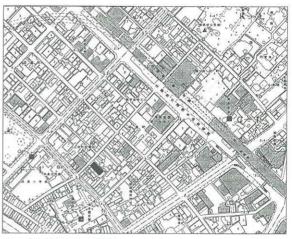
位置・環境 調査地は、博多遺跡群南半、博多浜東側の砂 丘頂部から南に若干下る斜面部分にあたる。現 在の地表の標高は5.6m前後である。また、調査 地の西60mには櫛田神社があり、かつては社領 の一部であった可能性もある。

検出遺構 現地表下より約2m下げたところで第一面とした。以下、弥生時代後期から中世までの集落および中世都市の一部を検出した。第1面は標高3.4m前後で、12~14世紀の井戸・土坑・柱穴多数(町屋跡)、および銅器鋳造工房を検出した。銅器工房は平面長方形ないし小判形、断面は皿状をなし長軸1.5-5m、短軸1-3mを測る土坑である。床と壁に砂混じりの粘土(シルト)を貼る。埋土からは取瓶ないし坩堝や鋳型の破片、鉄滓がまとまって出土した。第2面は標高3m前後で11~13世紀の井戸など1面と同様の遺構を検出した。第3面は標高2.6~2.1mで弥生時代後期後半から古墳時代の竪穴住居、土坑、溝、柱穴を検出した。

出土遺物 コンテナ300箱の遺物が出土した。 第1面から第2面では11~14世紀の土師器、輸入陶磁器 (白磁主体)、銅銭、鉄製品、鋳銅関連遺物、 奈良時代の須恵器、土師器などが、第3面では 弥生土器、古式土師器が出土した。

ま と め 第1面の銅器工房は調査区の南半に軸を揃え 群在し、何度も重複している。13~14世紀の一 定期間の操業が考えられる。鋳銅に関係する遺 構と遺物が有機的に検出された例は少なく、中 世都市博多の手工業生産の実態を考える上で貴 重な発見となった。また、白磁の大量廃棄土坑 (11世紀末頃) や、古墳時代前期の竪穴住居群 から出土した土器群も注目される。

報告書は1998年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置



2. 第1面銅器鋳造遺構群(南から)



3. 第3面古墳時代前期竪穴住居(南から)

### 9604 麦野C遺跡第3次調査 (MGC-3)

所 在 地 博多区銀天町3丁目14

調査原因 医院建設

調査期間 96.4.8~97.4.19

調 査 面 積 242 m²

担 当 者 宮井善朗

処 置調查後破壞

位置・環境 今回の調査は遺跡の西側に位置するが、調査 区内で、地山である鳥栖ローム面は、東側に向 かってかなり急に傾斜しており、その上層に包 含層が認められる。遺跡範囲内にも小さな谷が 入る微地形が考えられる。

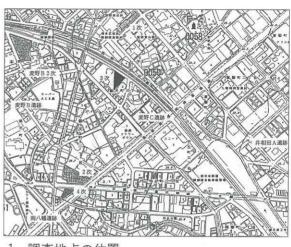
検出遺構 検出した遺構はいずれも古代に属する。住居 跡2基、土壙2基、溝、ピットなどがある。住 居は2基が切り合う。住居跡1は西側の住居で、 住居跡2を切る。床面は住居跡2より高いため、 住居跡2と切り合う部分はそれだけ厚い貼床を している。 一辺3.2mほどの方形で、ほぼ住居 跡2と同じ規模になる。 住居跡2は一辺3.2m ほどの方形を呈する。主柱穴は検出されない。 南側にカマドを持つ。カマドの煙道が住居外へ スロープ状に張り出している。カマド本体は破 砕されており、白色粘土が散乱するのみである。 10cmほどの貼床をした後に壁溝を切っている。 土壙はいずれも楕円形を呈する浅い土壙である。 2基とも規模、形状が類似しており、同様な性 格の遺構と考えられる。溝は幅30cmほどである。 延長は5.6m以上を測る。 奈良時代の浅く、幅 狭で比較的延長の長い溝は、雑餉隈遺跡5次、 8次調査区に類例があり、そこでは延長50mに 及んでいる。ピットは列をなすものも数列見ら れるが、調査区内で建物として完結するものは ない。また、調査区東北隅に、東側へ向かって 比較的急な傾斜を持って地山ローム面が落ちて いく部分がある。おそらくそのまま谷部へと落 ちていくのであろう。この斜面の上層に包含層

出土遺物 出土遺物は総量でコンテナ6箱である。

が形成されている。

ま と め 今回の調査では奈良時代を中心とした集落の ごく一部を検出した。

報告書は1997年度に刊行済。



1. 調査地点の位置



2. 麦野C遺跡群第3次全景

### 9605 那珂君休遺跡第3次調查 (NKR-3)

所 在 地 博多区那珂 4 丁目311

調査原因 共同住宅建設

調査期間 96.4.8~94.4.20

調 査 面 積 740 m² 担 当 者 長家 伸 処 置 調査後破壊

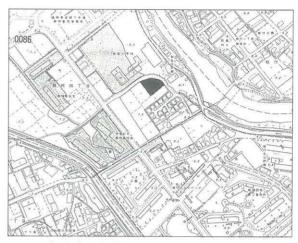
位置・環境 調査対象地は御笠川左岸に形成された沖積地上に立地し、標高6.8m前後を測る。 調査対象地では北側に位置する弥生小学校建設時に中世~古墳時代の水田跡及び弥生時代の大規模な井堰の跡が発見されている。また平成7年度には隣接地においても発掘調査を行ない水田の存在を確認している。 更に500m南側には国史跡の板付遺跡があり、弥生時代以降の水田が一帯に広がっている地域である。

検出遺構 調査は重機により表土以下の掘削を行い、古墳時代に位置づけられる水田面の検出を行った。水田面は表土から1m程度掘削した高さで広がる灰黄褐色土で確認する事ができた。この結果幅50~60cm、高さ5cm程の畦畔に区画された水田が10枚と畦畔の途切れた部分から隣の水田に水を流し込む「水口」等の施設を確認することが出来た。水田の埋土からは遺物が殆ど出土しないため時期の決定は周辺の調査事例との照合によるものであるが、水田面の標高及び表土の堆積状況から、一帯で確認されている古墳時代の水田の一部であると考えられる。

出土遺物 出土遺物はコンテナ1箱分である。

ま と め 周辺は調査がまとまって行われている地域であり、水田の広がり、構造を考えるうえで良好な地点である。

報告書は1997年刊行済。



1. 調査地点の位置



2. 全景(北から)



3. 調查区土層

#### 9606 那珂遺跡群第57次調査 (NAK-57)

所 在 地 博多区竹下5丁目354

調查原因 専用住宅建設

調査期間 96.6.24~96.7.2

調 杳 面 積 120 m²

担 当 者 米倉秀紀・宮井善朗

置 一部保存

位置・環境 調査地は福岡平野を貫流する御笠川と那珂川 に挟まれた洪積台地、中位段丘上の先端部近く に那珂遺跡群は位置する。当調査区は、この台 地の西端部近くにあり、標高約8mを測る。現 況は宅地で、表土下約10cmで遺構面である橙色 ロームを検出した。後世の開鑿のため、かなり の削平を受けている。

検出遺構・弥生時代中期:ピット

・古墳時代:竪穴住居跡4基、ピット

· 奈良時代:大溝1条(幅3m以上)

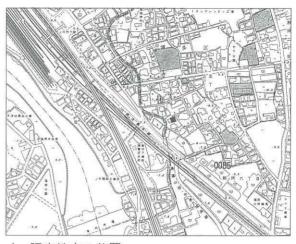
・江戸時代:溝2条

出土遺物 出土遺物の総量はコンテナ2箱である。古墳 時代の竪穴住居跡からは、土師器の小片の他、 若干の鉄器と文様の入った石製紡錘車が1点出 土した。奈良時代の大溝は、表土から1m下ま でしか掘削しないという条件下での調査であっ たため、底まで調査できず、土師器・須恵器が 少量出土しただけである。江戸時代の溝からは 陶磁器類が若干出土した。

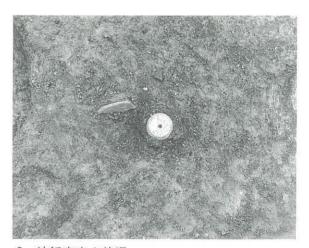
と め 古墳時代の竪穴住居は、4基のうち3基は削 平のため床面のみを検出したため、出土遺物が 少なく、詳細な時期は不明であるが、古墳時代 前期のものと考えられる。文様入りの石製紡錘 車の出土は注目できる。

> 奈良時代の大溝は完掘できなかったものの、 幅3mを超し、深さもかなり深くなりそうで、 該期に那珂遺跡に存したと考えられる官衙との 関連で注目できる。

江戸時代の溝は用途はわからない。



1. 調査地点の位置



2. 紡錘車出土状況



3. 調查区全景

## 9607 有田遺跡群第181次調查 (ART-181)

所 在 地 早良区有田1丁目31-3

調查原因 事務所建設

調査期間 96.4.15~96.6.15

調査面積 494 m²

担 当 者 菅波正人

処 置調查後破壞

位置・環境 調査地点は有田遺跡中央の最高所に立地する。 東側隣接地には第107次調査地点がある。調査は 現況約20cmの耕作土を除去し行った。標高約13 mを測る。本調査地点周辺はこれまでの調査で 6~8世紀中頃にかけての官衙的遺構が多く検 出され、『那津官』や早良郡衙との関連が指摘 されている。

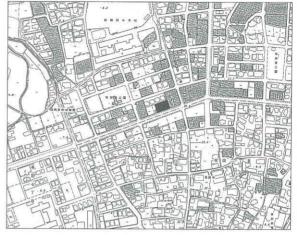
検 出 遺 構 遺構は弥生時代前期の貯蔵穴、弥生時代後期 の竪穴住居跡、古墳時代~奈良時代の倉庫、そ れを囲む棚や溝、平安時代の井戸、建物、戦国 時代の館の堀などがある。

弥生時代の前期の貯蔵穴は長方形プラン、楕円形プランを呈する。これらは板付I式期に遡るものもある。

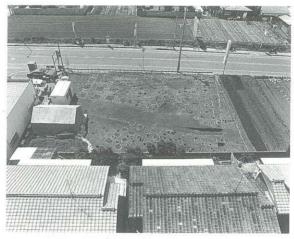
中央の2棟の建物は3×4間の総柱建物で、 倉庫と考えられる。西側には建物を囲む棚と考 えられる柱穴が並ぶ。時代は6世紀~7世紀と 考えられる。調査区東側の建物は3×4(?)間 の総柱建物である。さらに道路側に広がると考 えられる。西側の溝はこの建物に伴うと考える。 時代は8世紀(奈良時代)と考えられる。

出土遺物 遺物は弥生時代前期の貯蔵穴から弥生土器、 石包丁、磨製石鏃、平安時代の井戸から輸入陶 磁器などがコンテナ10箱分出土した。

ま と め 今回の調査では弥生時代から戦国時代にかけての数多くの遺構を検出した。特筆すべき遺構は二時期の倉庫である。前者は6世紀代に位置づけられ、先に述べた『那津官』に関連するものと考えられる。後者は8世紀に位置付けれ郡衙の倉庫にあたるものと考えられる。今回の調査でこれまでの建物の区画の栅や溝が検出されたことで規模や構造を考える上で重要な成果となった。1997年度報告の予定である。



1. 調査地点の位置



2. 調査区全景(北から)



3. SV021出土土器 (東から)

#### 9608 和田B遺跡第2次調査(WDB-2)

所 在 地 南区野多目 3 丁目 調 査 原 因 宅地造成 調 査 期 間 96.4.15~96.7.5

調査面積920m²担当者瀧本正志処置調査後消滅

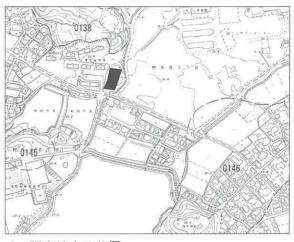
位置・環境 福岡平野の南辺部は、油山から派生した低丘 陵によって占められ、丘陵間には幾つかの谷地 形が生じている。調査地は、同平野中央部を北 流する那珂川の西に位置する丘陵南麓に立地す る。標高は15mを測る。

検出遺構 遺構は、地表面下1.5mのマサ土(地山)上面で検出した。弥生時代~中世に比定される、掘立柱建物、溝、土坑、井戸、水田、柱穴である。水田は弥生時代中期前葉~古墳時代にかけて営まれたものと考えられる。同時代のものとして溝、土坑があり、他の遺構は中世以降のものと思われる。

出土遺物 出土遺物は、弥生時代の土器や石鏃、石包丁 の他に、古墳時代の須恵器、中世の陶磁器片な どが出土している。総量はコンテナ5箱。

ま と め 今回の調査では、調査地が丘陵の裾部および 谷部などの位置関係から、第1次調査で検出し た縄文時代の遺構、遺物は認められず、縄文期 の遺跡の広がりが丘陵部上部に限られた範囲に おいて展開していたことが明らかになった。ま た、谷部で検出した水田遺構は、その範囲や規 模を詳らかにはできなかったが、出土遺物など から当地周辺部における谷部では、早い段階か ら稲作が行われていたことは明らかである。

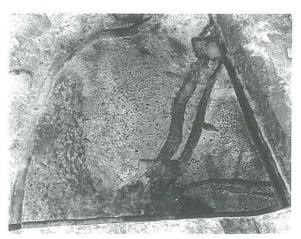
発掘調査報告書は、1998年に刊行予定である。



1. 調査地点の位置



2. 調査区全景 (西から)



3. 弥生時代水田跡(南から)

### 9609 雀居遺跡群第10次調査 (SAS-10)

所 在 地 博多区雀居(福岡空港内)

調查原因 空港西側整備

調査期間 96.5.13~97.1.30

調 査 面 積 1,310 m² 担 当 者 力武卓治 処 置 調査後破壊

位置・環境 福岡空港は御笠川右岸と月隈丘陵に挟まれた 低地に位置しているが、発掘地点は、かって米 軍キャンプ地になっており、調査前には関連施 設が撤去されていた。現標高は5m前後を測る。 なお、多量の木製農具や大型掘立柱建物が発見 された第4、5次調査区は南東約300mにある。

検出遺構 試掘調査、および隣接する第7、9次調査区 の発掘結果によると、現地表より約1.5mと約 1.8mの遺構確認されているが、約1mの深さに も砂層が堆積し、この下部に水田跡遺構の可能 性があることから、計3面の遺構検出を行った。 この結果、下記のように各時代の遺構を発見 した。

> 遺構面 時 代 主な遺構 数量 1 面 中世 水田 16枚十 2面 古 墳 土器溜め 竪穴住居跡 3 軒 井戸 3基 3面 弥 生 木棺墓 3基 土壙 20基十 竪穴住居跡 4基 円形溝

出土遺物 弥生時代早期から中世までの土器、石器、木器、動物遺体などコンテナ約800箱が出土した。

ま と め 3面で検出した円形溝は幅約10cm、深さ約15 cmで円形あるいは隅丸方形に巡るもので、直径 約2mある。溝底には丸太杭を打ち込んだよう な穴が並んでおり、おそらく栅で囲っていたの であろう。付近からブタ?と思われる動物骨が 多く発見されており、また東アジアの民族例な どから家畜小屋の可能性が強く、弥生時代開始 期における家畜、あるいは食生活を知る上でき わめて重要であろう。



1. 調査地点の位置



2. | 面の水田(北から)



3. 3面の遺構

## 9610 下月隈 C 遺跡第 3 次調査 (SHC-3)

所 在 地 博多区下月隈(空港用地F-1) 調 查 面 積  $3,575m^2$ 

調査原因 調整池建設

調査期間 95.5.7~96.10.18

調 査 面 積 3,575 m² 担 当 者 宮井善朗

処 置調查後破壞

位置・環境 下月隈 C 遺跡 3 次調査地点は、福岡空港の南側に位置し、2 次調査地点の東側にあたる。地形的には月隈丘陵西側に広がる沖積地に立地する。この低地は御笠川水系の小河川によるものである。

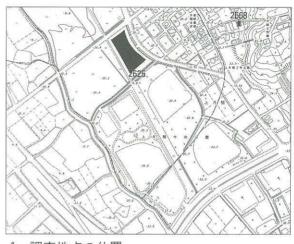
検出遺構 調査地点の基本土層は次の通りである。まず 最下層に基盤となる青灰色粘土が堆積する。こ の粘土は厚さ3m以上を測る。その上位部分は 土壌化により黒色を呈する。この粘土層上面が 最下層水田の基盤面となる。粘土中には弥生時 代中期~古墳時代前期頃の土器を包含する。そ の上層には洪水による粗砂層や、シルトなどの 水成層が堆積する。比較的安定したシルト面に は古代から中世の水田遺構が営まれる。

> 今回調査では重複する水田面を大きく2面に 分けて調査を行った。上面で検出した水田面は 中世のものである。水田面を覆う砂層から土師 器、中国製磁器片などが出土している。2次調 査地点で検出した集落と重複する時期の水田と 考えられる。水田は地山削り出しによる畦畔を もち、長方形を基本とした区画を持つ。畔の交 点は十字形をなさずに食違いを見せている。水 田の規模は長辺15~20m、短辺10~15mほどで ある。検出した水田の確実な枚数としては、13 枚を数える。

> 下層の水田は基盤の粘土面で検出した。上面を覆う砂層、およびこの水田を切る旧河道から、奈良時代に属する須恵器、土師器などが出土している。水田は長方形を基本とする。水田の規模は長辺15m、短辺10m程である。

出土遺物 水田という性格上遺物は少なく、総量でコンテナ7箱である。水田を覆う砂層を中心に土師器、須恵器、陶磁器など、また下面の河川からは木製品が若干出土している。

報告書は1997年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置



2. 下月隈 C 遺跡群第3次 下面水田(古代)



3. 下月隈 C 遺跡群第3次 上面水田 (中世)

## 9611 多々良込田遺跡第7次調査 (TTM-7)

所 在 地 東区多の津2丁目地内

調查原因 都市高速道路建設

調査期間 96.5.10~96.8.9

調 査 面 積 1,280 m² 担 当 者 長家 伸 処 置 調査後破壊

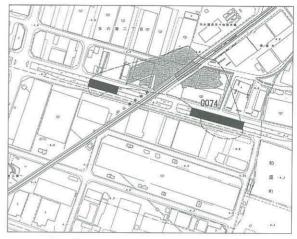
位置・環境 調査地点は多々良川の左岸に形成された沖積 微高地上に立地し、調査面での標高は約3mである。これまでの多々良込田遺跡群の調査では 弥生時代終末期の~中世の大規模な集落が発見されている。また中世前期には官衙的な建物が 建設されており陶磁器が多量に出土している。また多々良(たたら)の地名にあるように過去に製鉄・精錬がおこなわれたことが伝承からも 伺うことが出来る。

検出遺構 調査は重機による表土の除去作業から行った。 表層の造成土及び造成以前の水田土を約1.5 m 除去し、黄褐色砂質土上面で遺構を検出した。 検出した遺構には溝、土坑、柱穴、井堰等があ るが、水田造成などの後世の削平のため失われ た遺構も多いと考えられる。

> 弥生時代終末期には溝が2条伸びる。これは 調査区の端から端まで確認されており、蛇行し ながらではあるが、溝間約3.5m~4.5mで平行 して掘削されている。また古墳時代後期には河 川中に井堰を作っている。井堰は縦杭を千鳥状 に打ち込み、中に横木を渡すものである。簡単 な構造であるが揚水効果は高かったと考えられ る。また中世には掘立柱建物が作られている。

出土遺物 弥生土器、土師器、須恵器、木製品などコン テナ32箱分である。

> 調査地点が微高地の縁辺部分にあたったこと や削平もあり検出遺構は多くはないが、弥生時 代~中世の生活遺構を確認することができた。 報告書は1998年刊行予定。



1. 調査地点の位置



2. 全景(北から)



3. 井堰

### 9612 那珂君休遺跡群第7次調查 (NKR-7)

所 在 地 博多区那珂 4 丁目地内

調査原因 食糧事務所建設

調査期間 96.5.7~97.5.20

調査面積 11,000 m²

担 当 者 佐藤一郎 田上勇一郎 井上繭子 力武卓治

処 置調查後破壞

位置・環境 那珂君休遺跡群は福岡平野の中部、御笠川左 岸の沖積平野に位置し、標高9m前後を測る。

検出遺構 調査区東側では水田面の上層に厚く洪水砂が 堆積し、畦畔が良好な残存状態で検出された。 近世水田の他、5世紀代の水田跡を検出。合計 54枚の水田区画を確認。方形の大区画と多角形 の小区画のものとに大別され、部分的に水口が 開いた状態がみられた。西側の調査区では水路 2条が検出された。調査区中央を走るSD22は 6世紀後半にはそのほとんどが埋没し、最下層 では4世紀前半の土器だけがみられた。護岸に は杭列が検出された。SD22の西側にSD20を 検出した。遺物から水田とほぼ同時期に掘削さ れたものと思われる。南側へ行くにつれて幅広 になり、旧川道へと続く。出土遺物は4世紀前 半のものが主である。南側の旧川道では3条の 井堰が検出された。最北の井堰SX31は、ほぼ 垂直に立つ縦杭と横木からなるアーチ状の井堰 である。井堰SX32は合掌形に組合うように打 ち込まれた縦杭とSX31のものより格段に大き い横木からなるアーチで、木組の隙間にはワラ 等で編まれた莚状のものや粘土が詰められてい た。井堰SX33は調査区南端でその一部が検出 された。SX32もほぼ同様である。SD20北側 でも小規模な井堰が検出された。縦杭が合掌形

に打たれていた。 出土遺物 S X 21の隙間から柄を装着した状態で二又鍬が出土。S X 31・32間では木製品(沓、鍬の停泥、大足の一部)や土師器が出土。S X 33の隙間から木製楯、小型丸底壺等の土師器が出土。



1. 調査地点の位置



2. 水田跡検出状況(南から)



3. 井堰検出状況(南東から)

### 9613 麦野B遺跡群第7次調査 (MGB-7)

所 在 地 博多区南本町2丁目3番

調査原因 コミュニティセンター

調査期間 96.6.3~97.3.31

調 査 面 積 4,068 m² 担 当 者 加藤隆也 処 置 調査後破壊

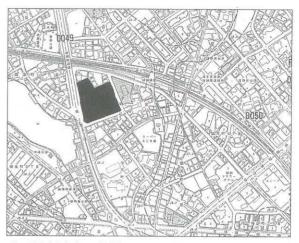
位置・環境 麦野 B 遺跡群は那珂川と御笠川に挟まれた台地上にあり、周辺には麦野 A・C 遺跡群、南八幡遺跡群、雑餉隈遺跡群などが位置する。周辺遺跡群においては旧石器時代の石器、縄紋時代の落し穴、弥生時代・古墳時代の竪穴住居などもみられるが、奈良時代の集落が最も普遍的に広範囲にみられる。奈良時代この地は、大宰府から博多湾に向けてはしる2本の官道に挟まれており、既存の調査地点で多くの掘立柱建物、竪穴住居が調査されている。

検出遺構 今回の調査では新規ローム層上面からは縄紋時代と思われる落し穴4基、奈良時代の掘立柱建物、竪穴住居5軒、土坑、溝、柱穴、中世の土坑、柱穴などがみられ、また新規ローム層中からは旧石器時代の石器が出土した。

落し穴は、平面が隅丸長方形の深い穴が谷頭の等高線に沿うように4基ならんで検出された。 谷の下方向からの追い込み猟と考えられる。

奈良時代の遺構は掘立柱建物、竪穴住居と溝、 土坑など集落の一部である。この集落は8世紀 中頃から後半にかけてのもので、この時期以降 集落は廃絶する。

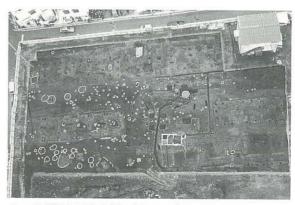
ま と め ローム層出土の石器群は黒曜石、安山岩などによるナイフ形石器、台形様石器、剝片などである。旧石器時代の遺物は、いままで麦野遺跡やその周辺遺跡においてみられていた。今回調査の石器出土地点は調査地のなかでも高所の平坦部に分布しており、キャンプ地として利用されていたと考えられる。縄紋時代の落し穴は当時の人たちの狩猟方法を復元できる重要な遺構である。この地は奈良時代になって掘立柱建物と竪穴住居による集落の景観となる。



1. 調査地点の位置



2. 北側調査地全景(南から)



3. 南側調査地全景(北から)

### 9614 野方岩名隈遺跡第7次調査 (NGK-7)

所 在 地 西区野方7丁目768-1他

調查原因 病院建設

調査期間 96.6.11~96.7.18

調査面積 800 m²

担 当 者 菅波正人

処 置調查後破壞

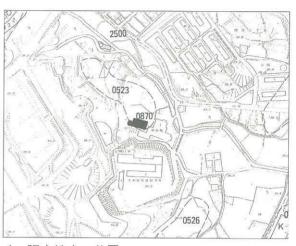
位置・環境 調査地点は国史跡野方遺跡の西側丘陵部にあたる。調査は現況の山林の約30cmの表土を除去し行った。標高約25mを測る。西側の隣接地には円墳(野方岩名隈古墳)があり、本調査でもその周溝の一部を検出した。

検出遺構 遺構は弥生時代後期~古墳時代初頭の竪穴住居跡8棟、土坑、柱穴、古墳の周溝を検出した。竪穴住居跡は平面形が3×4m程の長方形を呈したもので、中央に炉、両側に屋根を支えるための柱の穴が2個見られる。住居跡の壁際にはベッド状遺構が見られる。遺物は弥生土器・土師器等が出土した。

古墳の周溝は幅約2~3m、深さ30cmを測る。

出土遺物 周溝の埋土からは弥生土器、土師器、須恵器が出土した。周溝の遺物から6世紀代の古墳と考えられる。この他には縄文時代の石鏃、石斧等が出土したが、その時期の遺構は検出できなかった。遺物の総量はコンテナ10箱程度である。

ま と め 今回の調査では弥生時代後期~古墳時代初頭 の竪穴住居跡を検出した。時期的には国史跡の 野方遺跡と同じ時期であり、当時の集落の分布 や両者の関係を考える上で、重要な資料が得ら れたと考えられる。1997年度報告の予定である。



1. 調査地点の位置



2. 調査区全景(北から)



3. 竪穴住居跡、完掘(南から)

#### 9615 吉塚遺跡群第7次調査(YSZ-7)

所 在 地 博多区堅粕4丁目406-2,326番地内 調 查 面 積 364 m²

調查原因 食糧事務所建設

調査期間 96.7.5~96.8.22

担 当 者 佐藤一郎

如 置調查後破壞

位置・環境 吉塚遺跡群の南西に位置し、第二次調査区の 西側に隣接する。現況は調査対象地の北側が駐 車場、南側は家屋解体後更地となっていた。調 査区の北側はアスファルト、バラスの直下に遺 物包含層の黄褐色砂と続く。一方、南側は削平 が著しく、客土直下、現地表下75~90cmで黄褐 色砂を確認。

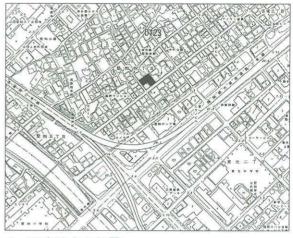
検出遺構・溝-3条 SD01 (15C前半) SD02 (8世 紀) SD06 (12C前半)

> ・井戸-5基 SE03・04・08・12 (12世紀前 後) SE06 (9世紀)

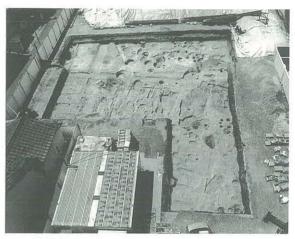
- ·土壙 1基 SK11(弥生中期末~後期初頭)
- 柱穴 弥生後期~9世紀頃.

出土遺物 溝SD05から、完形もしくはそれに近い瓦器 椀、土師器杯、陶器長瓶が出土した。瓦器椀は 形態の上で博多出土のものとは微妙に異なる。 SE08上面の包含層 (SE08の埋土の可能性あ) り)からは磁州窯系の白釉黒花陶器片が出土し ている。包含層中からは、他に滑石製権(分銅) が出土している。非常に丁寧に成形されている。

ま と め 発掘区の北側は厚さ約30cmの包含層が残り、 遺構も良好な状態で検出された。南側は大きく 攪乱・削平を受け北側の地山面 (明黄褐色砂) より下のレベルまで客土が及び、わずかに溝、 井戸、土壙の底面が検出されたのみである。磁 州窯系陶器が出土したが、全国的に見て輸入陶 磁器が多量に出土している北部九州においても、 博多遺跡群を除いて出土例は少ない。吉塚遺跡 群と近接する博多遺跡群の関わりを窺う上でも 興味深い資料である。



1. 調査地点の位置



2. 調査区全景(南東から)



3. 井戸検出状況 (東から)

## 9616 野芥遺跡群 7 次調査 (NOK-7)

所 在 地 早良区野芥5丁目6-37

調 查 原 因 病院建設

調査期間 96.7.1~96.8.9

調査面積800 m²担当者米倉秀紀処置調査後破壊

位置・環境 早良平野を貫流する室見川の東側には、室見 川に沿って南北に走る洪積台地があり、野芥遺 跡はその台地の中程、ほぼ平野南端の山よりに 位置する。当調査区は、この台地の東端部近く にあり、標高約32mを測る。

現況は病院のグラウンドで、本来は東向きの傾斜の激しい斜面であったが、客土を行って、表面は平坦である。遺構面はローム質の土で、最も浅い調査区西端では表土下5cm、最も深い調査区東端では表土下3mで検出した。遺構面より上の層は旧耕作土と客土であった。

検出遺構・旧石器時代:不定形土坑2基

・奈良時代:包含層、土坑

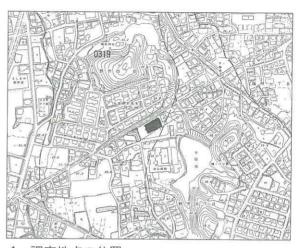
・戦国時代:土坑、ピット

出土遺物 出土遺物の総量はコンテナ10箱である。その 大半は旧耕作土中から出土した戦国期の瓦であ る。耕作中に邪魔になった出土瓦を穴を掘って 埋めたものと考えられる。遺構から出土した遺 物は戦国期の瓦・土器・陶磁器、奈良時代・古 墳時代の土器が少量である。また旧石器時代の ナイフ形石器が2点後世のピット内から出土 し、旧石器時代の不定形土坑からは、彫刻刀形 石器1点と剝片が出土した。

ま と め 当調査区の北側の第4次調査では中世の建物 群が出土しており、当調査区でも当該期のピット群と瓦等の遺物が出土しており、一連の遺構 と考えられるが、当調査区では建物としては把 握できなかった。また奈良時代の土坑は、調査 区内の最も深い場所にあり、湧水を伴う不定形 の大形土坑で、自然にできた穴の可能性もある 旧石器時代の不定形土坑は2基あり、風倒木 の可能性もあるが、そのうちの1基はしっかり

とした土坑である。

報告書は1997年度刊行の予定である。



1. 調査地点の位置



2. 調查区全景



3. 旧石器出土状況

### 9617 福岡城跡第34次調査 (FUE-34)

所 在 地 中央区城内1-5地内

調 査 原 因 環境整備

調査期間 96.6.21~96.7.2

調査面積 32 m²

担 当 者 田中壽夫

処 置 盛土保存

位置・環境 福岡城跡は、油山山塊の一つである赤坂山から博多湾に向かって北に延びる旧福崎丘陵先端部に立地する。城域は推定約80haを有するが、主要郭域の48.6haが国史跡指定を受けている。

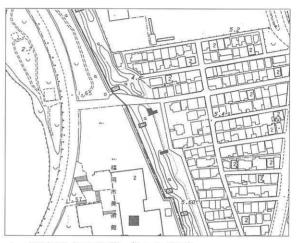
今回の調査地点は、指定範囲の西南部に位置する三の丸土塁内壁部で、花見櫓跡からは北方へ約150~200m離れている。

検出遺構 調査地点は、整備工事によって破壊される可能性がある土塁下端部の2地点について、遺構の平面および包蔵深度の確認と、土塁の本来の断面形状を観察することを目的にトレンチを設定して調査を実施した。

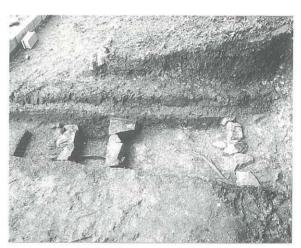
検出遺構は、土塁下端に沿って設けられた、 南北に延びる排水用の溝1条である。現地表面 から-40cmの面で確認した。側面のみに、厚さ 15~40cmの扁平な玄武岩と砂岩を用いて構築し ており、幅60~65cm、深さ45~55cmを測る。

出土遺物 溝内から、近世~現代までの平瓦・丸瓦の破片、肥前系陶磁器が、土塁盛土内から、近世および古代の瓦破片、白磁器破片等が若干出土。

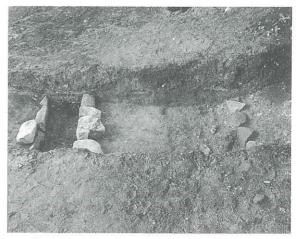
ま と め 今回検出した石組みの溝は、昭和30年代頃まで利用され、その後廃絶されたものである。構築時期は、土塁内の出土遺物と本来の断面形状からみて、江戸末期以降のものと推定される。時期的に江戸末期に行われた花見櫓改修と併せて周辺土塁の再整備が実施された可能性が高い。なお、調査終了後の当該地点における整備工事にあたっては、盛土による現状保存を行い、当初予定した駐車場整備から、花壇を兼ねた土塁内壁部環境整備に設計変更し工事を行った。



1. 調査地点の位置(1:4,000)



2. 第1トレンチ検出石組溝(北から)



3. 第2トレンチ検出石組溝(北から)

### 9618 博多遺跡群第98次調査 (HKT-98)

所 在 地 博多区中呉服町 2-22

調查原因 共同住宅建設

調査期間 96.7.3~96.8.2

調査面積 128m² 担 当 者 大庭康時

置調查後破壞

処

位置・環境 博多遺跡群の基盤である博多浜・沖浜の二列 の砂丘の内、博多湾側の沖浜砂丘の内側に位置 する。また、両砂丘を結ぶ、11世紀末頃の埋立 てによる陸橋状の地形の東側にあたり、両砂丘 間の低地に面している。

検出遺構 現地表面からマイナス2.5 m前後まで最近の 盛り土層があり第2次大戦後の復興によるもの と思われた。その下には、江戸時代の整地層が 残っていたが顕著な遺構はみられなかった。中 世後半の包含層は、30cm前後の厚さをもってい るが、遺物は少なく、土層観察でも遺構は確認 できなかった。

> 中世前半の遺構・包含層は50cm程の厚さを持ち、4~5面の生活面にわかれると思われる。 井戸・土坑・柱穴などを検出した。遺構の初現は、11世紀前後にはいるようである。

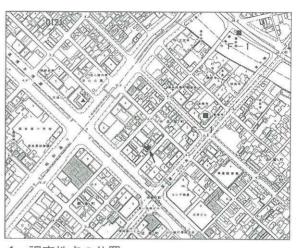
出土遺物 出土遺物は土器・陶磁器コンテナ9箱、石製品1箱、金属製品(鉄滓なども含む)1箱が出土した。博多遺跡群の調査としては、比較的少量の出土である。近畿地方からの搬入瓦器(楠葉型・和泉型)が目立っており、注目される。

ま と め 第98次調査地点では、11世紀後半から中世前 半期にかけて遺構を検出したものの、中世後半 期の顕著な遺構は確認できなかった。

> また、生活面・包含層の下にみられた砂層は、 粒子がやや荒く、明瞭な層理が認められた。西 南学院大学の磯望教授によると、河川河口部の 堆積で、最終的には滞流していたこと、人為的 な埋立て層はみられないとのことである。

沖浜の本来の規模、形成の過程、遺構の出現 都市化の時期を考える上で、重要な課題を提し たものと言える。

報告書は1998年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置



2. 1区第1面全景(西より)



3. 遺構面下、砂層推積状況

#### 9619 那珂遺跡群第58次調查 (NAK-58)

所 在 地 博多区那珂1丁目486

調查原因 集合住宅建設

調査期間 96.7.4~96.8.26

調査面積 480 m²

担 当 者 瀧本正志

処 置調查後消滅

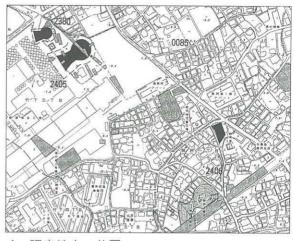
位置・環境 調査地は、御笠川と那珂川とに挟まれた那珂 台地の東辺部に位置する。調査地の南西 100 m には那珂八幡古墳がある。これまでの調査から、 調査地の東辺は深い谷部が形成されていること が判明しており、現況においても、緩やかに北 や東方向に下る地形を呈している。調査地の標 高は 7 mを測る。

検出遺構 遺構は、丘陵先端部と斜面において、弥生時 代中期の掘立柱建物 2 棟、土坑 4 基、井戸 1 基、 小穴多数と時期は不明であるが円形に配された 棚列 1 条を検出した。

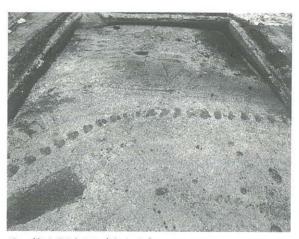
出土遺物 出土遺物は、その大半が地山面である黄褐色 ~灰色粘質土上面に10cm~30cmほど厚く堆積した黒色土の遺物包含層から出土している。出土した遺物は、弥生時代の中期の土器、石器が大半で、古墳時代の須恵器、土師器、歴史時代の瓦が出土するものの少量である。出土遺物総量はコンテナ箱に23箱。

ま と め 調査の結果、本調査地の東辺には谷地形が存在するとされてきた、これまでの調査成果が正しいものであることを検証できた。また、出土遺物などから、調査地の南側に連なる台地頂部には弥生時代中期に集落が形成されていたことは明らかである。調査地の南東部で検出した建物跡は、この集落範囲の北辺を示すものと位置付けられよう。また、造営時期を詳らかにすることはできなかったが、調査区南半部で検出した棚列は、築かれている位置が台地の平坦面から斜面への変換点上にあることなどから、この集落を囲む棚の可能性も十分に考えられる。

発掘調査報告書は、1998年に刊行予定である。



1. 調査地点の位置



2. 第1調査区(南から)



3. 第1調査区建物跡(東から)

### 9620 福岡城跡第35次調査 (FUE-35)

所 在 地 中央区城内1-1地内

調 査 原 因 鴻臚館跡範囲確認 (第13次)

調査期間 96.7.4~96.11.30

調査面積450m²担当者田中壽夫処置盛土保存

位置・環境 福岡城は、油山山塊の一つである赤坂山から 博多湾に向かって北に延びる旧福崎丘陵の先端 部に立地する。この地点は博多湾岸全体をほぼ 一望できる高台である。鴻臚館跡は、福岡城郭 中央部の南側一帯(現平和台野球場周辺)に推 定されている。調査地点は三の丸中央城郭南縁 を東西に延びる土塁の一部である。

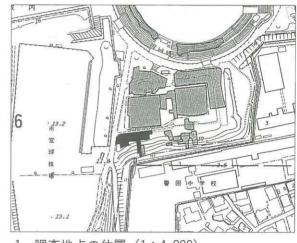
検出遺構 今年度の調査は鴻臚館関連遺構の分布状況を確認するために、昨年度の調査区を一部拡張して実施した。調査で新たに確認できた遺構は、江戸時代の石垣の一部、鎌倉~室町時代の溝状遺構2条、奈良~平安時代の溝状遺構2条、柱穴多数、および昨年度検出した布掘遺構の西側延長部である。

出土遺物 古代瓦破片を主として、中国産五代時代の越州窯系青磁、白磁、新羅焼、須恵器、元代の青磁などの破片が、若干出土している。

ま と め 福岡城三の丸の南縁の土塁は、福岡城築城に際して築かれた後、現在までに補修を数回行っており、特に、旧陸軍二十四連隊弾薬庫建設の際の爆風防堤、テニス観覧席構築などにより原形状がかなり改変を受けているとが予想された。調査では、今回の調査地点周辺は明治期の再構築で当初よりやや高めであることがわかった。鴻臚館跡関連の遺構は、遺構検出面の遺存状況から本来南側へさらに広がっていたと思われ、また奈良時代前半の布掘遺構は、東門に取り付

であると考える。

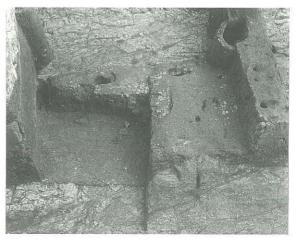
く板塀跡(布掘遺構)の方向とほぼ一致しており、当該期の外郭線推定にあたって重要な遺構



1. 調査地点の位置(1:4,000)



2. 調査区全景 (東から)



3. 奈良時代布掘遺構(東から)

## 9621 立花寺 B 遺跡第 3 次調査 (RGB-3)

所 在 地 博多区月隈・立花寺

調查原因 高速道路建設

調査期間 96.7.22

調 査 面 積 40 m² 担 当 者 瀧本正志

処 置調查後消滅

位置・環境 調査地は、御笠川の沖積作用によって形成された福岡平野の東南部、北流する御笠川中流の東岸に位置し、標高9~10mの微高地上に立地する。遺跡は、前年に実施した当調査地の南に位置する第2次調査で、古代から中世の集落が検出され、出土遺物などから官衙の存在が強く推定される。

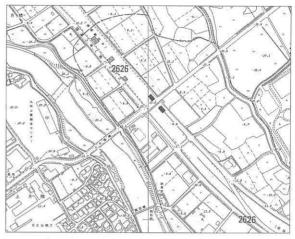
検出遺構 遺構ば、古代~中世の溝、土坑、柱穴をわず かに検出した。

出土遺物 出土遺物は、弥生時代中期~中世の広範囲に にわたるが、大半が9世紀後半~14世紀に比定 される中国産陶磁器、国産の須恵器、瓦質陶器、 土師器である。総量はコンテナ1箱。

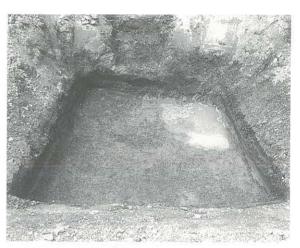
ま と め 今回の調査では、調査地が同遺跡第1次調査 地と第2次調査地とに挟まれた位置にあること から、遺跡の中心が南半部に存在する第2次調 査の結果を裏付けるとともに、遺跡範囲の北西 部の確定を得た第1次調査の成果を実証するこ ととなった。

発掘調査報告書は、1997年に刊行。

(「立花寺B遺跡」福岡市埋蔵文化財発掘調査 報告書第523集)



1. 調査地点の位置



2. 173 L 区全景 (東から)



3. 174 L 区全景 (東から)

### 9622 今山遺跡第7次調査 (IMY-7)

所 在 地 西区横浜2丁目

調查原因 下水道建設

調査期間 96.7.25~96.7.29

調査面積 120 m²

担 当 者 米倉秀紀

処 置調查後破壞

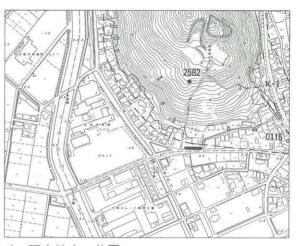
位置・環境 弥生時代の磨製石斧の製作地として名高い今山遺跡は、博多湾の西端にある今津湾と博多湾を隔離するように突き出た砂嘴の先端部にある独立の山である。山の頂部周辺には玄武岩の露頭が見られ、その露頭や転石を利用して山の方々で石斧を製作している。また既往の調査では、旧石器時代のポイントや古墳時代末の製鉄関連と思われる遺構も検出されている。今回の調査は、山の南麓部に建設する下水道工事に伴うもので、幅1mと狭いことと、旧海岸線近くで遺構の検出が望めない地点であることから、遺物の採集を目的に調査を行った。なお下水道建設予定の東半は旧海軍の飛行艇の格納庫と考えられる建物の分厚い基礎のため、調査ができなかった。

検出遺構 包含層のみ

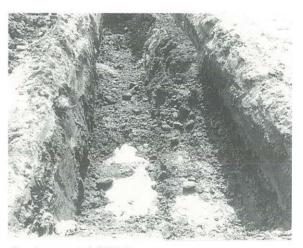
出土遺物 弥生時代の石斧製作関連の遺物は、未製品の 破片2点、剝片少量、叩き石数点が出土しただ けである。出土遺物の大半は、中世中頃の陶磁 器・土器・石鍋、それと鉄滓が付いた炉壁である。

ま と め 今回の調査区では、トレンチ状に掘った下部から激しい湧水を伴ったため、最下部まで機械で掘削したところ壁が崩壊し、土層の十分な観察ができなかった。おおまかな土層は、表土の下には大きな礫を伴った包含層が2層あり、その下は、砂や小石を中心とする海性堆積物、さらにその下は大きな礫の層となっている。包含層はともに中世と考えられる。この層が山からの崩落物なのか、埋め立てによるものかは明らかではないが、調査区内での人間の活動痕跡はない。今回の最大の成果は、中世における製鉄関連遺物の出土で、中世における当地での海岸砂鉄による製鉄の可能性が考えられよう。

なお報告書は1997年度に刊行の予定である。



1. 調査地点の位置



2. トレンチ完掘状況



3. 土層推積状況

## 9623 香椎 B 遺跡第 2 次調査 (KSB-2)

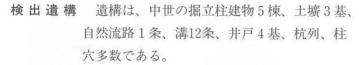
所 在 地 東区香椎字生水・寺熊・大日

調査原因 宅地造成

調査期間 96.7.22~97.4.1

調 査 面 積 3,100 m<sup>2</sup> 担 当 者 下村 智・瀧本正志・本田浩二郎 処 置 調査後消滅

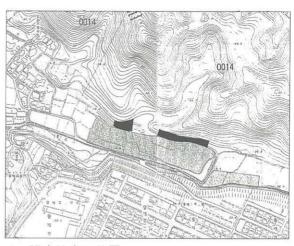
位置・環境 福岡平野の東辺部を画す多々良川から東は、 三群山系の博多湾までに達する丘陵によって占 められ、丘陵間には幾つかの谷地形がある。 その中で香椎川水系によって形成された谷は、 巾100m、奥行き2,000mの規模を呈し、やや蛇 行気味に東西方向に伸びる。西方は開口して博 多湾に面し、東方は低い峠を越えて宇美、大宰 府へと通じる。 この谷の海岸から1,000mほど 奥には『香椎宮編年記』による神功皇后を祭神 として神亀元年(724) に建立された香椎宮(廟) が位置し、 さらに宮から500mほど谷奥には香 椎B遺跡が立地する。1995年の第1次調査では、 谷部17,700m2の調査を行い、10世紀から15世紀 後半の屋敷群や寺院を検出するととともに、11 世紀後半期の自然流路SD103などから木簡が出 土している。第2次調査は、95年度の谷部未調 査区、丘陵裾部を対象とした。



出土遺物 出土遺物は、自然流路SD103から木簡の他に 箸、下駄、漆器椀、曲物などの木製品、土師器 などを中心とする中世の遺物がコンテナ35箱ほ ど出土している。

ま と め 今回の調査では、第1次調査で検出した屋敷 群の敷地において丘陵裾部付近が未調査であっ たことから、これらを明らかにすることが目的 であった。調査の結果、生水地区の14世紀~15 世紀後半の館跡では幅1.5m~2m、深さ1.3m の薬研堀が巡り、寺熊地区でも丘陵裾に沿って 溝が配置されていることが明らかとなった。こ れらは、丘陵からの雨水処理を主目的としたも のであろう。

調査報告書は、2000年に刊行予定である。



1. 調査地点の位置



2. 生水地区全景 (東から)



3. 寺熊地区東半部 (西から)

## 9624 田村遺跡群第18次調査 (TMR-18)

所 在 地 早良区田村3丁目758

調查原因 共同住宅建設

調査期間 96.8.2~96.8.7

調査面積 500 m²

担 当 者 菅波正人

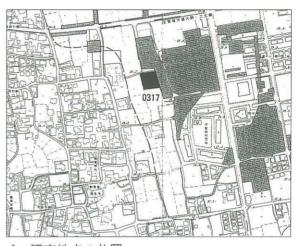
処 置調查後破壞

位置・環境 調査地点は室見川右岸の沖積地の微高地上に あたる。遺跡群の西端にあたる。標高は約15m を測る。調査地点の東側隣接地では、学校建設 に先だって調査が行われ、古代~中世の建物跡、 溝、井戸等が検出されている。

検出遺構 調査は現地表から約30cmの耕作土を除去した 後に行った。暗黄褐色粘質土の遺構面で、掘立 柱建物1棟、柱穴を検出した。掘立柱建物跡は 調査区南側に位置し、2×4間と考えられる東 西棟である。遺構の時期は古代~中世に位置づ けられるものと考えられる。

出土遺物 遺物は柱穴から土師器の小片が出土した。そ の量はコンテナ1箱弱である。

ま と め 今回の調査では古代~中世の掘立柱建物跡、 柱穴を検出した。東側の隣接地の調査では当該 期の建物跡や井戸等の遺構が多数検出されてい るが、本調査地点の遺構分布は少ない。遺跡群 の周辺にあたるためかと考えられる。



1. 調査地点の位置



2. 調査区全景 (西から)

# 9625 有田遺跡群第182次調査 (ART-182)

所 在 地 早良区有田1丁目10-4

調查原因 専用住宅建設

調査期間 96.8.1~96.8.12

調査面積 351 m²

担 当 者 長家 伸

処 置調查後破壊

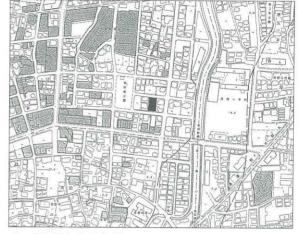
位置・環境 有田遺跡群は早良平野の北側中央部に位置し、 標高15m前後の周囲より孤立した丘陵上に立地 している。調査対象地は台地の東側斜面に当た り、標高9m前後を測る。

検出遺構 対象地は遺跡群の東側端部に近く、周辺の調 査も多く行われている地点である。調査は重機 による表土の除去作業から行った。この結果厚 さ10cm程度の表土直下の黄褐色ローム上面で遺 構を確認した。検出遺構には柱穴・円形の土坑 ・井戸・濠があるが、後世の削平のため失われ た遺構も多いと考えられる。井戸は古代のもの で直径70cm、 深さ1.6mである。この他柱穴・ 土坑も出土遺物から古墳時代~古代に位置づけ られる。また調査区南側で検出した濠状の遺構 は幅4~5m、深さ1.5~2m程度の大規模なもの である。陶磁器・須恵器等が出土しており、こ れらの遺物から中世後半~近世初頭に位置づけ られる。また調査区南側はほぼ直角に 1.5m程 の深さで台地が削られているが出土遺物がなく 掘削の時期は不明である。

出土遺物 遺物は陶磁器、土師器、須恵器、鉄滓などコンテナ2箱分出土した。

ま と め 対象地は削平が著しかったものの、中世後半 期の濠が確認できるなど成果は大きい。

報告書は1998年以降の刊行予定である。



1. 調査地点の位置



2. 北半全景 (南から)



3. 南半全景(北から)

## 9626 原遺跡群第19次調査 (HRA-19)

所 在 地 福岡市早良区原6丁目802番地

調 查 原 因 専用住宅建設

調査期間 96.8.1~96.8.16

 調査面積
 121m²

 担当者
 屋山洋

 処 置調査後破壊

位置・環境 原遺跡群は早良平野の北側に位置し、室見川 東岸の火山灰低丘陵上に位置する。遺跡内では 縄文から中世までの遺構と遺物が検出されてい る。台地は東側に油山川、西側に金屑川が流れ、 北側には近代まで低湿地が広がっており、弥生 時代前期頃の水田等も存在したものと思われる。 金屑川を挟んで西側には弥生時代の環濠集落や 6~7世紀の早良郡衙が存在したと思われる有 田遺跡群が広がっており、早良平野内では拠点 的集落のひとつである。

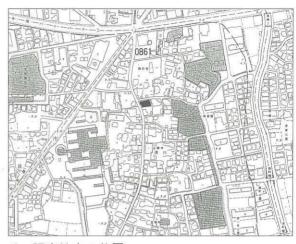
検出遺構 検出遺構は中世に限られており、古代以前の 遺構・遺物は検出できなかった。

> 溝: 2条 土壙:10基 井戸:1基

出土遺物 各遺構から青磁・白磁片や土師椀等の遺物が 出土している。特にSE011からはパンケース 1 箱程度の青磁・白磁片が出土したほか、井筒で ある曲げ物や竹製の夕がなども出土している。 SK016からは底面に張り付く感じで土師皿が20 枚程度とその直上に布でくるんだ後木の箱に入 れて埋めたと思われる和鏡が 1 枚出土している。

ま と め 調査区の北側で検出した東西方向の溝はその 南北両側で遺構の密度が極端に異なることから 集落や宅地の境界等の可能性が高い。また土坑 から出土した和鏡は布に包んで、木の箱に入れ るなど丁寧に埋納しているが、堀らしき落ち込 みと東西方向の溝の接点に近いことから、水関 係の祭祀を行った可能性もかんがえられる。

報告書刊行予定は平成11年度である。



1. 調査地点の位置



2. 遺跡全景



3. 16号土壙

## 9627 比恵遺跡群第59次調査 (HIE-59)

**所 在 地** 博多区博多駅南 4 丁目120-1

調查原因 立体駐車場建設

調査期間 96.7.31~96.8.26

調 査 面 積 131 m² 担 当 者 大庭康時

処 置 調査後破壊

位置・環境 福岡平野を北流する御笠川・那珂川にはさま れた中位段丘上に遺存する比恵遺跡群の、中央 部からやや西に位置する。

> 北に第54次・第56次調査地点、西に第22次調 査地点、南に第5次調査地点が接する。

検出遺構 調査地内は、既存建物による攪乱が著しく、 部分的に遺構が残っているに過ぎなかった。

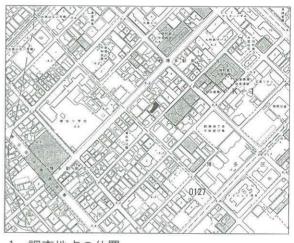
> 弥生時代中期から古墳時代前期の溝・土坑・ 柱穴を検出した。溝は弥生時代中期~後期のも のと、古墳時代前期初頭のもので、それぞれ多 量の土器が廃棄されていた。これらの溝には水 が流れた痕跡はなく、調査区内で一端が止まっ ており抜けていないことから、区画溝と考えら れる。

> なお、現代の井戸に大半を切られ、最下部ま での調査ができなかったが、弥生時代後期の井 戸が一基検出された。

出 土 遺 物 弥生時代・古墳時代土師器がコンテナ39箱、 石器剝片等が標本箱 1 箱程度出土した。

ま と め 既存建物の攪乱による変則的な調査区設定となり、また遺構の遺存状況も悪かった為、十分な成果を上げたとは言い難い。

報告書は1998年度に刊行予定である。



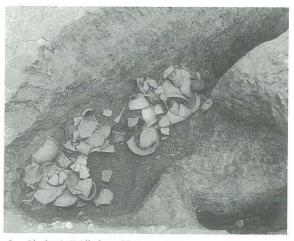
1. 調査地点の位置



2. 調査区 (A区) 全景 (西より)



4. 古墳時代溝(南より)



3. 弥生時代溝内土器出土状況

## 9628 麦野C遺跡群第4次調査 (MGC-4)

所 在 地 博多区銀天町2丁目3-6

調査原因ビル建設

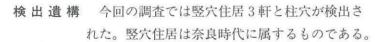
調査期間 96.8.5~96.8.13

調査面積 265 m²

担 当 者 加藤隆也

処 置調查後破壞

位置・環境 麦野C遺跡群は那珂川と御笠川に挟まれた台地上に位置し、福岡市の南端にあたる。周辺遺跡群においては旧石器時代の石器、縄紋時代の落し穴、弥生時代・古墳時代の竪穴住居などもみられるが、奈良時代の集落がもっとも広範囲にみられる。奈良時代この地は、大宰府から博多湾に向けてはしる2本の官道に挟まれており、これまで多くの掘立柱建物、竪穴住居が調査されている。しかし、調査地点が位置する遺跡群南側においては削平が著しく遺構は確認されていなかった。



1号住居は調査区南端に位置し、住居の1/3 は調査区外にのび、カマドの方向は北東を向い ている。

2号住居は調査区の中央にて検出され、平面は長辺3.3m、短辺3.2mの方形を呈する。残存が良好で深さ約40cmを測る住居の壁がみられた。カマドの位置は北東側に付く。

3号住居は調査区東側に位置し、住居の約半 分は道路側にのびる。確認できる規模は約3m をはかり、カマドは北西側を向く。

出土遺物 竪穴住居から出土した遺物の量は1号住居の ものが最も多く床面からは鉄製の刀子をはじめ 須恵器の坏身、坏蓋、土師器の甕などが出土し ている。

ま と め 現在まで周辺遺跡群内において奈良時代の集 落がみられるが麦野 C 遺跡群の南側では後世の 削平が著しく様相はわかっていなかったが、今 回の調査から周辺遺跡群と同様な集落が存在し たことを裏付ける資料を得た。



1. 調査地点の位置



2. 調査区全景(北東から)



3. 2号竪穴住居検出状況(東から)

## 9629 藤崎遺跡群第27次調査 (FUA-27)

所 在 地 早良区藤崎1丁目21-1

調査原因 店舗及び駐車場

調査期間 96.8.20~96.9.17

調査面積 300 m²

担 当 者 菅波正人

処 置調查後破壞

位置・環境 調査地点は室見川右岸の海岸に面した砂丘上に立地する。遺跡群の西端にあたり、 標高2.5 ~2.7mを測る。 この場所からは大正5年に箱式石棺から方格渦文鏡が、昭和5年に弥生時代前期の甕棺墓、副葬の小売等が発見されている。

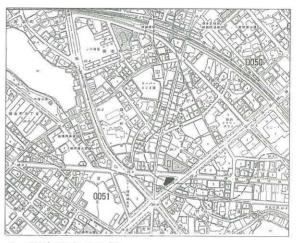
検出遺構 古墳時代初頭の箱式石棺墓3基、土壙墓1基 木棺墓1基検出し、それらを取り囲むと考えら れる溝を1条検出した。箱式石棺墓の内7号、 9号箱式石棺墓はすでに内部が掘られており、 以前工事中に発見されたものと考えられる。8 号箱式石棺墓からは人骨の頭部が出土した。箱 式石棺墓の内部には赤色顔料が塗られている。 副葬品は14号土壙墓からガラス小玉が出土した。 また、1号木棺墓の墓壙上に土師器の高杯、小 型丸底壺等が出土した。

出土遺物 この他、近現代のゴミ穴から弥生時代前期の 甕棺の破片がある。おそらく以前行われた工事 で出土した甕棺を廃棄したもの考えられる。今 回の調査では埋葬された形の甕棺墓は検出でき なかった。出土遺物はコンテナ10箱程である。

ま と め 以前発見された箱式石棺墓は方形周溝墓の主体部で、時期は古墳時代のはじめに位置づけられる。今回検出した方形周溝墓の溝は断片的にしか過ぎないが、1辺15m程の規模になるものと考えられる。この方形周溝墓は内部に少なくとも5基の主体部を持つものであろう。

また、弥生時代前期の甕棺は昭和5年の工事に際に出土したものと考えられる。この時に出土した副葬の小壺は現存しており、形態や時期等は判明していたが、今回不明だった甕棺が出土したことで、小壺との関係や遺跡の形成を考える上で重要な成果と言えよう。

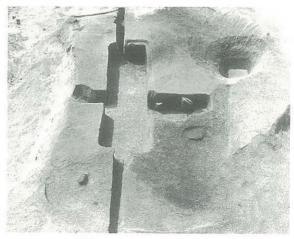
1997年度報告書刊行予定。



1. 調査地点の位置



2. 1号木棺完掘 (東から)



3. 方形周溝墓主体部 (西から)

## 9631 野芥遺跡群第8次調査 (NOK-8)

所 在 地 早良区野芥2丁目7-2

調查原因 共同住宅建設

調査期間 96.8.1~96.9.7

調 査 面 積240 m²担 当 者 米倉秀紀処 置 調査後破壊

位置・環境 早良平野を貫流する室見川の東側には、室見 川に沿って南北に走る洪積台地があり、野芥遺 跡はその台地の中程、ほぼ平野南端の山よりに 位置する。当調査区は、この台地の西側、沖積 地上にあり、標高約19mを測る。

現況は宅地で、表土下約20cmで遺構面を検出した。遺構面は砂を中心とする沖積堆積物である。地山が沖積堆積物で場所によって異なっているため、遺構の検出は困難を極め、一部掘り間違った部分もある。

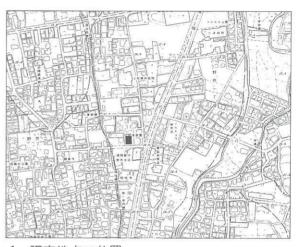
検出遺構・古墳時代中期:溝3条、土坑2基

・鎌倉時代:土坑1基 ・時期不明:溝1条

出土遺物 古墳時代の溝から大量の祭祀と思われる関連 の遺物が出土した。総量は、コンテナ約90箱で、 そのほとんどが古墳時代の溝からの出土である。 溝のほぼ全面の中程から上の層にかけて、おお まかに3層にわけられる、出土土器の群があり、 その中で、小形丸底壺、高环、ミニチュア土器 などの量が多く、そのほか滑石製石製品、模造 鏡などの土製品、絵画土器など祭祀系の遺物が 出土している。

ま と め 古墳時代の3条の溝のうち1条は一部の検出 のため詳細は不明である。残りの2条の溝は調 査区南端で1本の溝に合流している。土層断面 を見ても、同時併存の溝と考えられる。両方の 溝とも中程から上に祭祀関連の遺物があり、土 層と照らし合わせると、数度に渡る溝の掘り直し、もしくは洪水などによる形状の変化に対応していると考えられ、水路として使われた溝に おける祭祀の良好な資料といえよう。

なお報告書は1997年度に刊行の予定である。



1. 調査地点の位置



2. 調查区全景



3. SD02遺物出土状況

### 9632 吉塚遺跡群第 4 次調査 (YSZ-4)

所 在 地 博多区堅粕 4 丁目509

調查原因 共同住宅建設

調査期間 96.8.20~96.10.2

調 査 面 積 289 m² 担 当 者 大庭康時

処 置調查後破壞

位置・環境 福岡平野を北流する御笠川東岸の博多湾岸に 形成された数列の砂丘の内、最も内陸側の砂丘 の、項部付近にあたる。南側は砂丘背面の低地 北側は砂丘列間の低地となる。

> 本砂丘の東端には、中世に堅粕薬師として信仰をあつめ、重要文化財の仏像を伝えた市指定 史跡である東光院が位置している。

検出遺構 弥生時代から鎌倉時代におよぶ遺構・遺物を 検出した。遺構としては井戸・土坑・溝・柱穴 などがある。

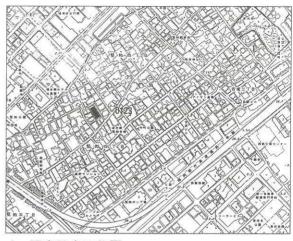
井戸は奈良時代から鎌倉時代、さらには現代のものまで検出された。古代の井戸の井側は曲物、中世では結い桶と思われたが、木質自体の遺存状態は極めて悪かった。

出土遺物 遺物は弥生時代後期の土器、古墳時代中期~後期の土師器・須恵器、奈良時代の土師器・須恵器、平安時代末から鎌倉時代にかかる土師器・瓦器・輸入陶磁器などが出土した。数量的には、土器・陶磁器コンテナ39箱、石製品・金属製品は同1箱程度である。

なお、滑石製石錘の出土が目立ち、生業の一端を示している。

ま と め 吉塚遺跡群第 4 次調査においては、中世前半期の遺構・遺物が出土し、該期の集落が立地していたことが知られた。しかし、中世後半期は欠落していた。本調査地点の東には、堅粕薬師として尊崇をあつめた東光院が存在することを思えば、中世後半期の様相の解明が待たれるところである。

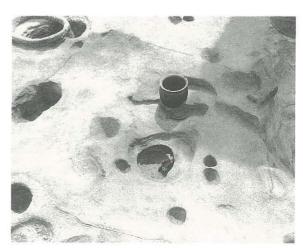
報告書は1998年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置



2. 1区全景(南東より)



3. 弥生時代正置甕出土状況

## 9633 博多遺跡群第99次調査 (HKT-99)

所 在 地 博多区祇園町2番1

調査原因ビル建設

調査期間 96.8.19~96.10.21

調査面積 160 m²

担 当 者 長家 伸

処 置調查後破壊

位置・環境 博多遺跡群は博多湾に面する砂丘の上に立地 する遺跡群で、 現在まで100ヶ所以上で調査が 行われている。各発掘調査では弥生時代から近 世・近代に至るまで各時代の遺構・遺物が多量 に発見されている。

検出遺構 調査は重機による表土の除去作業から行い、 現地表より80~120 cm除去した所から人力によ る調査を行った。調査は最終の砂丘面まで含め 4面の確認面でおこなった。上半の1・2面は 11~12世紀の遺構を主体とする。確認した遺構 は井戸・土坑・柱穴等である。出土遺物は日常 容器である土師器・中国産の陶磁器・鉄器・銅 銭などである。

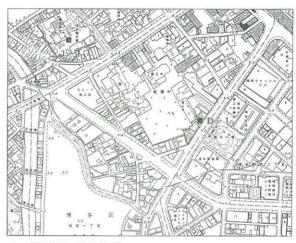
3面は8世紀前半の遺構が中心である。ここでは大型の掘立柱建物とこれに伴う区画の溝を検出している。この建物と軸を同じくする建物が、道路を挟んで南側の調査でも確認されており、対象地を含む周辺部分に奈良時代の大規模な施設があったと考えられる。

最終4面では古墳時代後期の竪穴住居跡を検 出している。住居にはカマドがつくり付けられ ており須恵器・土師器が出土している。なお古 式土師器を伴う遺構は認められなかった。

出土遺物 出土遺物は陶磁器、土師器、須恵器、鉄器、 青銅製品等コンテナ78箱である。

ま と め 古墳時代~中世の多くの遺構・遺物を確認することができた。特に3面の建物・溝は公的な施設の可能性もあり非常に注目されるものである。

報告書は1998年刊行予定。



1. 調査地点の位置



2. 2面全景



3. 4面全景

## 9634 有田遺跡群第183次調査 (ART-183)

所 在 地 早良区有田2丁目24-16

調 查 原 因 車庫兼事務所建設

調査期間 96.8.26~96.8.30

 調 查 面 積
 66 m²

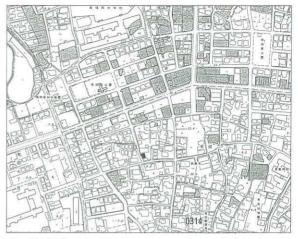
 担 当 者 久住猛雄

 処 置 調査後破壊

- 位置・環境 調査地は有田遺跡群の南縁に近く、戦国時代 の小田部城の推定地の北西100mにあたる。また 道路を挟んで北西25mに位置する第45次調査で は、弥生時代前期初頭の環濠の一部が検出され ている。
- 検出遺構 検出した遺構の時期は、近世またはそれ以降のものが主体である。溝、土坑、柱穴、埋設された甕などがある。中世と推定される暗褐色の覆土を呈する柱穴・土坑も若干ある。掘立柱建物が一棟復原されるが、柱穴から出土した土師器皿の破片から14世紀頃のものか。なお遺構確認面は、現地表下10cm程度で、すでに鳥栖ローム下部に達している。中世以前の遺構は見られない。現地は西側に比して高くなるが、遺構の状況から、近世以降の開発でこの地が削平されたことが推定できよう。
- 出土遺物 近世以降の陶磁器・瓦質の甕などの他、中世 の土師皿、弥生土器の破片が出土している。コ ンテナ3箱の遺物が出土した。
- ま と め 中世の屋敷地の存在と、近世以降の集落の展開が確認された。隣接地で確認されている弥生時代前期の環濠に関連する遺構は確認できなかった。本調査は、有田遺跡群の一角における土地利用の変遷を明らかにしたと言えよう。



3. 調査区近景(南から)



1. 調査地点の位置



2. 調査区全景(北東から)



4. 調査区近景(北から)

## 9635 金武古墳群吉武 G 群第 1 次調査 (KYK-G-1)

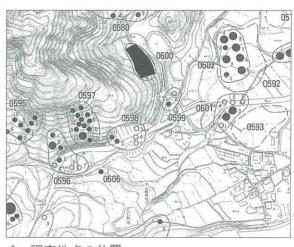
所 在 地 西区大字吉武字七郎谷765番他

調查原因造成

調査期間 96.8.20~97.2.1

調 査 面 積1,543 m²担 当 者荒牧宏行処置調査後破壊

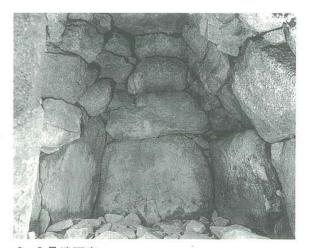
- 位置・環境 早良平野の奥まった丘陵に 145基の群集墳が 築造された金武古墳群が位置する。本調査区は 標高84~96mの丘陵斜面に位置する。最下の1 号墳以東から急落した谷になり、沢が流下する。 現況は山林である。
- 検出遺構 古墳時代後期の群集墳 4 基と焼土壙 1 基を検出した。古墳の遺存は良好で、横穴式石室の天井石が残る。時期は 3 号墳の 6 世紀後半から築造が始まり、2 号墳の 7 世紀初頭まで継続したものと考えられる。墳丘規模は10m以上を測る。墳丘に外護列石が巡り、谷側に土留を意識した堅固なものがみられる。特に最も墳丘規模の大きい2 号墳では 3 重に巡る。主体部は横穴式石室を構築している。石室内は盗掘を受け、鉄器片のみがわずかに残る。 1、3、4 号は単室であるが、2 号墳は複室を為し、前庭部にかけてハの字に広がる列石が墳端の外護列石に連結する。
- 出土遺物 上記のように石室内からの出土遺物は少なく、 周溝内に供献された土器類が大半を占める。特 に2号墳の前庭部と4号墳の周溝からの出土が 多い。4号墳の墓道からは掻き出されたと思わ れる耳環、管玉、勾玉が出土し、周溝内からは 新羅焼の長頸壺が出土した。総量コンテナ32箱。
- ま と め 約半世紀のうちに4基が築造されたものと思 われる。最も高所を占める3号墳が最も古く、 4号、2号と谷側に漸次降りて推移するものと 考えられる。石室、墳丘規模は2号墳が若干上 回るものの大きな差異は無く、階層性は見出せ ない。4号墳周溝からの新羅焼は近く、三郎丸 古墳、吉武塚原古墳からも出土し、留意される。 調査報告書は1997年度刊行予定。



1. 調査地点の位置



2. 2号墳外護列石(北から)



3. 2号墳石室

# 9636 三苫遺跡群第 4 次調査 (MTM-4)

所 在 地 東区三苫6丁目15

調查原因道路拡幅

調査期間 96.9.2~96.9.30

調 査 面 積 206 m² 担 当 者 久住猛雄

処 置調查後破壞

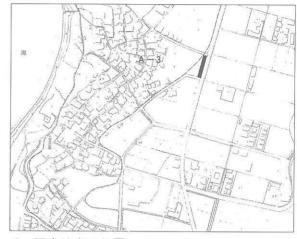
位置・環境 三苫遺跡群は、海の中道の基部、玄界灘に面 した海岸丘陵の東側緩斜面に位置する。本調査 地点は、その丘陵の一部が舌状に東側におりて きた部分の端にあたる。東側は河川が流れ、低 地となる。海岸丘陵の後背湿地に移る部分の遺 跡と言える。

検出遺構 遺構は、表土・客土を除去し、現地表下約80 cmで検出した。検出面の地山は灰白色の砂質シルトだが、この下に青灰色シルトが堆積している。地下水位が高く、この両者の層の間で湧水が見られる。遺構の覆土の多くは、暗褐色から黒褐色のシルトないし粘質土である。検出した遺構は、水路と考えられる溝が数状、土坑、柱穴、水田畦畔、東側の河川のための護岸と推定される杭列、池状落ち込み等である。これらはいずれも水田開発に伴う遺構であり、灌漑のための施設であろう。時期は出土遺物から中世後期のものが主体であろう。

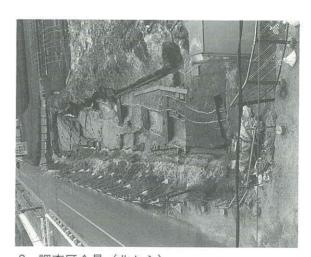
出土遺物 コンテナ5箱の遺物が出土した。大部分は溝からの出土である。遺物の種類は、土師器の杯・皿、青磁、白磁、天目茶碗、瓦質土器(鍋など)、擂鉢、木製茶椀、木簡?(判読不能)などがある。

ま と め 以上のように、中世後期(14世紀以降か)の 水田開発に関する遺構群を検出した。これらは 海岸丘陵の後背湿地であるこの付近の低地部の 開発史を知る上の貴重な資料となった。また付 近には、同時期の水田や、あるいは中世の集落 が展開していると考えられ、今後の確認が必要 である。

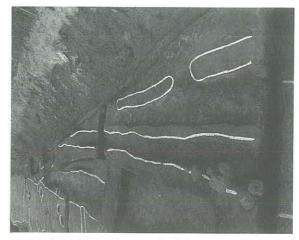
報告書は1998年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置



2. 調査区全景(北から)



3. 調査区南側の水田と溝(南から)

## 9637 井相田 D 遺跡群第 2 次調査 (ISD-2)

所 在 地 博多区立花寺1036-1

調查原因 外環状道路建設

調査期間 96.9.5~97.3.31

調 査 面 積 2,657 m² 担 当 者 井澤洋一

処 置調查後破壞

位置・環境 当該地は、御笠川と那珂川の二大河川によって形成された福岡平野の中流域に所在し現標高は約14.2mを測る。周辺では弥生時代初期の板付遺跡や雀居遺跡などの拠点集落が存在する。

検出遺構 発掘調査は、5面の遺構面について実施した。 当初は、現地表面より深さ約2mに所在する古 代~中世の水田跡の下層、標高約11.6mの青灰 色粘土層上面にて弥生時代の遺構が、更にその 下層の標高約9.5m(深さ5m) を測る砂層上か らは縄文時代の埋没林が出現した。

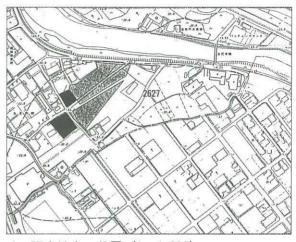
- ・1~3面 平安時代から室町時代の水田跡
- ・4面 弥生時代後期水田跡・池跡 古墳時代前期の溝(水路)跡
- ・5面 縄文時代前期から中期の埋没林

出土遺物 平安時代から室町時代の土師器・陶磁器、古 墳時代の土師器、弥生時代の土器・石器・木製 品・自然遺物、縄文時代前期から中期の土器・ 加工木・自然遺物等がコンテナ570箱分出土。

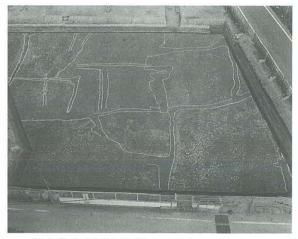
ま と め 従来、当該地周辺においては青灰色粘土層より下層には遺跡が存在しないと考えられていたが、洪水などによる著しい沖積作用により縄文・弥生時代の遺跡が地表から4~5mの深さに埋没していることが判明した。

埋没林の内、最大のものには、直径が約70cmを 測るアカガシがある。これらの倒木の内には石 斧等による加工痕を持つものもあるので柱や材 木として利用したことが考えられる。

縄文時代の森や林の発見例は全国的に少なく、 九州では初めてであるが、加工痕のある倒木の 発見は、縄文人が森を利用したことを示す最初 の例である。



1. 調査地点の位置(1:4,000)



2. 第1地点1面水田跡



3. 5面縄文時代の埋没林

## 9640 吉塚遺跡群第5次調査 (YSZ-5)

所 在 地 博多区吉塚 3 丁目

調查原因 道路建設

調査期間 96.10.1~96.11.15

調 査 面 積 225 m²

担 当 者 瀧本正志

処 置調查後消滅

位置・環境 遺跡は、福岡平野の東部、 海岸から800mほど内陸で、御笠川と宇美川との中間に位置する砂丘上に形成されている。砂丘は、南北300m、東西1,200mを測り、 調査地は遺跡の中央部に位置する。 遺構検出面の標高は2.5mである。

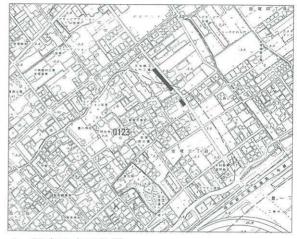
検出遺構 遺構は、地表下0.6mの黄灰色~黄白色砂の 上面で検出し、中世~近世に比定される井戸、 土坑、柱穴、河川などである。

出土遺物 出土遺物は、弥生時代〜近世に比定される弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土錘などが出土し、その総量はコンテナ12箱である。遺物の大半が地山(黄灰色〜黄白色砂)の上層に位置する暗茶褐色〜暗茶灰色の遺物包含層から出土している。しかし、生産時期の異なる遺物が混在していることからも、調査地域においては、近世以降に大規模な開削が行なわれた可能性が高い。

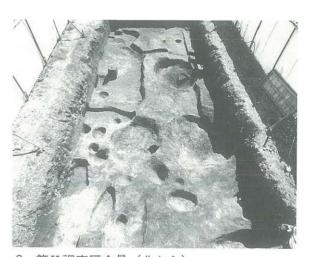
ま と め 今回の調査では、第III調査区において砂丘の 落ち込み認められることなどから、遺跡の範囲 が従来よりも狭くなる知見をえた。すなわち、 従来考えられていた砂丘の幅が狭くなり、砂丘 の高まりそのものが小規模なものである可能性 が高くなった。

出土遺物には、中世の中国産陶磁器が含まれる。特にその中で数点の越州窯産陶磁器片の出土は、これまで中世における交易関係の施設が博多などに限定されるものではなく、従来よりも広範囲に展開している可能性が高くなった。

発掘調査報告書は、1998年に刊行予定である。



1. 調査地点の位置



2. 第II調査区全景(北から)



3. 第II調査区SE17 (南から)

### 9641 松木田遺跡群第 3 次調査 (MKD-3)

所 在 地 早良区早良3丁目10番

調查原因 道路建設

調査期間 96.10.1~97.2.15

調査面積 1,045 m²

担 当 者 米倉秀紀・星野恵美

処 置調查後破壞

位置・環境 調査地は室見川上流域左岸の低位段丘面に位置する。早良平野の最奥部にあたる。すぐ南側の第2次調査では、弥生~古墳時代の集落が、西側の長垂遺跡では、弥生中期の甕棺墓が発見されている。

検出遺構 遺構面は上層・下層の2枚が確認された。

上層·弥生時代前期:土坑1基

· 弥生時代中期: 円形竪穴住居址3軒

· 古墳時代 : 方形竪穴住居址12軒

· 平安時代 : 井戸2基

· 時期不明 :掘立柱建物 3 軒、土坑

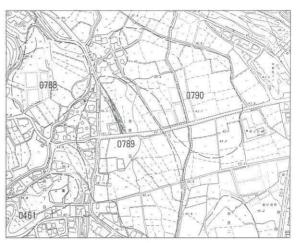
下層・縄文時代早期:炉2基、集石遺構1基

土坑

出土遺物 本調査ではコンテナ30箱の遺物が出土した。 縄文の層からは、大量の撚糸紋土器、石鏃、ポイント、磨石、石皿、黒耀石片が出土した。撚糸紋土器は、ほぼ単純で出土しており、底部は尖底を呈する。他には、弥生土器・布留式土器・土師器・須恵器・石包丁・石斧・鉄鎌・大量の黒耀石片、鉄滓が出土している。

ま と め 第 2 次調査に続き、弥生時代中期から古墳時代にかけての集落が確認された。特に弥生時代中期の円形竪穴住居址 1 軒は、直径10mを測る大型のものである。周辺では吉武高木遺跡・入部遺跡で確認されている。縄文層の発見は、調査当初予想していなかったことであり、撚糸紋土器の比較的まとまった資料は福岡市内でも柏原遺跡でしか発見されていない。松木田遺跡で大量の撚糸紋土器、石鏃等が単純で遺構に伴って出土したことは、今までよく知られていなかった北部九州における縄文早期の解明に一石を投じたといえる。

調査報告書は1998年刊行予定である。



1. 調査地点の位置



2. 調査区北側全景(上層)



3. 調查区南側全景(上層)

## 9642 青木遺跡第 3 次調査 (AOK-3)

所 在 地 福岡市西区大字青木地内

調査原因 道路改良

調査期間 96.9.26~96.10.25

調 査 面 積 293.6 m² 担 当 者 屋山 洋 処 置 調査後破壊

位置・環境 青木遺跡は今宿平野の東側を流れる七寺川の 左岸中流に位置する。遺跡は東西約40m、南北 100mの低台地上に分布している。台地は南側が 幅広く、北に向かって狭くなるため中世以降の 集落は南側がメインであると思われる。今回の 3次調査は青木遺跡の北寄りの西端の台地の落 ち際に位置する。元々は西に緩やかに傾斜して いたのが、耕地の造成によって段々に削平され ており、遺構の遺存状況は悪い。

検出遺構 中世 溝2条

土坑3基

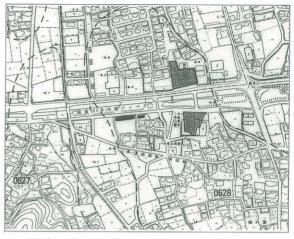
掘立柱建物3棟

時期不明 土坑1基

出土遺物 各遺構からはコンテナ1箱の遺物が出土した。 溝からは口縁に雷文が付く青磁碗や高台付き青磁皿・白磁の水注、土師皿等が出土している。 他の遺構からは素焼きの土器の小片のみで、目立った遺物は出土していない。

ま と め 第1次・2次調査では溝で区画された中世集 落が確認されており、今回の調査では集落の広 がりを確認することができた。

報告書刊行予定は1997年度である。



1. 調査地点の位置



2. 調査区全体図 (東から)



3. SK002 (南から)

## 9643 箱崎遺跡群第8次調査 (HKZ-8)

**所 在 地** 東区箱崎1丁目2549-6他

調 查 原 因 個人住宅兼共同住宅建設

調査期間 96.10.1~96.11.14

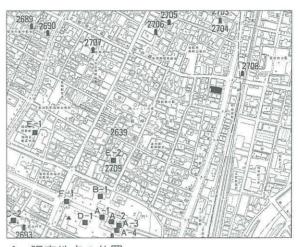
調査面積225m²担当者田上勇一郎処置調査後破壊

位置・環境 箱崎遺跡群は博多湾岸に形成された千代松原 から箱崎松原まで、南北に伸びる古砂丘上に立 地している。本調査地点はその東端部に位置し 現標高は3.1mを測る。

検出遺構 遺構は地表下60~70cmの黄褐色砂の上面で検出した。攪乱が多かったものの、古墳時代、中世、近世の遺構を検出した。古墳時代では、前期の竪穴住居2軒と、飯蛸壺を20個体近く納めた土坑がある。中世では、多数の土坑の他調査区南西部に集中し井戸4基を検出した。近世は平行する2条の溝と土坑を検出した。

出土遺物 コンテナ20箱分の遺物が出土した。古墳時代 前期と近世の遺物が多い。古墳時代前期の住居 からは、布留式や庄内式の甕や飯蛸壺が多く出 土した。また、韓国南部の瓦質土器の破片も出 土している。土坑から出土した飯蛸壺は底部に 穿孔があり、九州では珍しいタイプである。中 世の遺物は土師器の杯、皿、青磁白磁などがあ るが、量は少ない。近世の遺構からは肥前陶磁 や瓦の他、磁州窯系の白磁鉄絵壺の破片が出土 している。

ま と め 今回の調査では箱崎遺跡群で初めて古代以前にさかのぼる遺構が確認された。古墳時代前期の2軒の竪穴住居からは古式土師器の良好な一括資料が出土した。また、飯蛸壺を納めた土坑は飯蛸漁の初現地である播磨灘や大阪湾岸の遺跡ではみられるが、九州では博多区の堅粕遺跡群に次いで2例目である。当時の生業を示す貴重な発見となった。



1. 調査地点の位置



2. 調查区西半全景



3. タコ壺を納めた土坑

## 9644 箱崎遺跡群第 9 次調査 (HKZ-9)

所 在 地 東区箱崎1丁目1935-1

調查原因 共同住宅建設

調査期間 96.10.2~96.10.29

調査面積 191m²

担 当 者 本田浩二郎·大庭康時

処 置調查後破壊

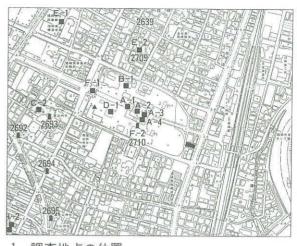
位置・環境 箱崎遺跡群は、御笠川・宇美川に挟まれた博 多湾東岸沿いの南北に延びる標高4m前後の砂 丘上に立地している。9次調査地点は本遺跡群 の東南縁辺部に位置し、箱崎宮境内に隣接して いる。調査は現地表から2m程度の整地層を除 去した褐色砂層を遺構面として行った。調査に 先行して基礎工事が一部行われていたが、それ 以外の攪乱は少なく遺構の遺存状態は良好であ った。

検出遺構 8次までの調査成果と比較すると遺構の密集 度は低い。検出した遺構は古代末から中世にか けてのもので、井戸12基、溝1条、土坑、その 他建物としてはまとめきれない柱穴、ピット群 を検出した。

出 土 遺 物 コンテナ12箱の遺物が出土した。出土遺物は 土師器、青磁、白磁、瓦、瓦器、貨銭等である。

ま と め 今回の調査地点は現箱崎宮境内に接しており 箱崎宮創建当時(10世紀中頃)の遺構の存在が 考えられたが、該期の遺構は検出されなかった。 本遺跡群では12世紀後半から13世紀前半の期間 で遺構が減少する傾向が中央部や箱崎宮周辺に 認められており、今回の調査結果はこの傾向に 合致している。

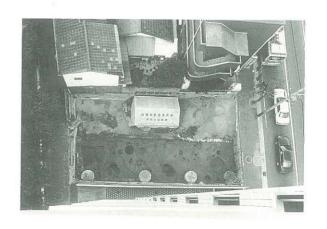
なお、調査報告書は1997年度刊行予定。



1. 調査地点の位置



2. 北半全景 (南から)



3. 南半全景(南から)

### 9645 那珂遺跡群第59次調查 (NAK-59)

所 在 地 博多区那珂6丁目地内

調查原因 道路拡幅

調査期間 96.10.14~96.11.15

調査面積 178 m²

担 当 者 宮井善朗

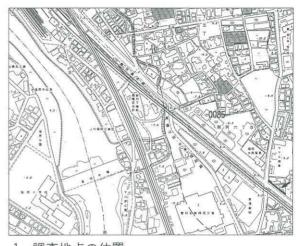
処 置調查後破壞

位置・環境 調査地点は那珂遺跡群の南西端にあたる。那 珂川に面した台地の縁辺部である。

検出遺構 今回調査地点は、調査区の南端に台地部分が わずかに残るが、中央やや南よりから北側にか けて、段落ちになる。段の南端はかなり急な斜 面となるが、北に向かってゆるやかに起伏し、 北側には明確な肩が無い。段落ちの床面には不 定形の土壙が散在するほか、人為的な掘り込み と思われる溝2条、大形のピット2基を検出し た。台地部分はかなり削平されていると考えら れ、溝1条、ピットを検出したのみである。

出土遺物 出土遺物は総量でコンテナ8箱である。ほとんどが段落ち覆土である包含層からの出土である。包含層内の遺物は、奈良時代のものを主体とし、段落ちが埋まった跡に、平安時代~中世遺物を包含する層が堆積している。

なお報告書は1997年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置



2. 那珂遺跡群第59次台地部遺構



3. 那珂遺跡群第59次谷部遺構

## 9646 箱崎遺跡群第10次調査 (HKZ-10)

所 在 地 東区箱崎3丁目地内

調查原因道路建設

調査期間 96.11.11~97.3.31

調査面積 1,020 m²

担 当 者 田上勇一郎

処 置調查後破壊

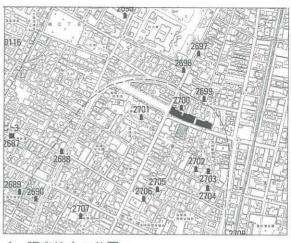
位置・環境 今回の調査地点は博多湾東岸に形成された南 北に伸びる古い砂丘上に立地する箱崎遺跡群の 北部の東端にあたる。標高は3.8~2.5mで、東 に緩やかに傾斜している。

検出遺構 黄褐色砂層の上面で中世・近世・近代の遺構を検出した。中世の遺構は井戸・土坑・溝・ピットがあり、特に西側に集中して検出された。井戸は発掘区内の2ヶ所に集中して見つかっている。また、馬の埋葬土壙を検出した。発掘区の東端では砂丘の落ち際が検出された。近世・近代の遺構は東側に多く、瓦組の井戸や土坑を検出している。

出土遺物 コンテナ120箱分の遺物が出土した。 中世の 遺物は遺構が濃密に分布する西側で多かった。 12世紀後半から13世紀初めの青磁・白磁の碗や 皿、土師器の杯や皿、滑石製石鍋や土鍋、東播 系の須恵器の捏鉢や土錘のほか、取瓶や鍋の鋳 型などの鋳造関係の遺物も出土した。また、永 楽通寶を最新銭とする91枚の銭が緡の状態で発 見された。砂丘の落ち際には人骨と動物骨が散 乱した状態で出土した。近世・近代の遺物は、 肥前陶磁や瓦、火鉢などが多量に出土した。こ の他、古墳時代前期の土師器の甕や高杯、飯蛸 壺の破片が少量採集されている。

ま と め 今回の調査では箱崎遺跡群北部の東端が確認された。検出した中世の遺構は12世紀後半から13世紀初めの時期にほぼ限定される。これは6次調査地点の成果と合わせ、箱崎遺跡群北部の特徴といえる。この時期の遺跡群の中央部で遺構が減少するのと対照的である。1151年(仁平元年)の太宰府官人による博多・箱崎の大追捕に関連した現象であろうか。

1998年報告書刊行予定である。



1. 調査地点の位置



2. 調査区西側全景 (東から)



3. 馬の埋葬土壙(北から)

#### 9647 博多遺跡群第100次調査 (HKT-100)

所 在 地 博多区中呉服町2番18号

調査原因 社屋ビル建設

調査期間 96.10.23~96.11.29

調 査 面 積 160 m²

担 当 者 大庭康時

処 置調查後破壞

位置・環境 中世都市「博多」を形成する二つの町場、博 多浜・沖浜の内、沖浜の内陸斜面に位置し、両 町場を隔てる低湿地に面する。また、第98次調 査地点の東に接する。

検出遺構 4面の調査を実施し、井戸・柱穴・溝を検出 した。

> 井戸は近代以降に属する。中・近世の井戸は、 調査範囲内ではみられなかった。

土坑・柱穴は14~16世紀のものである。

溝は、調査区を北東から南西に横断するもので、13世紀後半~14世紀前半頃に掘削された。 最初は幅3mをこえる大型の溝であったが、数回の掘り直しが行われ、最終的には幅40cm程に小さくなっている。

出土遺物 土師器・瓦器・陶磁器がコンテナ17箱、木製 品同1箱、骨類同2箱が出土した。

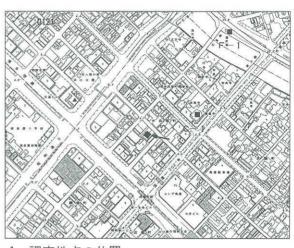
> 木製品には箸・下駄・折敷底板・曲物底板があり、「□□やうくろこめ」 (二□用玄米) と 墨書した板片も見られた。

> 骨は人骨(上腕・歯)・獣骨・魚骨が出土している。

ま と め 遺構密度は極端に低く、土層観察からみても 13世紀以前は低地で都市化していなかったと考 えられる。

> 溝は低湿地上に営まれた町屋の、排水機能を 負ったものであろう。溝内の泥土層内から出土 した墨書木片(上述)は、断片のため、その意 味するものは明らかではない。何かの用途を負 って運上された玄米に付けられた木片であろう か。いずれにしても、遺物の出土量は少なく、 遺構密度の低さとあわせて、都市縁辺の様相を 示すものと理解される。

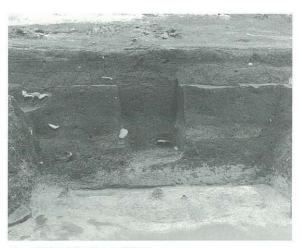
報告書は1999年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置



2. 第3面全景 (東より)



3. 調查区南壁土層断面

### 9648 雑餉隈遺跡群第 9 次調査 (ZSK-9)

所 在 地 博多区元町3丁目1番

調查原因 共同住宅建設

調査期間 96.10.23~96.11.29

調査面積 733 m²

担 当 者 加藤隆也

処 置調查後破壊

位置・環境 雑餉隈遺跡群は那珂川と御笠川に挟まれた台地上にあり、周辺には南八幡遺跡群、麦野A、B、C遺跡群などが位置する。周辺遺跡群においては旧石器時代の石器、縄紋時代の落し穴、弥生時代、古墳時代の竪穴住居などもみられる。

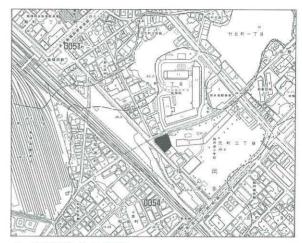
検出遺構 方形と円形を呈する掘方で構成され「L」字形に配置する大型建物を2棟検出した。1棟は2間×4間以上の規模をもち桁行を磁北方向に向けている。前述の1棟と直角方向に位置する建物の規模は2間×5間以上である。

大型建物の周辺には27基の土坑群がみられる。 平面形は隅丸の長方形を主体に四角、円形、不 定形とさまざまである。

それ以外に、2軒の竪穴住居が検出された。 1軒は南西隅に位置し住居の約半分は調査区外 にのびる。もう1軒は南側にて検出され、平面 は隅丸の四角形を呈する。この住居には北側に 造り付けのカマドがあり、その周辺には焼土や 炭、白色粘土塊などがみられた。

出土遺物 大型建物の柱穴内遺物は少なく須恵器坏蓋の 破片がみられる。土坑内出土の遺物には土師器、 須恵器の小破片がある。住居の床面からは8世 紀代の土師器の甕、須恵器の蓋坏、壷などが出 土している。

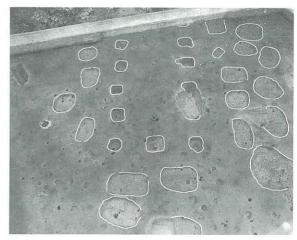
ま と め この地域は、大宰府から博多湾に向けてのびる2本の官道に挟まれており、周辺遺跡では類例のない大型掘立柱建物と土坑群を検出した。 東西に長軸をとる建物は柱穴の規模や柱材の太さが南北に長軸をとる建物より大きく、建物群は南側を正面として建てられていたと考えられる。また、土坑群の性格は不明であるが、特徴として、大型建物の内側にないこと、建物跡とも切り合わず、土坑どうしも重複しないことがあげられる。



1. 調査地点の位置



2. 調査区全景 (南から)



3. 2号建物検出状況 (東から)

### 9649 飯氏遺跡群第8次調査 (IIJ-8)

所 在 地 西区大字千里字扇子276-4

調 查 原 因 個人専用住宅

調査期間 96.11.6~96.12.11

調 査 面 積 308 m² 担 当 者 大塚紀宜

置 調查後破壞

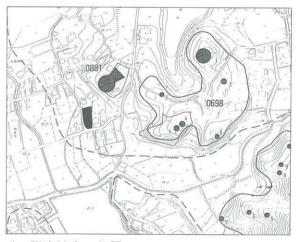
如

位置・環境 本遺跡は高祖山北東部に広がる低丘陵の縁辺 部の段丘上に位置する。飯氏二塚古墳の南西側 に隣接する。遺構面の標高は16m後で、旧況は 水田、現況では宅地化されている。

検出遺構 今回の調査では弥生時代中期から古代までの 遺構を検出した。弥生時代中期の遺構は竪穴住 居跡を主として、計16棟検出している。住居跡 の規模は最大で一辺6m前後、最小のもので4 mを測る。住居跡同士の切り合いが著しく、個々 の住居の残りが悪いため住居構造を判断するこ とが困難となっている。古代の遺構としては製 鉄関連の一連の遺構が検出されている。製鉄炉 は中央に箱型炉を築き、両側に排滓溝を備える 形態で、全長3.4m推定炉床部分60~80cm。製鉄 炉に隣接して鍛冶炉は密集して出土し、いずれ も削平著しい。また奈良時代に属する掘立柱建 物を1棟検出した他、多数の柱穴を検出する。 柱穴は掘方が大型で深く、大型の建物が想定さ れる。

出土遺物 出土遺物総量はコンテナ30箱分ある。大半は 弥生時代中期後半~後期初頭の土器である。包 含層上層からは須恵器も少量出土する。製鉄炉 から鉄滓を採集したが、総量で土納袋8袋と製 鉄遺構としては少量である。

ま と め 飯氏遺跡群全体からみて比較的南側の端部に あたる本調査区で濃密に遺構が分布することを 確認し、段丘上に大規模な遺跡群が存在するこ とが考えられる。製鉄遺構は福岡平野周辺で集 中して分布し、飯氏地区での出土はこの傾向が さらに広がり、糸島地区と連続した分布状況を 示すことが考えられる。隣接する飯氏二塚古墳 と直接関連する遺構は検出されなかった。



1. 調査地点の位置



2. 調査区北側全景(南より)



3. 調査区南側全景(南から)

## 9650 斜ヶ浦瓦窯址第3次調査 (NNG-3)

所 在 地 西区生の松原4丁目2番

調查原因確認調查

調査期間 96.11.6~96.12.27

調査面積 310 m²

担 当 者 屋山 洋

処 置 埋め戻し保存

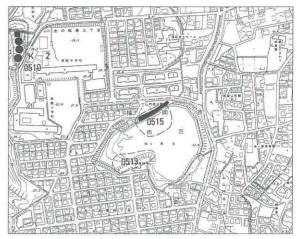
位置・環境 斜ヶ浦池は長垂山山塊から東にのびる丘陵上 に位置し、丘陵間の狭い谷をせき止め潅漑用の 溜め池を構築している。大正時代に池の岸で瓦 片が出土したが、瓦に『警固』や『伊貴作』の 文字がかかれていたため、鴻臚館関連の瓦であ ると注目を浴びた。その後昭和27年に3基の窯 が確認され、瓦の製作地であることが判明した が、分布範囲などは不明であった。今回、池の北 岸と西岸を試掘し、遺構の分布範囲を確認した。

検出遺構 西岸は岸の斜面部は試掘できず、底部のみの 調査であったが、削平が著しく遺構は確認でき なかった。北岸は斜面に沿ってトレンチを入れ たところ、瓦窯を7基、炉を1基、その他柱穴 を確認した。柱穴は窯群と同時期で、関連する 施設と考えられる。

出土遺物 池の周辺からは軒丸瓦・軒平瓦各1点を含む 多くの瓦片を採取した。また、北側の斜面に設 定したトレンチや窯内からも多くの瓦片が出土 している。また、7号窯内からは土師質の高台 付き椀が出土した。

ま と め 瓦窯は7基のみではなく、外にも数基存在するものと思われる。東端のトレンチでは窯内の土が1m以上堆積しており、近くに窯があると思われる。西側は地形や以前の調査から公園西側の民家の下にも延びる可能性がある。窯は登り窯と思われるが細部の構造は不明である。大きさは幅2m、高さは90cm前後、窯と窯の間隔は1mである。壁は15cmほどの厚さで酸化還元しており、遺構の遺存状況は良好である。窯の中から『警固』とかかれた瓦が出土した。

報告書刊行予定は未定である。



1. 調査地点の位置



2. 遺跡遠景



3. 遺物出土状況

# 9651 黒塔 A 遺跡群第 1 次調査 (KTA-1)

所 在 地 早良区大字西入部

調查原因 宅地造成

調査期間 96.9.11~96.11.5

調 査 面 積 1,190 m² 担 当 者 大塚紀宜

置調查後破壞

如

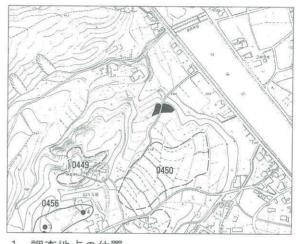
位置・環境 本遺跡は室見川上流西側の川岸段丘の先端部に位置する。東側は傾斜の強い斜面を経て室見川に接し、北側も谷に面している。東入部遺跡が本遺跡の東側に近接し、北側に浦江谷遺跡群が隣接する。調査地点が道路で区切られている都合上、北側をA区、南側をB区として調査を進めた。

検出遺構 A区では、柱穴等を検出した。遺構の密度は 薄く、明瞭な建物は構成しない。削平が著しく 本来は甕棺墓を含むさらに多くの遺構が存在し た可能性がある。B区では甕棺墓群、柱穴を検 出する。いずれも遺存状況はかなり悪く、削平 を大きく受けている。甕棺墓は50基出土し、調 査区北東側に集中している。一部は崖縁に位置 していることから、本来はさらに東側まで段丘 が延び、甕棺墓が続いていたと考えられる。柱 穴は甕棺墓域から離れた調査区南側で検出した。 甕棺墓築造以降のものと考えられるが、建物跡 等は認められない。

出土遺物 甕棺は中期後半のものが大半を占める。また 小児棺の1基から管玉が出土している。柱穴群 に関連する遺物はほとんど見られない。遺物総 量はコンテナ110箱ほどである。

ま と め 今回の調査は、隣接する浦江谷遺跡や黒塔A 遺跡群第2次調査と合わせ、室見川上流の西岸 一帯に甕棺墓域が集中することを裏付ける証左 となるものである。近接する東入部遺跡群の甕 棺墓と比較して質的な差異が見られることから、 室見川両岸での弥生時代中期の甕棺墓葬の関係 を検討する必要がある。

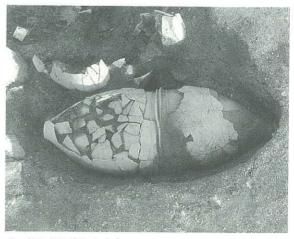
報告書は平成10年度発行予定である。



1. 調査地点の位置



2. B区全景 (南から)



3. ST-16 (北から)

### 9652 蒲田部木原遺跡第5次調査 (KHH-5)

所 在 地 東区蒲田 2 丁目787、788-1

調查原因 倉庫建設

調査期間 96.10.21~96.11.16

調 査 面 積 924 m²

担 当 者 長家 伸

処 置 基礎部分のみ破壊

位置・環境 蒲田部木原遺跡群は多々良川左岸の沖積微高 地に向かって張り出す低丘陵の西側先端部分に 立地する。

検出遺構 今回は対象地域内の倉庫基礎部分のみの調査 にとどめ、これ以外は盛土保存の措置を取って いる。

> 調査は重機による表土の除去作業から行った。 100~170cmの表土を除去し黄色シルト面で遺構 の確認を行った。また対象地の南端部分は旧河 川部分に落ち込むことが確認されており、発掘 調査は基礎3列分行っている。

確認した遺構は溝・土坑・柱穴などがある。 遺構は調査地全体にまんべんなく存在しており 遺構密度の違いは見られなかった。

遺構からの出土遺物は弥生土器、古墳時代の 土師器・須恵器等が見られた。また弥生時代の 遺構に混じって縄文時代の遺物も確認されてい る。これらの事から本調査地点で発見した遺構 は弥生時代~古墳時代に位置づけられると考え られる。また縄文土器が出土していることから、 本調査地点の周辺に縄文時代の遺構が存在する 可能性が高いと考えられる。

出土遺物 出土遺物はコンテナ6箱分である。

ま と め 今回の調査は基礎部分のみのトレンチ状の調 査のため全容は不明瞭であるが、周囲の調査事 例と合わせて検討する必要がある。

報告書は1998年刊行予定である。



1. 調査地点の位置



2. 調査区全景(西から)



3. 土坑土器出土状况

### 9653 弥永原遺跡第5次調査 (YNG-5)

所 在 地 南区曰佐3丁目88-1

調查原因 宅地造成

調査期間 96.11.26~96.12.27

調査面積 321 m²

担 当 者 宮井善朗

処 置調查後破壊

位置・環境 調査地点は1、2次調査地点の北側にあたる。 舌状丘陵の項部から西側斜面にあたり、北側か らも浅い谷が入り込んでいる。

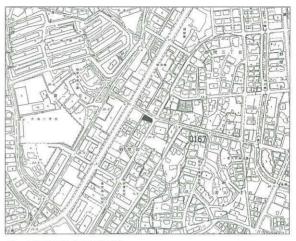
検出遺構 狭い調査面積であるが、住居跡を3基、溝が 2条、ピットなどを検出した。

> 住居跡はいずれも長方形で、弥生時代終末~ 古墳時代初頭である。いずれも2本柱である。 2基は「コ」の字状にベッドが巡り、1基は両 端にベッドを持つ。内1基は、壁際土壙、主柱 に切り合いがあり、建て代えが認められる。溝 は古代と考えられ、2条がほぼ平行する。北側 の延長には谷があり、道路の側溝とは考えがた い。

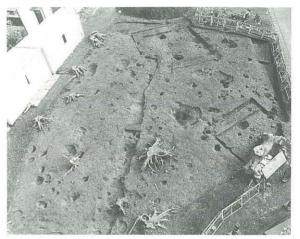
出土遺物 出土遺物は総量でコンテナ6箱である。

ま と め 弥永原遺跡は弥生時代の大規模集落として古くから著名であり、過去にはガラス勾玉鋳型や、小形彷製鏡等が出土している。しかし部分的な調査しかなされないまま、周辺は宅地化してしまっている。今回も集落の実態の解明には、あまり多くの資料を付加したとは言えないが、今後の調査例の増加に期待したい。

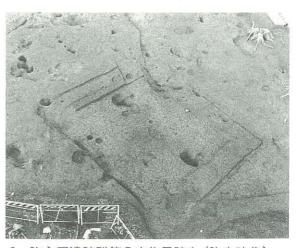
報告書は1998年刊行予定である。



1. 調査地点の位置



2. 弥永原遺跡群第5次全景



3. 弥永原遺跡群第5次住居跡1(弥生時代)

# 9654 中村町遺跡群第 2 次調査 (NMM-2)

所 在 地 南区野間4丁目地内

調査原因 道路建設

調査期間 96.12.3~96.12.4

調査面積 21 m²

担 当 者 長家 伸・井上繭子

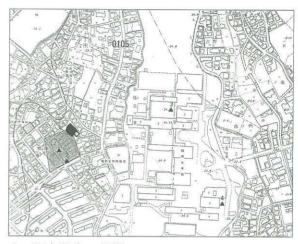
処 置調查後破壞

位置・環境 中村町遺跡群は、福岡平野の西側、南方の片 縄山から北へ向かって派生する丘陵に位置する。 本調査区はこの丘陵の南西側斜面下の沖積地に 立地し、調査区の西側は河川、東側は削平され た丘陵斜面となる。遺構面までは、約80cmの厚 さの客土以下、鉄分もしくは砂を含む粘質土層 が数層堆積している。地表下約2m、標高9.6 ~9.7mの青灰色粘質土層が遺構面となる。この 層の下は砂混じりの黄灰白色粘質土層、荒砂層 となり、水がわいてくる。

検出遺構 調査区北東壁に半分切られている不明土壙7 基、ピット、木の根の跡かと思われる不明土壙 状の落ち込み1基が検出された。

出土遺物 遺物は少なく、コンテナ1箱に満たない。不明土壙より土師器の小破片、遺構面直上の黒褐色土層より須恵器片、混入と思われる陶磁器片が出土しているのみである。

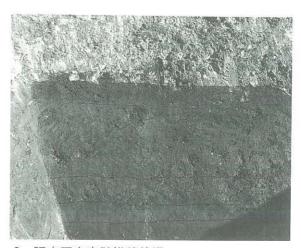
ま と め 本調査区の南西、丘陵の先端に中村町遺跡第 1次調査地点が位置する。この地点は丘陵斜面 上ということもあり、赤褐色土の地山上に古墳 時代後期の住居跡が分布している。これに対し て本調査区は、西側に河川が流れる丘陵の麓の 沖積地に立地していることもあり、集落から外 れた地点と考えられる。



1. 調査地点の位置



2. 調査区全景(北から)



3. 調查区南東壁推積状況

### 9655 伊都地区区画整理に伴う試掘調査

所 在 地 西区今宿・徳永・女原

調査原因 区画整理

調査期間 96.12.9~97.3.31

調査面積 200 m²

担 当 者 菅波正人

処 置 調査後埋め戻し

位置・環境 事業地は長垂山の西側にあたり、東をJR今宿駅、西を同周船寺駅、南を202号バイパス、北を国道202号線に接する。事業地の地形は高祖山から派生する丘陵と前面に砂丘の後背湿地が広がる。事業地の中には幾つかの周知の遺跡がある。丘陵の裾部には今宿大塚古墳、大塚遺跡、徳永 A 遺跡、周船寺遺跡群などが知られている。今回の調査は事業に先立って、周知の遺跡の広がりや未発見の遺跡の存在、また低地部の形成時期の確認のため行った。調査は次年度の耕作等を考慮して、耕作土とそれ以下の土とを分けて掘り下げ、記録後、再び旧状に戻すという方法で行った。

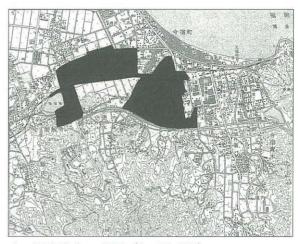
検出遺構 試掘の結果、以下の状況が把握できた。

事業地の北側の低地部は耕作土、床土以下20~40cmで粗砂層となる。場所によっては貝の堆積も見られ、河口付近の状況を示している。遺物はほとんど含まれない。JR筑肥線付近は近世まで河口であったことが確認できた。

大塚古墳の北側では耕作土、床土以下50~90 cmまで包含層があり、地山の黄灰色粘質土となる。遺物は須恵器、土師器、黒耀石等が出土した。古墳時代~古代の遺構が予想される。

今宿五郎江遺跡の東側では耕作土、床土以下は50cmで暗褐色粘質土となる。弥生時代~中世の水田と考えられる。

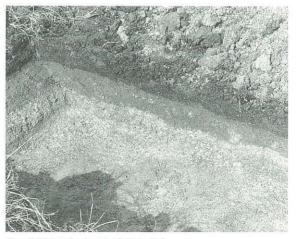
ま と め 試掘は部分的ではあるが、新たな遺跡の発見 はなかった。また、周知の遺跡についても範囲 を大きく変更するものではない。ただ、大塚遺 跡、今宿五郎江遺跡周辺の谷部には水田遺構が 存在し、調査が必要と考える。



1. 調査地点の位置(1:50,000)



2. 試掘トレンチ (南から)



3. 試掘トレンチ (南から)

## 9657 桑原金屎古墳第 1 次調査 (KKA-1)

所 在 地 西区桑原字金屎

調查原因 九州大学統合移転

調査期間 96.8.20~96.11.29

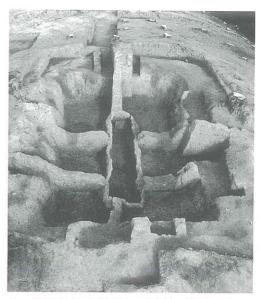
調査面積 605 m²

担 当 者 池崎譲二·久住猛雄

処 置確認調査

位置・環境 水崎山から西に派生する丘陵より、更に北側 に延びる標高50m程度の舌状丘陵上に位置する。

調査概要 調査は、墳丘規模と埋葬主体部の構造を確認することを目的とした。墳丘規模は全長24m、後円部径12m、前方部長14m、前方部幅10m、くびれ部幅6.5mの前方後円墳であることが確認され、地山整形後、薄く盛土されていた。埋葬主体部は、割竹形木棺直葬の粘土槨で、後円部中央に位置する。木棺は、長さ2.7m、幅約60cmで、床全面にベンガラが、被葬者の頭部には朱が撒かれており、青銅鏡2面が副葬されていた。築造年代は、4世紀代と考えられる。



1. 桑原金屎古墳主体部全景(西より)

# 9658 元岡石ヶ原古墳第1次調査 (MOI-1)

所 在 地 西区元岡字石ヶ原

調査原因 九州大学統合移転

調査期間 96.8.27~96.11.29

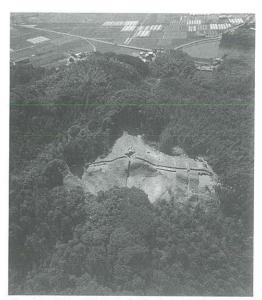
調査面積 675 m²

担 当 者 松浦一之介

処 置確認調查

位置・環境 水崎山から別所山に延びる丘陵のほぼ中央に 位置し、標高約70mの細い尾根上を占地する。

調査概要 調査は、墳丘規模と埋葬主体部の構造を確認することを目的とした。この丘陵群一帯には、中世山城「水崎山城」があり、地形は山城や果樹園造成等で大きく改変されている。後円部墳項は盗掘により大きく陥没しており、石材は、大部分が抜き取られていた。調査の結果、墳丘推定規模は全長55m、後円部径34.4m、前方部長20.6m、前方部幅23m、くびれ部幅8.4mの前方後円墳で、埋葬主体部は長さ3.6m、幅2.1mの両袖式単室の横穴式石室であることが確認された。遺物は石室や各トレンチから須恵器、土師器、鉄鏃、鉄刀等が少量出土している。築造時期は6世紀代と推定される。



2. 元岡石ヶ原古墳全景(北より)

### 9659 元岡遺跡群第 2 次調査 (MOT-2)

所 在 地 西区桑原字柿ヶ元

調 查 原 因 九州大学統合移転

調査期間 96.4.1~96.9.30

調查面積 3,007m² 担 当 者 久住猛雄

置 調査後埋め戻し

位置・環境 本調査区は、大原川の左岸に形成された沖積 地上に立地し、一部は砂礫台地上にある。調査 面での標高は上流側で18m、下流側で15m程度 を測り、現況は水田である。

検出遺構 元岡遺跡群第1次調査(確認調査)によって、 この区域に古墳時代の遺跡の存在が確認された。 現在の水田区画を残して7区の調査区に分けた。 第2次調査で検出した遺構は、以下の通りで ある。

· 縄文時代後~晚期:土塘2基、遺物包含層

· 弥生時代中~終末:遺物包含層

• 古墳時代前期 :旧河道、溝1条、掘立柱

:建物5棟(1×1、時期

は不確実)

· 古墳時代後期 :遺物包含層

: 溝2条、遺物包含層 • 奈良時代

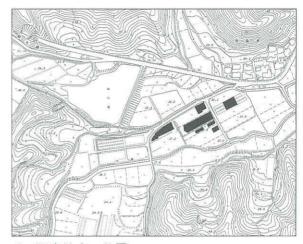
:水田跡、土器溜

• 平安時代

: 井戸跡 1 基 • 時期不明

出土遺物 縄文時代から平安時代までの土器類と、縄文 時代の石器及び奈良時代の鉄滓が出土した。総 量は、コンテナに35箱分となる。

まとめ 調査地は、昭和40年代の大規模な圃場整備に よって地形が大きく改変され、遺構の遺存状況 は良くなかった。しかし、縄文時代後期以降、 連綿として人々の生活の痕跡をたどることがで きた。縄文時代晩期の土壙2基は、壙底より木 の実が多く出土した。これは堅果類を貯蔵した いわゆるドングリピットである。また、4区か らは、古墳時代前期の土器に伴って、韓国南西 部の陶質土器の破片が出土している。このほか、 緩斜面上の遺物包含層には、須恵器の破片が多 く確認された。



1. 調査地点の位置



2. 水田跡全景(北東より)



3. 7区7002号土壙(南より)

# 9660 博多遺跡群第101次調査 (HKT-101)

所 在 地 博多区下呉服町484

調査原因ビル建設

調査期間 96.12.16~97.1.14

調査面積 180 m²

担 当 者 長家 伸

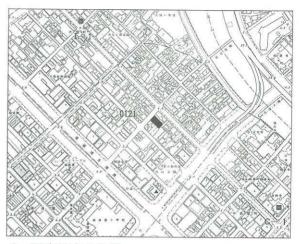
処 置調查後破壞

位置・環境 博多遺跡群は博多湾に面する砂丘の上に立地 する遺跡群である。調査対象地点は最も博多湾 側に形成された息の浜と呼ばれる砂丘上に位置 している。

検出遺構 調査は重機による表土の除去作業から行い、 230cm程除去した所で人力による調査を行った。 調査面は海成の粗砂層で調査面標高は2.3 mで ある。確認した遺構は井戸・土坑・柱穴・石組 土坑などがある。遺構の時期は出土遺物から考 えておおよそ15世紀以降に位置づけられる。こ の中で石組土坑は用途が不明であるが、遺構の 埋土が他の遺構に比べ、水分を多く含んだ黒色 土が堆積しており便所等汚水・汚物を溜めた升 である可能性が考えられる。

出土遺物 土師器、陶磁器、鉄器、青銅品、銅銭などが コンテナ21箱分出土している。

ま と め 調査区内では風成の砂丘砂は存在せず軟弱な 海成砂である。利用が始まるのは15世紀以降で あり、博多の街区の広がりを示すものである。 報告書は1998年刊行予定。



1. 調査地点の位置



2. 北側全景(北西から)



3. 石組遺構

## 9661 麦野 B 遺跡群第 4 次調査 (MGB-4)

所 在 地 博多区南本町2丁目4番2外2筆 調查面積 269㎡

調查原因 共同住宅建設

調査期間 97.1.27~97.3.31

調査面積 269 m<sup>2</sup> 担 当 者 加藤隆也

如

置 調查後破壞

位置・環境 麦野B遺跡群は那珂川と御笠川に挟まれた台地上にあり、周辺には麦野A・C遺跡群、南八幡遺跡群、雑餉隈遺跡群などが位置する。奈良時代この地は、大宰府から博多湾に向けてはしる2本の官道に挟まれており、これまで多くの掘立柱建物、竪穴住居が調査されている。

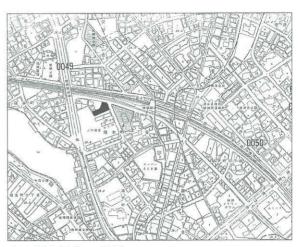
検出遺構 調査においては奈良時代の竪穴住居、柱穴、 溝を検出した。調査地の地形は、東側は谷に向 かって低くなっており、西側高所には住居跡が みられる。

西側のローム層上面にて方形を呈する竪穴住居を検出した。周辺の状況は、すぐ西側と南側に奈良時代の同様な住居が方向をあわせてみられることから奈良時代の集落のもっとも谷よりの建物と考えられる。また、その周辺には柱穴もいくつかみられ掘立柱建物を伴うことも考えられる。

谷部と高所の境にて幅約30cmの溝が検出された。この溝からは8世紀代の遺物が出土しており、住居跡と同時期のものである。谷部と居住区を分けるという意識の上に意味を持つものであったと考えられる。

調査地東側の谷部については、第3次調査に みられるように谷頭に縄紋時代の落し穴がつく られることから、当時から地形の大きな変化は みられない。谷部の最下層には奈良時代の遺物 を含む黒色の土が堆積していた。

ま と め 今回の調査では、8世紀代の竪穴住居と掘立 柱建物からなる集落の一角がみつかった。この 集落は谷部の際にまで居住域を広げており、水 の確保が容易であったと思われ集落内には井戸 を持っていない。



1. 調査地点の位置



2. 調査区全景 (南から)



3. 1号竪穴住居検出状況(南から)

# 9662 元寇防塁第6次調查 (GKB-6)

所 在 地 早良区百道1丁目807-82

調查原因 共同住宅建設

調査期間 96.12.26

### 調査面積 7m²

担 当 者 松村道博・池田祐司

処 置 調査後破壊

#### 調査に至る経緯

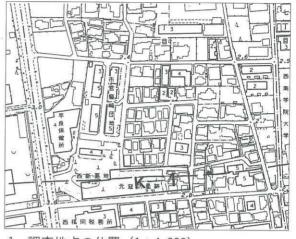
平成8年12月16日、久松光弘氏から埋蔵文化財事前審査願いが提出された。当該地は元寇防塁推定線に接し、国指定史跡地から約20mという位置にあたるため同12月日に踏査を行い、防塁のものと考えられる石材を確認した。このため同26日に確認調査を行った。

#### 調査の記録

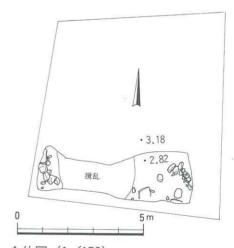
調査対象地は住宅地内の52.5㎡の区画で木造専用住宅を解体した跡の更地である。現状では北に向かって傾斜する。対象地の南側で確認していた石を手堀で追って調査区を広げ南東、南西隅に石材を検出した。西側では地表面直下の風成砂中に30~40cm大の角礫を検出した。礫が重なっている部分が1箇所ある。東側では20~30cm大の礫が円礫を主体として出土した。中央部分は径1.5 mほどの撹乱があるがこの部分以外でも礫は散布する程度である。

石材は防塁のものであると考えられるが、大部分は持ち出され、並んでいるように見られる礫も防塁とは方向を違え、2次的なものである可能性が高い。遺物の出土はない。

今回の報告をもって本報告とする。



1. 調査地点の位置 (1:4,000)



2. 全体図 (1/150)



3. 調査区全景(北東から)



4. 石材出土状況(北東から)

### 9663 内野西地区圃場整備に伴う試掘調査

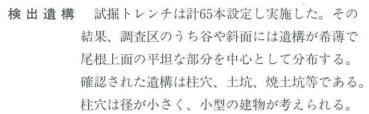
所 在 地 早良区大字西地区

調査原因 圃場整備

調査期間 97.1.6~97.1.31

調査面積308m²担当者大塚紀宜処置調査後破壊

位置・環境 調査対象地は室見川状流域東側、背振山系から北へ伸びる舌状台地と、その尾根に隣接する谷部分に及ぶ。標高は80mから112mにわたり、調査対象地内での高低差が大きい。現況は水田で大きく削平を受けている。周辺では脇山遺跡群や内野遺跡群で縄文、中世から近世の遺構・遺物を確認しており、本遺跡でもこれらの遺跡と関連する遺跡が存在する可能性がある。

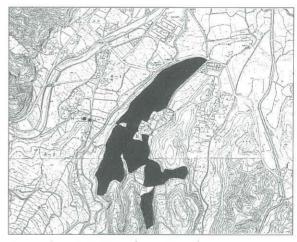


出土遺物 出土した遺物は土師器、陶磁器でコンテナ1 箱弱である。龍泉窯系とみられる青磁破片が数 点出土しいる。遺物から13世紀以降の遺跡群と 考えられる。

ま と め 遺構の密度は高くないが、比較的広い範囲に わたっている。遺構の時期は中世から近世にか けて、建物跡、溝、焼土坑などがあり、この時 期の集落跡が予想される。

> 今回の調査は試掘調査ということで、得られた情報も限られたものであり、本調査で遺跡の 実態は明確になろう。

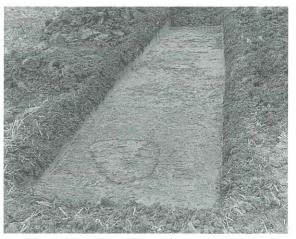
> なお、本調査は平成9年度に実施され、報告 書は平成10年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置(1:16,000)



2. 圃場整備対象地遠景(南西から)



3. 焼土壙検出状況(25トレンチ、北から)

# 9664 樋井川 A 遺跡群第 1 次調査 (HIA-1)

所 在 地 城南区樋井川3丁目473-2

調查原因 公園建設

調 査 期 間 97.1.6~97.10.1

調査面積 6,000 m²

担 当 者 加藤良彦·屋山 洋

処 置調査後破壊

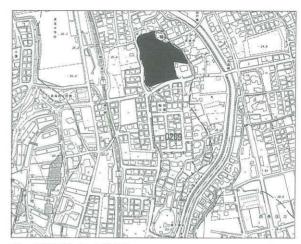
位置・環境 本調査区は油山の北麓から派生して北に延び、 西を駄ヶ原川東を樋井川の開析された標高23m の低い舌状丘陵の先端近くに位置する。西側の 谷を挟んだ丘陵上には弥生時代中期の宝台遺跡、 長尾遺跡が立地する。

検出遺構 丘陵の西と北縁辺に沿って、弥生時代後期前半~終末期の遺物を多量に検出する幅3m、深さ1m程の断面逆台形状の溝がめぐり東の自然崖に連なっており、一種の環濠集落を呈している。環溝内は戦国期~近世初頭に1m~2m程の削平を受けており、同期の生活遺構は検出されない。

周縁の緩斜面部に前期後半の貯蔵穴26基と円 形竪穴住居1軒、古墳時代後期の竪穴住居21軒 平安時代後期の土壙墓3基と、環溝の内側に幅 4mで二段掘りの戦国期の環溝がめぐり、内側 に掘立柱建物5棟以上・墓(土葬)5基・溝の 内外に床面積2~13㎡の地下式横穴26基を検出 している。

出土遺物 検出した遺物は弥生時代の環溝内の土器、石器が大半で前期の貯蔵穴内から甕数点のうちベンガラを貯蔵後廃棄されたものがある。他に平安後期の土壙墓内より白磁高台付皿4点、・刀子1点・鉄鏃数点の副葬品、戦国期の墓からは2基に洪武通宝14~15枚が副葬されている。同期の溝・土壙などからは明青花・龍泉窯系青磁・李朝粉粧碗・土師器・瓦質土器と椀形滓・鞴羽口が数点検出される。同期の環溝は近世初期に整地されており、埋立て時に鉄鍋・鋤先・刀子・笄・刀装具・和鏡・懸仏・土犬を供献している。コンテナで総量350箱出土している。

ま と め 弥生後期の環溝は丘陵全体に展開するものと すると南北約300m、東西70~80mの規模が想定 される。



1. 調査地点の位置



2. 全景 (南東から)



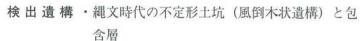
3. 弥生時代環溝遺物出土状況 (南から)

# 9665 大坪遺跡第 1 次調査 (OTU-1)

所 在 地 早良区内野 3 丁目 調 査 原 因 共同住宅建設 調 査 期 間 97.1.13~97.3.31

調 査 面 積 347 m² 担 当 者 米倉秀紀 処 置 調 音後破壊

位置・環境 早良平野の奥部は典型的な扇状地であるが、 最奥部は、小高く扇状微高地を形成しており、 その北側とは段差を成している。大坪遺跡はそ の扇状微高地一帯に広がった遺跡で、今回初め て確認した遺跡である。今回の調査区はその北 側端部附近に位置する。遺構面は堆積物のため 場所によって異なるが、おおむねやや荒い砂で ある。表土下20cmから1mで検出した。調査区 中央附近から西に傾斜しており、その部分には 遺構・遺物ともに確認できなかった。試掘では 遺構のある可能性が低く、縄文時代の遺物が出 土するということから、調査区内にグリッドを 設定し、漸次グリッドを掘っていくという方法 をとった。

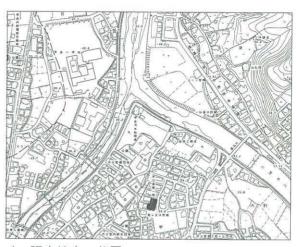


・奈良時代のピットと包含層

出土遺物 出土遺物の総量はコンテナ2箱で、ピットから出土した半完形に近い奈良時代の甕と少量の包含層出土の奈良時代遺物以外は縄文時代の遺物である。出土した縄文土器は、押型文土器、条痕文土器で、条痕文土器は轟式土器かと思われる。出土した石器は石鏃と剝片類である。

ま と め 縄文時代の包含層は全般的に北に向かって斜めに堆積しており、包含層は自然の堆積によって形成されたと考えられる。出土した土器は早期と前期で、石器は石鏃が出土した。このほかに調査区北端から奈良時代の半完形品のはいったピットが検出され、その北側をさらに拡張して遺構の検出に努めたが、他に遺構の検出はなかった。

報告書の刊行は1998年度の予定である。



1. 調査地点の位置



2. 調查区全景



3. 遺物出土状況

### 9666 黒塔 A 遺跡群第 2 次調査 (KTA-2)

所 在 地 早良区西入部

調查原因 農道建設所建設

調査期間 96.11.18~97.1.17

調 杳 面 積 700 m²

担 当 者 加藤良彦

如 置 調査後盛り土

位置・環境 本調査区は福岡市の西南部、早良平野を貫流 する室見川左岸の中位段丘上位置する。標高は 45mで北東から開析する小谷を挟んで北側に1 次調査の弥生時代甕棺墓47基、土壙墓4基の墓 群と、さらに北側の舌状丘陵上には甕棺墓87基 の浦江谷遺跡群、対岸には方形区画墓で130基 の甕棺墓と30基の木棺墓を検出した東入部遺跡 群が位置する。

検 出 遺 構 · 弥生時代

: 甕棺墓24基

井戸1基。

· 古代

: 掘立柱建物2棟

・弥生~古代 :掘立柱建物2棟、落穴2基

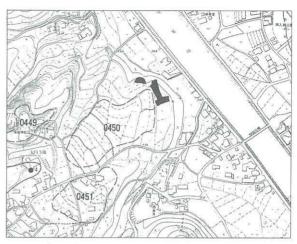
柱穴多数

出土遺物 遺物は弥生時代前期末~中期末の甕棺を中心 に、掘立柱の柱の礎板がわりに中期後半の土器 片を多く敷き込んでいる。他に北側の包含層や 柱穴内から甕棺墓同時期の弥生土器片、須恵器 土師器等、コンテナ77箱分出土している。

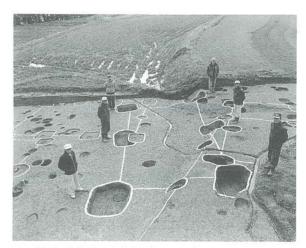
ま と め 甕棺は調査区内の丘陵北東端部に等高線に沿 って密集している。成人棺15基、小児棺9基で このうち4基が成人棺上に位置する。表土剝の 段階で南東側の丘陵先端方向に広がるのを確認 しており、100基を越える墓群になるのは確実で ある。浦江遺跡から本調査区までの室見川左岸 中流域の弥生墓地は全て室見川を望む丘陵、段 丘先端部に形成される。

> また調査区南端の、丘陵稜線部に位置する1 × 2 間、3.5×7 mの大型掘立柱建物は1.4×1 mの長方形の大型の堀方に径35cmの柱を据えて おり、佐賀県吉野ヶ里遺跡の楼館より各辺1m 短いだけで遜色がない。

報告書は1999年刊行予定である。



1. 調査地点の位置



2. 弥生時代大型建物(北から)



3. 甕棺墓群 (東から)

### 9667 井尻 B 遺跡群第 8 次調査 (IGB-8)

所 在 地 南区井尻1丁目13番地内

調査原因 公団建設

調査期間 97.2.3~97.2.28

調 査 面 積 113 m² 担 当 者 長家 伸 処 置 調査後破壊

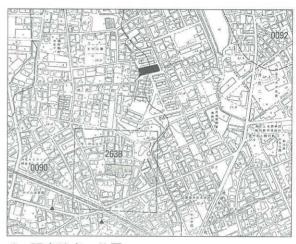
位置・環境 井尻B遺跡群は那珂川右岸の洪積台地上に位置する。対象地は遺跡群の東端にあたり、試掘調査によって遺構の存在する台地の縁辺とそこに形成された遺物包含層が確認されている。対象地周辺の発掘調査で弥生時代後期~古墳時代の大規模な竪穴住居後群や古代の寺院跡が調査されており、この遺構群に隣接する本調査区内遺物包含層にはこれらの時期の関連遺物が流れ込んでいると考えられる。

検出遺構 調査は重機による表土の除去作業から行った。 表層の造成土を80cmほど除去すると、旧水田土 ・床土が30cmの厚みで広がり、台地縁辺はこの 下で確認できた。標高は10.7mである。包含層 はこの落ち際の東に広がり、厚さは30cmを測る。 遺物は落ち際から5m程度の範囲で多く出土し、 これより遠くでは遺物はほとんど出土していない。

出土遺物 出土遺物は弥生時代中期後半~後期の土器、 古墳時代後期~古代の土師器・須恵器が大半を 占める。またこの他石器、瓦等もわずかに出土 する。総量でコンテナ17箱である。

ま と め 遺物は小破片が多く全体が残る遺物は非常に 少ないが、西側の台地で得られた調査成果とほ ぼ一致する結果が得られた。また平成3年に団 地内の計画道路用地で行った試掘調査では弥生 時代~古代の遺構と遺物が検出されており、今 後の調査が待たれる。

報告書は1998年刊行予定。



1. 調査地点の位置



2. 調査区全景 (東から)



3. 西壁土層

# 9668 比恵遺跡群第60次調査 (HIE-60)

所 在 地 博多区博多駅南 5 丁目89、89-3 調 **酒 面 積** 402 m<sup>2</sup>

調 查 原 因 共同住宅建設

調査期間 97.1.27~97.3.31

担 当 者 大庭康時

置 調查後破壞 処

位置・環境 福岡平野を北流する御笠川と那珂川にはさま れた中位段丘上に遺存する比恵遺跡群の、西端 に位置する。南の隣地はかって栅列と倉庫群が 発見され「那の津官家」の可能性が論じられた 第8次調査地点にあたる。

> 弥生時代の竪穴住居跡、甕棺、土壙墓、井戸、 古墳時代の溝、平安時代末の井戸、その他に土 坑、柱穴などを検出した。

検 出 遺 構 弥生時代の竪穴住居跡は、中期の円形住居跡 1棟、後期の方形住居跡 2棟で、調査区の北半 に集中する。

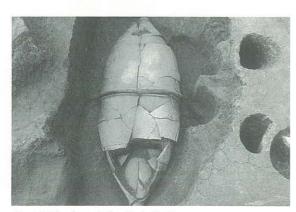
> これに対し、甕棺墓はいずれも中期に属し、 成人棺2基、小児棺3基、成人棺抜き痕2基で 南半に片寄る。

> 井戸は弥生時代後期4基、平安時代1基で素 掘りである。

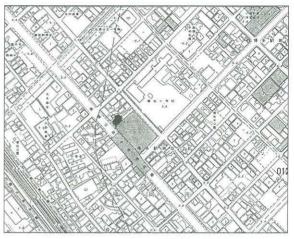
出土遺物 弥生土器・土師器・須恵器などコンテナ36箱、 黒耀石剝片・石斧片・石剣片なと石器類が同1 箱出土した。

ま と め 南接する「那の津官家」に比定された古墳時 代の倉庫群に関連した遺構は、全く見られなか った。倉庫群およびその関連施設は、その北辺 を限る栅列の内側でおさまり、その外側には、 全くのびていなかったものと推定される。

報告書は1998年度に刊行予定である。



3. 甕棺 (SK-20) 検出状況



1. 調査地点の位置 (37-0127. 1:3,000)



2. 1区全景(北より)、奥は第8次調査地点



4. 弥生時代円形住居跡と古墳時代溝

### 9670 雑餉隈遺跡群第10次調査 (ZSK-10)

所 在 地 博多区新和町1丁目

調査原因 市営住宅

調査期間 97.2.17~97.3.31

調査面積 337 m²

担 当 者 宮井善朗

処 置調查後破壞

位置・環境 雑餉隈遺跡は福岡市の最南端、春日市との境界付近に位置する。立地としては須玖丘陵の北東に伸びる台地の上に当たり、遺構面は鳥栖ロームである。5、8次調査と同一事業地内で、その西側にあたる。8次調査時にはまだ居住者のいる建物がある関係上、全面発掘ができなかった地点である。

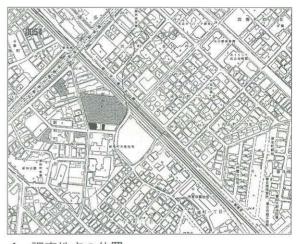
検出遺構 今回調査でも、5次調査と矛盾するような内容の遺構、遺物は検出されていない。検出遺構は竪穴式住居1基(8次調査で1部検出)、土壙8基(内2基は8次で一部検出)、ピットなどである。住居は奈良時代に属する。土壙は略円形で極めて浅く、大形のものと、長楕円形で比較的深いものがある。掘立柱建物を1棟検出したが、5次調査の西側建物群と柱筋が合うと考えられる。

当時併行して行われていた 9 次調査地点で旧石器が検出され、また 5 次出土遺物の整理中にやはり旧石器が見つかったため、包含層確認のトレンチをいれた。その結果、風化した安山岩片と、花崗岩礫計 3 個が出土した。

出土遺物 出土遺物は総量でコンテナ1箱である。

ま と め 今回の調査では5次、8次で検出した集落の 縁辺に近い部分を確認したと考えられる。これ より西側の4、6、7次調査地点では、住居は 検出されていない。

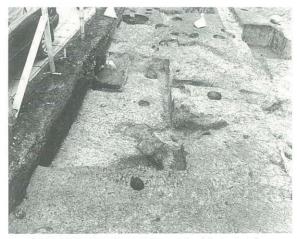
> 報告書は5次、8次調査と合わせ、1997年度 刊行予定である。



1. 調査地点の位置



2. 雑餉隈遺跡群第10次全景



3. 雑餉隈遺跡群第10次住居跡(奈良時代)

# 9671 福岡城跡第38次 (FUE-38)

所 在 地 中央区城内1- 地内

調査原因 潮見櫓跡遺構確認

調査期間 97.2.20~97.3.18

調 査 面 積 463 m²

担 当 者 田中壽夫

処 置 盛土保存

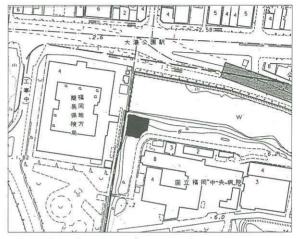
位置・環境 福岡城は、油山山塊の一つである赤坂山から 博多湾に向かって北に延びる旧福崎丘陵先端部 立地する平山城である。

調査の目的 潮見櫓は三の丸北西角に位置しており、櫓本体は、明治42年に花見櫓とともに崇福寺に払い下げられた後、両者を併せて仏殿として利用された。その後、平成3年に本市が買収し、現在来る復原整備に向けて解体保存中である。今回の調査は平成5年度の石垣遺存状況の確認調査の補足調査を兼ねて、櫓平面形の考古学的な復原を目的として実施した。

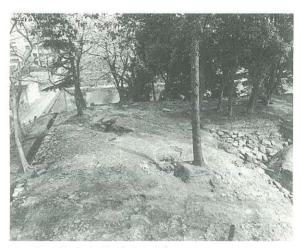
検出遺構 今回の調査で確認した遺構は礎石 5、礎石据 付穴 4、櫓建物基壇部と思われる整地層の一部、 入隅部石垣(櫓台内壁)などである。これらは いずれも、後世、特に昭和期の防空壕やゴミ消 却用の竪穴などによって攪乱されており、遺存 状況は悪い。

出土遺物 上記の各遺構から、江戸末期~明治期の瓦(平 瓦・丸瓦) や肥前系陶磁器などが出土した。 特に入隅部石垣前面では、潮見櫓解体の際に派 生し焼却された建物部材片や、漆喰片、瓦細片 が多量にまとまって出土した。なお出土瓦には 潮見櫓の当初所用瓦の一部と考えられる慶長期 までさかのぼる瓦も若干含まれている。

ま と め 先の調査で櫓台は、東西12.5m、南北16.2m、 櫓台基底面からの現存高 1.6 mの規模であるこ とが確認され、今回の調査では、建物基壇の一 部と礎石および礎石据付穴を確認できた。櫓平 面形の全容については、潮見櫓部材による構造 復原の成果と合わせて、検討してゆきたい。



1. 調査地点の位置(1:4,000)



2. 潮見櫓台全景(南から)



3. 礎石および据付穴(東から)

# 9673 比恵遺跡群第61次調査 (HIE-61)

所 在 地 博多区博多駅南6丁目62番

調査原因 社屋建設

調査期間 97.3.3~97.3.24

調 査 面 積 275 m²

担 当 長家 伸

処 置 調査後破壊

位置・環境 比恵遺跡群は春日市から博多湾に向かって南 北にのびる洪積台地の北側先端部分に位置する。 今回の対象地点は比恵遺跡群の東端部分にある。

検出遺構 調査は重機による表土除去作業から始め、15 m下の標高 5.2 mで遺構確認面である鳥栖ロー ム層を確認した。弥生時代~古墳時代の溝・井 戸・柱穴を確認した。調査地点内では以前の水 田・区画整理等による削平が大きく、比較的掘 り込みの深い遺構がかろうじで残っているとい う状況である。井戸は弥生時代後期のものが4 基、古墳時代前期のものが1基である。

出土遺物 遺物は井戸・溝から弥生土器、土師器等がコ ンテナ11箱出土した。

と め 今回の調査では井戸などの深い遺構のみの検 出であったが、本来は同時期の竪穴住居跡など の生活関連遺構が広がっていたことが充分に予 想される。

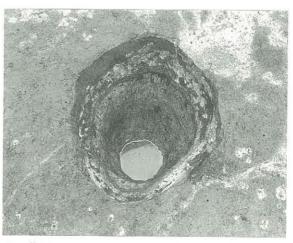
報告書は1998年刊行予定。



1. 調査地点の位置



2. 調査区全景(北西から)



3. 井戸

# 9674 飯氏 B-14号墳第1次調査(IJK-B-1)

所 在 地 西区大字飯氏

調查原因 重要遺跡確認調查

調査期間 97.2.28~97.3.28

調査面積 36 m²

担 当 者 米倉秀紀·星野恵美

処 置 調査後埋め戻し

位置・環境 高祖山の北麓には多くの古墳が築造されているが、福岡市教育委員会では1982年以来、それらの古墳群のうち前方後円墳について、重要遺跡確認調査として発掘調査を行っている。本年度は福岡市の西端近くにある飯氏古墳群B群14号墳について調査を行った。古墳群は円墳18基とこの前方後円墳1基から成っている。

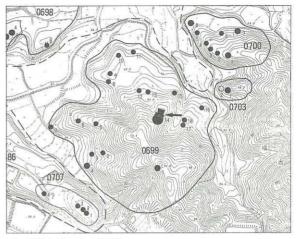
前方後円墳は高祖山から派生したやせ尾根上 の丘陵に造られている。山側(西側)に後円部、 平野側(東側)に前方部を造っている。前方部 前面は、傾斜の急な斜面で、下から見れば、か なり大きく見える。発掘調査は石室の清掃と、 両くびれ部の調査のみを行った。

**検出遺構・**前方後円墳1基 全長26~28m、後円部径約 15m、くびれ部幅約8 m

> 横穴式石室 玄室長3m、幅2m、高さ3m 羨道長3m、幅1m、高さ1m

出土遺物 石室内攪乱土より玉3点、耳環2点、鉄鏃約20点、両くびれ部の墳丘上よりコンテナ7箱分の須恵器・土師器が出土した。出土した須恵器は6世紀後半から7世紀初頭に属する。

ま と め 今回の調査は墳丘測量、石室清掃、墳丘くびれ部のみの発掘で、最小限の調査を行なったため、全体の正確な規模や、古墳の詳細な造営方法などまでは、わからなかった。調査を行ったくびれ部付近ではほとんど地山整形のみで造り、盛り土はごくわずかしかない。石室は羨道と玄室の長さがほぼ等しく、石はおおぶりな石を使っている。石室の床面はほとんど破壊されていた。時期的には出土遺物から見る限り、6世紀の第3四半世紀から7世紀第1四半世紀の須恵器が墳丘上から出土している。石室の形態も6世紀後半前葉頃が考えられ、時期的に矛盾するものではない。



1. 調査地点の位置



2. 石室奥壁



3. くびれ部発掘状況

### 9675 雀居遺跡群第11次調査 (SAS-11)

所 在 地 博多区雀居(福岡空港内)

調 查 原 因 空港西側整備

調査期間 96.11.1~96.11.30

調査面積 2,600 m²

担 当 者 力武卓治

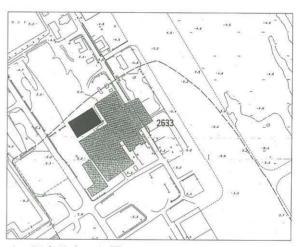
処 置 調査後破壊

位置・環境 本調査区は、福岡空港の駐機場の西側隣接地で、テニスコートになっていた部分である。 周辺では2、3、6次調査が行われ、現地表下約90cmで洪水砂による砂層で覆われた古代末の 集落や水田跡が発掘されている。今回も同じように集落や水田の広がりを把握することを主な 目的とした。

検出遺構 子想どうりに1mの深さで発掘区の全面で砂層が現われた。この砂層は南東から北西に流れた痕跡が認められ、この下で7枚の水田を検出した。水田は丁字形、あるいはL字形に交わる畦畔で区画され、東西方向の長方形をしている。畦畔が全周していないので1枚の面積を知ることができない。それだけ洪水が激しかったのであろう。

出土遺物 水田が洪水で運ばれた砂で厚く覆われたため に、十数点の土師器と須恵器の破片を発見した に過ぎない。

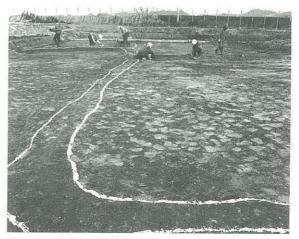
ま と め 遺物のほとんどが摩耗しており、水田の年代 を決めるにはいたっていないが、これまでの周 辺調査では、8世紀から9世紀の年代が推測されている。なお、水田耕作土の厚さ、畦畔の断 面などの観察のために各水田に通しのトレンチ を設定したが、砂が埋まった足跡状の落ち込みが部分的に認められ、下層にも水田が埋没して いる可能性がある。



1. 調査地点の位置



2. 水田全景



3. 水田足跡・畦畔検出状況

### 9676 有田遺跡群第184次調査 (ART-184)

所 在 地 早良区有田1丁目32-8

調 查 原 因 鉄塔建設

調査期間 97.3.24~97.4.11

調査面積 150 m²

担 当 者 菅波正人

処 置調查後破壞

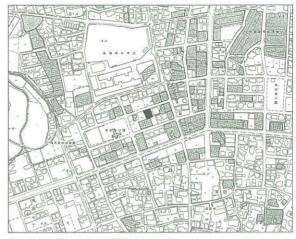
位置・環境 調査地点は有田遺跡群の中央の最高所に位置 する。南側隣接地には第133次調査地点がある。 調査は現況の畑の耕作土を除去し行った。標高 は約12mを測る。

検出遺構 遺構は奈良時代の区画の溝、戦国時代の堀、 柱穴などを検出した。奈良時代の区画の溝は幅 約2mの南北の溝で、本調査地点の東側で検出 されている倉庫群を囲む溝と考えられる。

出土遺物 遺物は弥生土器、土師器、須恵器、輸入陶磁 器等がコンテナ3箱分出土した。この他、板碑 が出土している。

ま と め 古代の区画溝はこの地に推定されている早良 郡衙の正倉を囲む溝と考えられ、郡衙の構造、 規模を推定する上で重要な資料が得られたと考 えられる。

1997年度報告の予定である。



1. 調査地点の位置



2. 調査区全景(北から)



3. SD004 (南から)

# 9677 香椎 B 遺跡第 3 次調査 (KSB-3)

所 在 地 東区香椎字寺熊他

調查原因 宅地造成

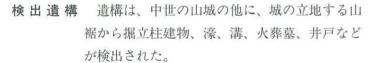
調 查 期 間 96.11.18~調查中

調査面積 22,800 m²

担 当 者 下村 智・瀧本正志・本田浩二郎

処 置調查後消滅予定

位置・環境 福岡市の東部に、『香椎宮編年記』による神功皇后を祭神として神亀元年(724)に建立された香椎宮(廟)があり、この宮の西500mほどに城の腰(じょうのこし)山と呼ばれている標高91mを測る小山がある。山の南側には、東西方向に幅100mほどの谷が開け、古代~中世の遺跡である香椎B遺跡が展開している。近世の文書には、城の腰山山上に中世山城の存在と「御飯の山城」・「城の腰山城」などの名称が記されている。さらに、この城が、調査地から北へ3kmに位置する標高367mの立花山に築かれた大友氏の立花城の出城(支城)であることも記されている。調査範囲は、城の腰山と山裾部を含む全域である。



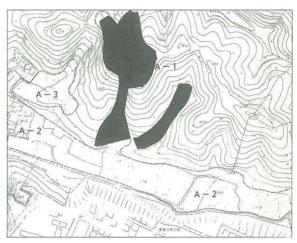
出土遺物 出土遺物は、谷部の包含層などから、奈良時 代の須恵器を少量出土するものの、大半が平安 時代末から室町時代の土師器、瓦、陶磁器で、 コンテナ20箱ほど出土している。

ま と め 現在調査中であることから、山城跡の報告は 1997年度調査年報に掲載するので、ここでは山 裾部の遺構について述べる。

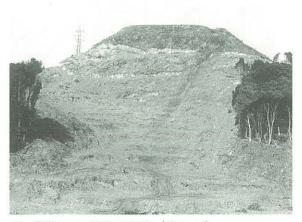
山城の立地する城ノ腰山の東には御倉谷と呼ばれる小さな谷があり、谷の西斜面には、13世紀後半~14世紀に築かれた50~60基ほどの火葬墓群がある。これらは、谷部に展開した屋敷群の構成者の墓と考えられる。

里城の地名が残る山の南側裾部では、幅2m、深さ2mを測り、蛇行する薬研堀の一部を検出した。調査地の西に接す所には方30mの平坦地が存在し、今後の調査で堀と平坦地との関係が明らかになるものと考えられる。

調査報告書は、2000年に刊行予定である。



1. 調査地点の位置



2. 御飯の山城跡調査前(南から)



3. 里城地区SD258 (北から)

### 9630 福岡城跡36次 (FUE-36)

所 在 地 中央区大名1丁目350番1

調査原因ビル建設

調査期間 96.8.23

調査面積 46 m²

担 当 者 松村道博・池田祐司・長家 伸・久住猛雄

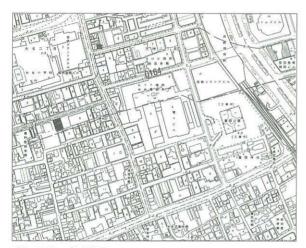
処 置調査後破壊

#### 調査に至る経緯

平成8年5月28日株式会社ジョウキュウ醬油から埋蔵文化財事前審査願いが提出された。当該地は福岡城中堀の南岸石垣推定線の北に隣接するため、6月18日既存建物解体前の限られた範囲で確認調査を行った。その結果、石垣には当たらなっかたものの、土層からみて南岸が推定線より北側にずれて対象地内に位置する可能性が高くなった。このため、既存建物の解体後の8月23日再度確認調査を行い石垣を検出した。調査に当たっては重機の使用等の便宜を計っていただいた。記して感謝いたします。

#### 調査の記録

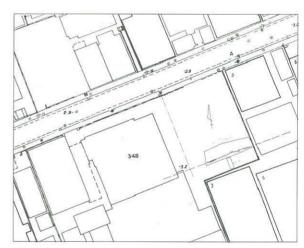
調査は4×13mの範囲を東西に分けて掘削して行った。石垣は北に面して東西方向に連なる。延長12.7m、高さ1.8mを検出したが、さらに調査区外へ続く。横幅30~60cm大の自然礫を6、7段野面積する。石垣の上面は揃わず、数段が破壊されたものと考えられる。根石は一部で上段のものより大きな箇所があるが全体に差はない。また桐木、杭は調査範囲内では検出できなかった。石垣の基盤土は



第1図 位置図



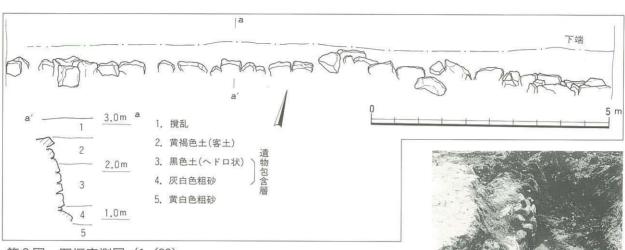
図版1 石垣東半(北から)



第2図 調査区遺構配置図



図版2 石垣西半(北から)



第3図 石垣実測図 (1/80)

砂である。裏込めはトレンチ崩壊のおそれから正確な計測を行っていないが、1.5 mほどの奥行きの掘り方の中に10~25cm大の礫が充填されている様が観察できた。堀の埋土は最下層は粗砂であるが、下部から中位までは黒色のヘドロ状の粘質土で自然に埋没したものと考えられる。これより下に近代までの遺物が出土する。上部は黄褐色粘土を客土している。

遺物は3、4層中より古墳時代から近代のものが出土した。1は 布留式土器の甕の口縁部である。磨耗しており、離れた場所からの 流れ混みと考えられる。2は玉縁口縁の白磁碗である。火を受け、 細かな気泡状に釉が飛ぶ。3、4は薬品瓶でいずれも鉄釉を内外面 に施す。4は口縁部付近の施釉が雑で不規則な露胎部がある。5は 硯の陸部で中央がややくぼんでいる。わずかに墨が残る。6は上面 に厚い暗茶褐色の釉を施し他は薄い茶色に施釉する。脚部はねじに なっており合わせ型のつなぎ目が残る。7は石墨である。4.7 cmが 残存し太さ6.5 mmを測る。8は天草石製の砥石でほぼ全面を使用す る。特に中央には縦方向に2本の溝が深く刻まれる。9はハマで両 面ともに糸切り痕が残る。10は巴文と珠文を配する軒丸瓦で内面に



図版3 石垣東半 (東から)



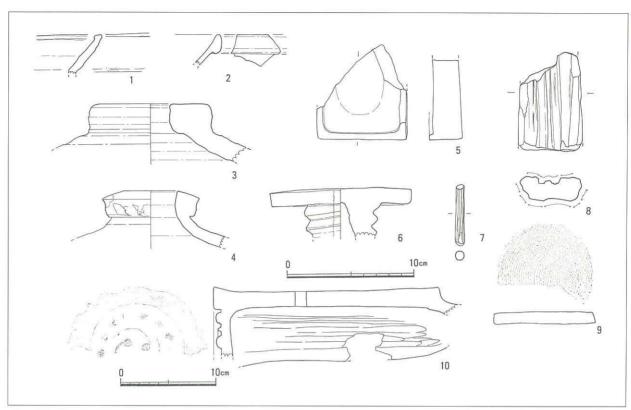
図版 4 石垣西半 (西から)



図版5 石垣西半 (東から)



図版6 石垣西半東側(南から)



第4図 出土遺物実測図 (1/3、1/2)



図版7 出土遺物

は木骨痕が見られる。11は薄く褐釉が懸かる壺で高取焼と考えられる。器高23.5cm。12は香炉で青みがかった釉を施す。器高5.3cm、口径7.8cmを測る。13は内外面に灰釉を施すが外面下部は露胎。器高9.2cmを測る。高取系か。14は外面にたこ唐草文、内面に唐草文を施す皿で復元口径29.6cmを測る。15は外面は染め付けで透明釉、内面には青磁釉を施す。16は椀の蓋で花文を施す。

今回の調査で、推定線より 4 m北側に石垣を確認した。これまでちょうど字界で塀の下に存在すると考えられていた石垣がこの周辺では北にずれることがわかった。

# 9638 桑原錦田古墳群第1次調查 (KNK-1)

所 在 地 西区大字桑原

調査原因 土取り

調査期間 96.9.12

調查面積 64.3m² 古墳1基

担 当 者 松村道博・池田祐司・井上繭子・

星野恵美・本田浩二郎・松浦一之介

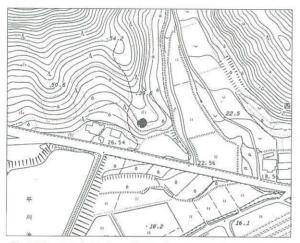
処 置 調査後破壊

#### 調査に至る経緯

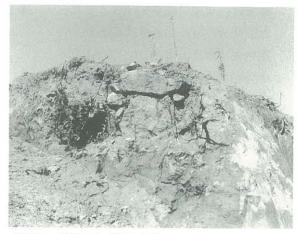
平成8年9月5日造成中の丘陵に半壊した古墳があるとの通報を受け、現地踏査を行ったところ、 奥壁がかろうじて残る古墳を確認した。古墳は崖面に露出し崩壊のおそれがあり、早急に調査する必 要があった。同日、地権者である宗正和氏に調査の承諾を得て同12日に調査を行った。

### 調査の記録

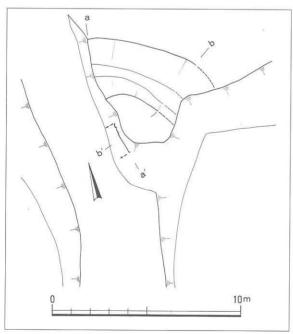
古墳は北西から谷に向かって伸びる丘陵の末端、標高33mに位置する。現在造成により崖の上になるが、谷部より7mほど高い位置にあり元々急斜面の上にあったものと考えられる。



第1図 調査地点の位置 (1:4,000)



図版1 調査前(西から)



第2図 周辺測量図 (1/200)



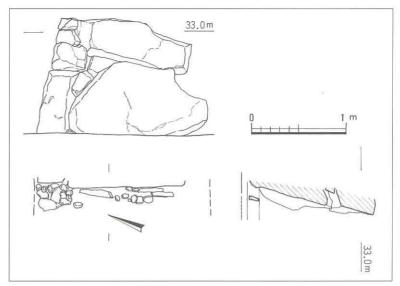
図版2 周辺地形現状 (南から)

石室は奥壁が残るのみで、墳丘部 分は1/4が残り、平坦に削られてい た。また東側の崖は切り立ち危険を 伴うため、北側に残る周溝と奥壁に ついて調査を行った。

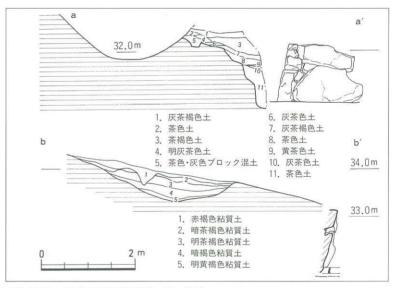
墳丘は北側の断面にわずかに見られるのみで残っていない。周溝は深さ1.1 mほどを確認した。埋土は地山の茶褐色系の山土で、腐植土は見られない。周溝を含めて径12mほどの円墳であったと考えられる。

石室は奥壁と床がわずかに残る。 奥壁は幅 1.4 m高さ80cmほどの大石 と幅40cmの縦長の石を腰石とし、石 室内側にせり出す。石室の幅は 1.6 m程である。床は 5 から10cm大の礫 が敷かれている。敷石には10cmほど のレベルの差があり、床が 2 面あっ たものと考えられる。遺物は出土し ていない。ただし、壁の崩壊のおそ れがあったため簡単な清掃と記録作 業に留め、十分な掘削を行っていな い。

時期判断の材料は少ないが、石室 からして6世紀後半から7世紀初頭 におさまるものと考えられる。なお、 平成9年度、同じ丘陵で古墳1基が 調査されている。



第3図 石室実測図 (1/40)



第4図 墳丘周溝断面図 (1/80)



図版3 石室奥壁(西から)



図版4 周溝(北から)

# 9639 福岡城跡第37次調査 (FUE-37)

**所 在 地** 中央区大名 2 丁目 445番1、223番

調査原因ビル建設

調查期間 96.9.11

調 査 面 積 10 m²

担 当 者 松村道博・池田祐司・井上繭子・

星野恵美・本田浩二郎・松浦一之介

処 置調查後破壞

#### 調査に至る経緯

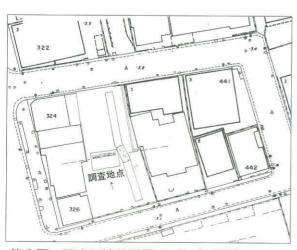
平成8年8月12日株式会社利花苑から埋蔵文化財事前審査願いが提出された。当該地は福岡城中堀の北岸石垣推定線が横切る位置にあたる。同敷地内の一部については、前年度に試掘を行い、石垣は検出できなかったものの、土層から撹乱部分が堀の肩に当たることが確認されていた。このため同9月11日に確認調査を行い石垣を検出し、急きょ記録作業を行った。

### 調査の記録

調査は $5 \times 7.5$  mの範囲を掘削して行った。石垣は南に面して東西方向に連なる。延長7 m、高さ2.2mを検出したが、さらに調査区外へ続く。石垣は数度にわたり補修が行われている。下から1段目は横幅80cmまでの横長の石を配し、2、3 段目は横幅60cmまでで1 段目より縦に長い石もしくは小ぶりの石を重ねて積み上げる。ここまでは割石ではあるが、形は不規則である。4、5 段目は方形に切った石を整然と重ね、これより下と一線を画す。これより上は煉瓦や土管が配され、さらに新しい補修が行われている。この上の最上段は40cmほど岸側に引き、長さ1 mの切石がおかれている。この段



第1回 位置図 (1/4,000)



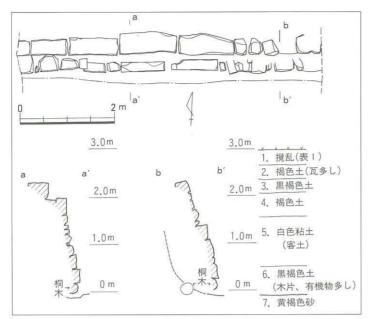
第2図 調査区遺構配置図 (1/1,000)



図版1 調査区全景



図版2 桐木 (南東から)





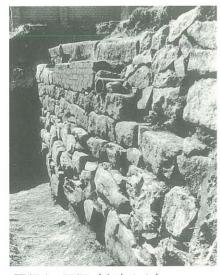
図版3 石垣(南から)

第3図 石垣実測図 (1/80)

の頭とほぼ同レベルで岸側は砂地の地山となり、石垣の最上段が残っているものと考えられる。なお 東側半分は4段目から最上段と面を同じくする。根石の下には径20cmの桐木が敷かれる。桐木は調査 範囲では隙間なく敷かれ、長さ2.7m以上の松と思われる材を使用する。木の径4cmほどの杭を堀の底 で検出したが、上部からのもので石垣の構築とは関係ないと考えられる。

裏込めについてはトレンチを入れて確認した。石垣の下端から1.2mほどの掘込みに、石垣の4段目まで10~20cm大の礫を積める。また、下端より60cmのところに桐木をはわしている。堀の埋土は下層は有機物を多く含んだ黒褐色の水性堆積で近世までの遺物を含むが、その上は客土となる。図版 6 は堀の底からの出土で「赤坂門」「大丸木商店」「大名町三丁目」という文字が青色でかかれている。器高28cmを測る。

今回の調査で、推定線より6m南側に石垣を検出し、この付近では字堺に石垣が存在する事を確認した。また、36次調査地点と比べて使われている石が大きく、整然と配されている。



図版4 石垣(南東から)



図版5 裏込め断面



図版6 出遺遺物

# 9669 内野遺跡群第1次調査 (UCN-1)

所 在 地 早良区内野5丁目276-1

調查原因 宅地造成(大産住宅株式会社)

調査期間 97.2.12~97.2.15

調查委託 重松博幸

調査に至る経緯 平成8年12月、当該地の事前審査願いが提出された。内野遺跡群にあたることから試掘調査を実施し、申請地の東側で遺構を確にした。協議の結果、遺構が保全される宅地部分は調査対象外とし、道路部分のみの調査とした。

なお、調査に際し地権者の重松博幸氏をはじめ、大産住宅株式会社の関係各位には多大なご理解とご協力を賜りましたことを、ここに記して感謝いたします。

位置・環境 室見川東側の扇状地上に位置する。周囲は宅地化が進んで旧地形を留めていないが、河川に挟まれた沖積微高地にあたろう。脇山遺跡群の西方に位置し、南方の峰遺跡群から連続する遺跡群の北半分に位置する形となる。

検出遺構 遺構は地表下40cm前後で出土し、明褐色粘質 土の上面が遺構面となる。出土した遺構はピット、土坑が中心で、ピット群のうち建物跡や棚 列として明確にまとまっているものは確認されていない。土坑は小型で、深さは20cm~30cmと 比較的浅く、平盤状や擂鉢状の形態を示す。

調査区西側は河川による二次堆積と見られる 砂層上面で遺構面となるが、遺構が少なくなり 遺跡分布の限界を示すと考えられる。

出土遺物 出土遺物は少量でコンテナ1箱弱である。主 に包含層出土で遺構からの出土は少ない。遺物 は近世の陶磁器が主で外に土師器や少量の弥生 式土器も見られるが図化に耐えない。

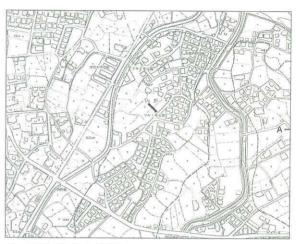
ま と め 調査区が幅5mの限られた範囲での調査であり、遺跡の全体像を把握することが難しく、個々の遺構の性格も不明な部分が多い。遺構の密度は薄く、遺物の散漫な出土状況から見て、建物等が密集していた状況は考えていない。

今回の報告を本報告とする。

調査面積 150 m²

担 当 者 大塚紀宜

処 置調查後破壊



1. 調査地点の位置



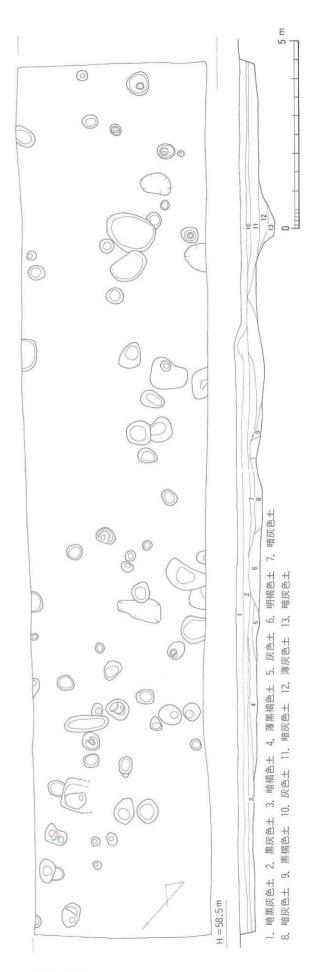
2. 調査区全景 (西から)



3. 調査区東側(南から)



5. 調査区西側~中央部 (南から)



4. 遺構全体図

# 9672 飯倉 H 遺跡群第 2 次調査 (IKR-H-2)

**所 在 地** 城南区梅林228-5

調 查 原 因 宅地造成(大産住宅株式会社)

調査期間 97.2.24~97.3.4

調查委託 岡部治子

位置・環境 調査地点は梅林古墳の南方で、油山から舌状 にのびる丘陵の尾根線上にあたる。周辺で最も 高い位置にあり、立地的には弥生~古墳時代の 遺構の存在が十分予想できるところであった。

検出遺構 西側では表土直下で地山となる。整地の際に 削平を受けている。東側で丘陵の落ちになり、 落ち際では近世墓に伴う攪乱のみを検出し、当 初予想された弥生時代の遺構は存在しない。 近世墓は改葬されている。墓碑名より19世紀代 に属する墓であることが判明している。

出土遺物 中世以前の遺物は出土していない。近世墓に 伴う甕棺の破片を採集したにとどまる。

ま と め 調査地点周辺は丘陵尾根部平坦面の幅が10m を切る痩せ尾根であることが確認され、大規模 な遺跡の存在は想定しにくいことが判明した。

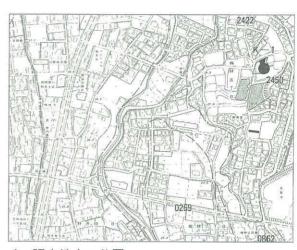
なお、調査に際し地権者の岡部治子氏をはじめ、大産住宅株式会社の関係各位には多大なご協力を賜り、ここに記して感謝いたします。

今回の報告を本報告とする。

調査面積 74 m²

担 当 者 大塚紀宣

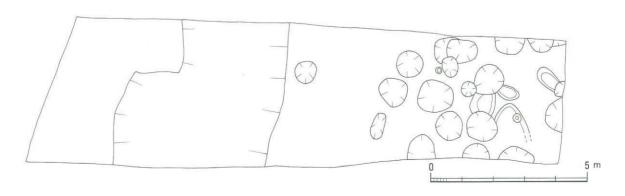
処 置調查後破壞



1. 調査地点の位置



2. 調査区全景 (西から)



3. 遺構配置図 (1/120)

### 9066 博多遺跡群第103次調査 (HKT-103)

所 在 地 博多区古門戸町7-3他

調査原因事務所ビル建替え

調査期間 91.2.1~91.2.4

調査面積 400 m²

担 当 者 塩屋勝利・井澤洋一

処 置調查後保存

調査に至る経過 株式会社中埜酢店の事務所ビル建替えに伴い、 1990年1月9日付で埋蔵文化財事前審査願が提 出された。これを受けて当課では同年1月25日 に試掘調査を実施し、近世以降の遺構と遺物を 検出した。この時の深さは地表下2.8mであり、 試掘の所見から、慎重工事とした。

工事は同年秋に着工され、地表下 3.5 mの深さから石積みの構造物にあたり、杭が入らない状態となった。当該地の東側約80mに位置する博多遺跡群第68次調査地点の調査が進行中であり、元寇防塁に類似する石積み遺構が検出されていた。このため不審に思った工事担当者より調査担当者に通報があり、現地立会を行った。調査中の石積み遺構が西側に延びたものであろうと判断した。

翌11月16日、課長と事前審査担当者が現地に 赴き、杭内の石積み状態を視認した。その結果、 杭打ち工事は止むなしとし、再度確認調査が必 要の旨施主に申し入れ立会調査を実施すること となった。

位置・環境 調査地点は、博多遺跡群の北端部に位置し、かって「息の濱」と呼ばれた博多湾に面する海岸砂丘の北西側に立地している。この場所は「妙楽寺町」という遺称が残ることから、正和5(1316)年に禅僧月堂が庵を建て、貞和2(1346)

年に月堂を開山として創建された妙楽寺跡推定地である。



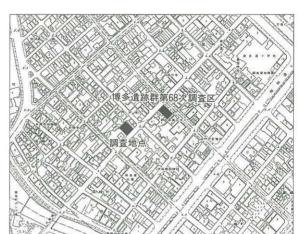
2. 石積全体図 (K番号は杭)

石積み遺構 1) 杭打ち工事の所見

石積みの範囲は北側がK6、南側がK7の間に収まり、延長方向は東北東-西南西であると推測できた。(Kは基礎杭の番号)

2) トレンチ内石積みの状況

トレンチは石積みの推定延長線に直交する北北西-南南東に設定しようとしたが、現場の保安上の制約から東に大きく偏ったものとなった。トレンチ北端部では、標高0.12mの深度から石積みが検出されたが、これは転石と考えられ遺構の北限に当たる。トレンチ南端部では、標高2.08mの深度から石積みの上面が検出され、その間の幅12.25mの比高差は1.96mである。



調査区の制約から、南側の石積みがどこまで続くのか確認 できなかったが、あと1m程度が南限と考えられる。

石積み最下端からの断面観察は行っていないが、大小の 礫石を無造作に乱積みした状態であり、砂丘前面の自然傾 斜に沿って積まれている。前面に行くにつれて石が小振り になる傾向を見せ、トレンチ南端付近では比較的大きな石 を規則的に積んでいる。この石積みの状況は自然堆積とは 考えられず、人為的に投棄した状態を示すものである。石 積みの範囲は、東西が敷地を超えて延び、南北は約12mの 幅である。ただし、トレンチは砂丘の傾斜に直交しておら ず、その幅は10m程度と推測される。

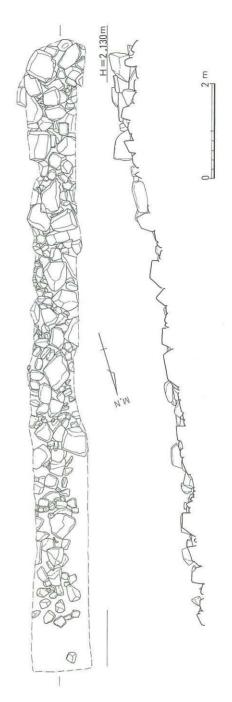
#### 出土遺物

杭打ち工事における石積み除去の過程で、石積みの中から近世の井戸に伴う肥前系陶磁器や瓦が出土している。今回の試掘調査では、排土中から14世紀代の双魚文青磁皿を検出し、砂層下部から磨滅した土師器皿片2点が出土したにとどまる。

#### まとめ

今回の調査地点は、「息の濱」と呼ばれた博多湾に面する海岸砂丘の北西側に位置している。この場所は妙楽寺町という名称が残ることから、正和5(1316)年に禅僧月堂を開山として創建された妙楽寺跡推定地である。しかしながら試掘調査の結果では、近世以前と思われる溝状遺構が砂層断面に観察されたものの、妙楽寺に関する遺構・遺物は検出されなかった。したがって、明確に遺構として把握しえたのは最下層の石積み遺構のみである。

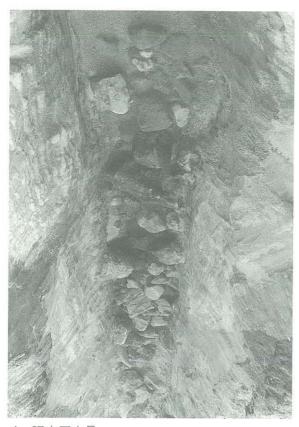
今回の調査で明確に遺構として把握しえたのは最下層の 石積み遺構のみである。この遺構はこれまで述べた所見から、東側約80mに位置する博多遺跡群第68次調査地点で検 出された遺構と連続するものである。両地点ともに石積み の状況は一定の幅を持ちながら砂丘の傾斜に沿って乱積み



石組遺構実測図

されいる。今回の調査では築造年代を示す確実な遺物が出土していないが、第68次調査で、13世紀後 半代の遺物が石積みの下層から出土しており、同年代と考えられる。

さらにこの石積み遺構は東西に直線的に延びることが予想され、当時の海岸線(砂丘線)に一致するものと推測される。これまでの博多遺跡群の調査では、1587年の大閤町割以前の町筋は、「息の濱」地区においては縦筋がこのラインに直交することが確かめられている。





4. 調查区全景

5. 石積遺構

このように今回検出された石積み遺構は、古代から近世に至る博多の都市形成の過程をさぐる上で 貴重な資料となるものである。さらにいえば、この遺構の性格は単なる護岸や消波の施設ではなく、 元寇防塁と同様の、後に「石城府」と別称された博多の正面を守るための水際の防衛施設と考えるこ とも可能であろう。いずれにせよ、遺構の性格については今後の発掘調査によって明らかにされよう。 最後に、今回検出した石積み遺構は、杭の部分は破壊を免れなかったが、その他の大部分について は原因者のご協力により現状保存されることになったことを付記しておきたい。

\* 当初は調査番号を付してなかったが今回の報告にあたり、整理の都合上博多103次調査とした。

### Ⅲ 平成8年度の文化財指定

1. 江月宗玩筆墨蹟之写 種 別 有形文化財

名称・員数 江月宗玩筆墨蹟之寫 49冊

所 在 地 福岡市博多区千代四丁目7番79号

所 有 者 崇福寺

崇福寺中興の祖、江月宗玩 (天正 2、1574~寛永20、1643) が筆録した、慶長16年 (1611) 秋38歳の時から、寛永20年 (1643) 70歳の示寂に至るまで33ヵ年にわたる「禅林墨蹟鑑定日録」と評される記録。

「墨蹟之写」40冊、「聚光院什物墨蹟写」1冊、「断簡」7冊、「大僊院什物墨蹟写」1冊、以上49冊からなる。墨付2257丁。法量は各、縦約30,7cm、横約23,4cm。

昭和25年 (1950) 夏、崇福寺を訪れた玉村竹二氏、今枝愛真氏により、輪蔵から発見され、学会に紹介された。

鑑定された墨蹟は宋元墨蹟、大徳寺・五山諸寺什宝・大名物から洛中・大坂・堺・奈良・博多・江 戸の町衆の秘蔵品におよび、披見した(禅画・古文書も含む)を写し、持参者・所蔵者・表具・法量・ 真偽・伝来等につき記されている。

採録点数は膨大であり、現在では散逸した墨蹟等も多数記録されているものと考えられ、禅宗史・ 茶道史・美術史上ひいては広く中世文化史研究に欠くことのできない史料価値を有する。

2. 奈多の志式座

種 別 有形民俗文化財

名称・員数 奈多の志式座 1棟

所 在 地 福岡市東区大字奈多字宮山1238番地の2

所 有 者 奈多自治会

志式神社の一の鳥居をくぐった右手に、本殿に対し北西に面して建つ村舞台である。「志式座」と 通称される。明治28年 (1895)、猪野大神宮 (粕屋郡久山町)の境内にあったものを移築したもの。

桟瓦葺切妻平入の建物で、間口16.3m、奥行8.17m。舞台裏及び左右が楽屋、上手に太夫座、下手に7.22mの常設の花道が付属する。およそ25.0×22.5mの観客席があり、盛土をして傾斜をつけ、後方にいくに従って1m程高くなっている。

4月1日(以前は10日)の41歳になった氏子の厄落としの祭りである初老賀の祭りと、7月19日・20日の奈多祇園祭で使用されている。

天明4年 (1784) 、疫病と飢饉の退散・平癒を祈願したところ、効験著しく、その報賽として芦屋の大蔵組をよんで「おどり」を奉納したことが奉納芝居の始まりと伝えられる。以後、「万年願」と称して一年も欠くことなく、「おどり」 (芝居のこと) の奉納がなされてきたという。

以前は組立式の舞台であったらしいが、猪野の舞台を譲り受け、常設舞台「志式座」として現在に 至っている。

こうした農村舞台(農山漁村にある歌舞伎や人形芝居を上演する営業用でない舞台のこと)は、小呂島(西区)、西浦(西区)、唐泊(西区)、姪浜(西区)、箱崎(東区)にもあったが、現在本市に残る農村舞台は「志式座」のみである。「芝居」の字義にふさわしく後方を高くした見所(観客席)とともに、「村芝居」の実際の環境を今に伝える貴重な遺構である。

#### 3. 板絵著色三十六歌仙絵馬 種 別 有形民俗文化財

名称・員数 板絵著色三十六歌仙絵馬 36面

所 在 地 福岡市中央区天神二丁目 2番20号

所 有 者 警固神社

福岡城の鎮守として歴代藩主の崇敬が篤く、また城下町福岡の氏神として福岡町人に崇敬された警 固神社に所蔵される。

柿本人麻呂・紀貫之ら和歌の名人三十六人の肖像に各人の歌を添えた絵馬である。嘉永 6 (1853) 年に、本町・大工町・魚町の町人が奉納したもの。

縦54.2cm、横39.2cm。枠幅4.8cm。材質は楠。

裏面墨書に「霄玉」の名が見える。この頃「霄」の字を持つ福岡藩の御用絵師に尾形洞霄 (1791~1863) がおり、その門人に「霄」の字をもつ絵師が複数知られている。「霄玉」も尾形家門人の一人である可能性が高い。狩野派と見られる筆致から、作者は福岡藩の御用絵師尾形家門人の絵師と考えられる。

和歌の筆者は社伝の通り大隈言道(1798~1868)と認められる。〈福岡のものは福岡の歌を詠え〉と主張した福岡を代表する歌人である。

福岡の町人たちが、おそらく福岡藩の御用絵師と歌人大隈言道に依頼して氏神である警固神社に奉納した絵馬であり、城下町福岡の貴重な資料と言うことができる。

#### 4. 板絵著色武者絵馬 種 別 有形民俗文化財

名称・員数 板絵著色武者絵馬 1面

所 在 地 福岡市西区宮浦1157

所 有 者 三所神社

享和3年(1803)、宮浦の氏神三所神社に、栄久丸・和合丸・円通丸・三立丸の船頭が奉納した、加藤清正の虎退治を画題にした絵馬である。

宮浦は五ヶ浦廻船(能古・浜崎・今津・宮浦・唐泊)基地の一つ。福岡藩の藩米を大坂や江戸に回漕して繁栄し、『筑前国続風土記附録』は、栄久丸・和合丸・円通丸は1700石積みの大船で、宮浦の船より大きな船は福岡藩にはないと言われた、と伝えている。

作者は葛飾北斎高弟の浮世絵師、柳々居辰斎(生没年未詳)。作品には絵本や読本などの挿画が多く、また北斎の影響である遠近法を取り入れた洋風版画がいくつか知られ、 合わせて100点ほどの作品が確認できる。

しかし、伝存する肉筆画は国内外に10点ほどしか確認できず、そのほとんどは国外に所蔵されるものである。国内に現存する稀少な辰斎の肉筆画作品として貴重であり、さらに成作年次の明らかな点で、辰斎の基準作品としての価値をもつものである。

北斎の高弟でありながら謎の多い辰斎の人物像に光を当てるとともに、五ヶ浦廻船の活動と繁栄を 伝える貴重な絵馬である。





1. 墨跡之冩



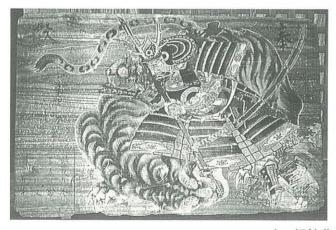


2. 奈多の志式座





3. 板絵著色三十六歌仙絵馬









4. 板絵著色武者絵馬

### 付 平成8(1996)年度刊行埋蔵文化財調査報告書一覧

第488集 「南八幡遺跡第1次・三筑遺跡第2次調査」 (7937,8019) 第489集 「諸岡B遺跡」 (7723) 第490集 「野方塚原遺跡」 (7401) 第491集 「蒲田・水ヶ元遺跡」 (7514) 第492集 「原遺跡第1次の調査」 (7505)第493集 「周船寺遺跡群2」 第8次調査の報告 (9504) 「板付周辺遺跡(17)」 板付遺跡群39次 (8140) 第494集 第495集 [三郎丸古墳群] (8016)第496集 「藤崎遺跡 | 第2次調査概要 (7721) 第497集 「金隈小津遺跡」 (7819)第498集 「福岡城跡」 福岡城中堀の調査 (9546) 第499集 「谷上B1号墳」 谷上B1号墳の重要遺跡確認調査報告 (9549) 第500集 「那珂17」 第55次、第56次調查報告 (9553·9556) 第501集 「麦野C 南八幡」 麦野C第3次調查報告 (9604) 南八幡遺跡群第8次調查報告 (9508) 第502集 「下月隈天神森IV 那珂君休V | 天神森第 4 次調查報告 (9558) 那珂君休遺跡群第6次調查報告 (9605) 第503集 「博多54」 博多遺跡群第83次調査の概要 (9344) 第504集 「カルメル修道院内遺跡 4 | 第5次調査 (9509) 第505集 「西新町遺跡6」 西新町遺跡第9次調査 (9458) 第506集 「鋤崎古墳群 2 」 鋤崎古墳群 A 群 1 ~ 3 次調査 (8726・8945・9425) 第507集 「大原D遺跡群2」 第4次調査報告 (9518) 第508集 「清末遺跡III 清末遺跡群第 4 次調查報告 (9459) 第509集 「古田遺跡」 古田遺跡第1次・第2次調査報告 (9428・9507) 第510集 「重留村下遺跡 四箇遺跡群」 重留村下遺跡群第1次 (9403) 四箇遺跡群第26次 (9456) 第511集 「大橋E遺跡4」 大橋E遺跡群第4次調査 (9547) 第512集 「有田・小田部27」 有田遺跡群第178次調査報告 (9516) 第513集 「有田・小田部28」 有田遺跡群第175次・177次・179次調査報告(9401・9422・9524) 第514集 「吉武遺跡群IX」 飯盛・吉武圃場整備関係調査報告書 3  $(8102 \cdot 8234 \cdot 8335 \cdot 8416 \cdot 8518 \cdot 8535)$ 第515集 「博多遺跡群第3次調査」 (7929) 第516集 「入部VIII 東入部遺跡群第7次調查報告(1) (9312) 第517集 「那珂君休遺跡群VI」 第5次調査報告 (9557) 第518集 「那珂18」 第50次調査の報告 (9441) 「井相田C第6次」 (9539) 第519集 第520集 「比恵23」 第54調査・第56次調査 (9443・9525) 第521集 「博多56」 第84次調査の概要 (9423)

「博多57」 第85次調査の概要 (9433)

第522集

第523集 「立花寺B遺跡」 立花寺B遺跡第1~3次調査 (9429・9511・9621) 第524集 「田村遺跡12」 第10次・17次調査報告 (8970・9358) 第525集 「那珂19 | 那珂遺跡群51~54次発掘調査報告 (9512·9513·9528·9530) 第526集 「博多58」 第86次発掘調査概報 (9436) 第527集 「野多目A遺跡4」 第4次調査報告 (9514) 第528集 「雑餉隈周辺遺跡群」 雑餉隈遺跡群6次調査(9431)南八幡遺跡7次調査(9560) 第529集 「井尻 B 遺跡 5 │ 第 6 次調査報告 (9501) 第530集 「比恵遺跡群(24)」 第57次調査報告 (8541) 第531集 「蒲田部木原 4 次」 (9517) 第532集 「博多59」 第91次・93次調査報告 (9532・9545) 第533集 「舞松原古墳群」 (9531) 「席田青木遺跡3」 第3次調査の報告 (9521) 第534集 第535集 「福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査報告-3」 次郎丸遺跡第2次調査(9303)

「福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査報告-2」 次郎丸高石遺跡第3次調査・

第537集 「大谷遺跡群」 席田大谷遺跡群 5 次調査 (9421)

第538集 「有田・小田部29」 有田遺跡第78・79次調査 (9306・9307)

第539集 「板付周辺遺跡調査報告書第18集」 F-5a区・F-5b区・F-6b区の調査 (7713・7715・7838)

第540集 「檜原遺跡」 檜原古墳群第1次・檜原遺跡第3次調査報告書 (9234)

第541集 「小葎遺跡」 大原 B 遺跡第 1 次発掘調査報告 (7616)

第542集 「橋本榎田遺跡」 (8014)

第536集

第543集 「博多60」 第1次、4次、第8次調査報告 (7810・7930・8024)

第544集 「原遺跡9」 原遺跡群第2次調査の報告 (7832)

第545集 「鴻臚館8」 平成7・8年度発掘調査概要報告 (9537・9620)

第546集 「福岡城跡」 東の丸の調査 (9451)

()内の数字は調査番号

免遺跡第2次調查 (9238・9261)

「福岡市埋蔵文化財年報 Vol,10(1995年度版)」 「福岡市埋蔵文化財分布地図(東部II)」

### 福岡市埋蔵文化財年報 Vol.11 -平成8 (1996)年度-

発 行 日 1998年3月10日

編集・発行 福岡市教育委員会埋蔵文化財課

福岡市中央区天神一丁目8-1

印刷㈱玉川印刷

福岡市中央区清川三丁目18番11号

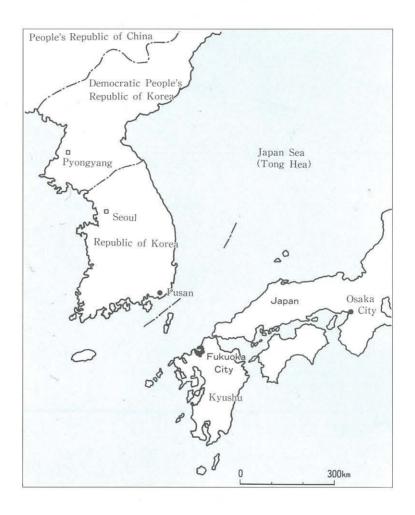
### THE ANNUAL REPORT

### OF THE

### BURIED CULTURAL RELICS OF FUKUOKA CITY

Volume 11

1996



### THE BOARDS OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

March 1998

Japan